

(別紙) 2026年度第2学期_出願対象科目一覧【放送大学埼玉学習センター(人間総合科学大学 出願用)】

履修形態 ※	科目名	科目 コード	単位	2026年度担当教員
N	AIデータ活用リテラシー(N)	B005N	1	川村春美
N	ヒューマンー人間のこころとからだ(N)	B011N	1	鍵谷方子・鈴木はる江・矢島孔明・松居靖久・小柴満美子・熊谷勝久・鈴木康弘
N	ヒューマンーいのちと健康の関係(N)	B012N	1	矢島孔明・吉田浩子・中山和久・小柴満美子・北原圭
N	ヒューマンー環境・社会といのちのつながり(N)	B013N	1	中山和久・吉田浩子・時光一郎・川村春美・北原圭・矢澤順根
N	心身健康科学ーこころとからだの健康科学(N)	B016N	1	鈴木はる江・鍵谷方子・矢島孔明・吉田浩子
N	人間行動の仕組みとこころ(N)	B104N	2	小柴満美子
N	ストレスと健康(N)	B106N	2	矢島孔明・鍵谷方子・鈴木はる江
N	人間の発達とこころ(N)	B110N	1	小柴満美子
N	こころの健康と看護(N)	B131N	1	鈴木英子
N	データ解析による心身の理解ー実践・入門(N)	B135N	2	矢澤順根
N	データ解析による心身の理解ー実践・発展(N)	B136N	2	矢澤順根
N	こころの健康と病(N)	B146N	2	鈴木康弘
N	人間関係とこころのしくみ(N)	B147N	2	鈴木康弘
S	自立活動の指導の実際 入門編(S)	B148S	1	西郷建彦
S	自立活動の指導の実際 基礎編(S)	B149S	1	西郷建彦
S	自立活動の指導の実際 展開編(S)	B150S	1	西郷建彦
S	知的障がいと自立活動の基礎(S)	B151S	1	川端陽子
S	知的障がいと自立活動の応用(S)	B152S	1	川端陽子
S	自立活動の指導の実際 生活編(S)	B153S	1	西郷建彦
N	いのちの科学(N)	B202N	2	松居靖久
N	からだの構造とはたらき(N)	B204N	2	鍵谷方子・矢島孔明
N	健康のとらえ方と健康増進(N)	B206N	2	久保田智洋
N	こころとからだのつながりと病気(N)	B208N	1	矢吹弘子
N	栄養といのちの営み(N)	B210N	1	矢島孔明
N	病気のしくみ(N)	B214N	1	渡邊成
N	内臓の調整のしくみ(N)	B220N	1	鍵谷方子・鈴木はる江
N	運動のしくみ(N)	B222N	1	鈴木はる江
N	栄養と心身の健康(N)	B230N	1	矢島孔明
N	遺伝のしくみといのち(N)	B232N	1	松居靖久・熊谷勝義
CS	教育と神経生理学(S)	B256S	1	西郷建彦
N	文明の成り立ち(N)	B302N	2	中山和久
N	異文化の理解(N)	B304N	2	中山和久
N	日本仏教(N)	B307N	1	中山和久
N	チームワーク論(N)	B337N	2	山口裕幸・矢澤順根
S	障がいの事例に応じた授業プランー肢体不自由・重度重複編(S)	B338S	1	西郷建彦
S	障がいの事例に応じた授業プランー知的障がい編(S)	B339S	1	川端陽子
N	いのちの倫理(N)	B402N	1	吉田浩子
N	共生と環境(N)	B404N	2	鍵谷方子

※ 履修形態

N：インターネット科目
S：会場スクーリング科目
CS：オンライン対面スクーリング科目(Zoom)



人間総合科学大学 シラバス
こちらのQRコードよりご確認ください。

QRコードにアクセス後、
人間科学部 心身健康科学科 > 確認事項 >
●2022年度前期入学以降対象シラバス ← こちらを選択してください
×2021年度後期入学以前対象シラバス

科目名	AIデータ活用リテラシー（N）			
サブタイトル				
対象学科	人間科学部 心身健康科学科			
担当教員	川村春美			
担当教員の 実務経験				
オフィスアワー	木曜日 13:00-15:00/本館2Fコミュニケーションラウンジまたはオンライン/MyCampusの質問箱から日時を予約してください			
配当年次	1-4	選択	単位数	インターネット履修科目：1単位
授業形態	講義			
アクティブラーニング				
授業方法	メディア授業			
資格等 関連科目				
科目コード	B005N			
科目区分	基本科目			
テキストの変更 ・改訂	なし			
使用教材	教科書	なし		
	参考書等	必要に応じて授業内で紹介する		
授業概要 (目的・ねらい)	この講義では、デジタル社会における「読み・書き・そろばん」に相当する「AI・データ活用」の基礎知識と健康・食・栄養分野における実社会での活用事例を学ぶAI・データサイエンスのリテラシー科目である。 この講義では、健康・食・栄養分野を中心にAI活用がどのように進行しているかを、動画による事例で紹介する。 また次世代の社会人として、自らがデータを扱うことも想定し、適切なデータを収集する手法、それらのデータを適切に活用する手法、そしてそれらのデータを分析するための基本的な手法について、その入り口を概観する。 さらにAI普及に伴う社会で求められる次世代の人的要件を、健康・食・栄養に係る事例の紹介を通してAIと自身自身の関わりについて自覚を促す。			
キーワード	AI／データサイエンス／DX／機械学習／ディープラーニング			
テキストの内容 及びアドバイス	授業内で興味をもったキーワード等をネット等で調べてみる			
一般目標 (GIO)	社会人としてのデータサイエンスリテラシーである、以下の事項を含む社会におけるデータ活用を理解し活用できる知識を習得する。 ・AIやデータサイエンスが、現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与し、生活と密接に結びついていることを理解する。 ・AIやデータサイエンスが、健康・食・栄養分野に広範に存在するデータを分析・活用することによって、これらの分野の課題解決のツールとして寄与しているを理解する。 ・様々な領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）で活用されているAIやデータサイエンスツールを知ることにより、これらの知見と健康・食・栄養分野でのデータ利活用を組み合わせる新たな価値を創出できることを理解する。 ・AIやデータサイエンスの技術やツールは、各分野の問題解決に万能なものではなく、その活用にあたっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮することが重要であることを理解する。			
行動目標 到達目標 (SBOs)	・現在のAIやデータ活用による社会変化と、データ活用ツールが生活に密着していることを知ることができる。 ・健康・食・栄養分野でのAIやデータ利活用の現状を理解し、どのように課題解決に寄与しているかを説明することができる。 ・様々な分野でのAIやデータサイエンスの事例から、健康・食・栄養分野でのデータ利活用に応用し新たな価値を創出することを説明できる。 ・AIやデータサイエンス技術やツールの限界や利活用の留意事項を説明できる。 ・シンギュラリティ時代の人間の役割を認識し、自分がどのようにAIと関わることができるかを説明できる。			
卒業認定・学位授与 の方針と本科目の 関連	以下の本学や保健医療学部のディプロマポリシーやカリキュラムポリシーに掲げてある目的に沿っている。 ディプロマポリシー：人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。			

	1. 全学共通のコア科目を通したリベラルアーツ教育 ・現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学ぼうとする意欲、豊かな人間性 ・社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育 ・専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ・社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、 ・AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力 カリキュラムポリシー：人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学習経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る	
ディプロマポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ▪ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学ぼうとする意欲、豊かな人間性 ▪ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育 ▪ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ▪ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。
	学科	心身健康科学学科に関連する項目 2. 専門的知識を自身や社会・職業上の問題関心と有機的に関連付けて問題を解決する能力を身につけていること 4. 現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に寄与できる能力を身につけていること
カリキュラムポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う

		5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る		
	学科	心身健康科学科に関連する項目		
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 評価は「最終レポート」（100％）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。 ただし、各時限の「確認学修」を行い、全ての時限で合格（60点以上）した者が、「最終レポート」を受験できる。 最終レポート内の「記述問題」については、以下の項目に従って評価する。 ・指定文字数に従っているか。過不足がないか。 ・誤字、脱字がないか。 ・出題内容の問い、趣旨に答えているか。 ・文章が論理的か ・専門用語を適切、正確に使用しているか。 ・常体（『である』調）で記述されているか。 ・他人のレポートをコピー＆ペーストしていないか。 ChatGPT等の生成AIで作成したレポートは受け付けない			
課題に対する フィードバック の方法	各授業直後に実施する確認問題の正答率が各授業の理解度を反映しています。確認問題は、授業内で扱ったテーマから出題されますので、全て正解となるようにしっかりと授業を聴講してください。			
スクーリング履修 における授業準備 （予習・復習）の 具体的な内容及び それに必要な時間	【予習】 各テーマのキーワードの意味を専門書やインターネットで調べておく （1コマにつき2時間程度） 【復習】 確認学修を中心に、重要ポイントを復習する。 （1コマにつき2時間程度）			
スクーリング履修 での講義内容	授業計画			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員
	第1回	AI・データ分析による社会変化と最新動向の俯瞰：AI開発の俯瞰と第1次AIブーム	データ分析の意義と活用、第1次AIブームでのAIによる社会変化 キーワード：探索と推論、ニューラルネットワーク、トイ・プロブレム	川村
	第2回	AI・データ分析による社会変化と最新動向の俯瞰：第2次&第3次AIブーム	第2次AIブームから第3次AIブームまでのAIによる社会変化 キーワード：知識表現、エキスパートシステム、機械学習、ビッグデータ	川村
	第3回	栄養・健康管理分野でのAIとデータサイエンス：導入事例を通してAI・データ活用技術と課題解決による価値の創出	栄養管理、健康管理のAI導入事例紹介 キーワード：栄養士のAIシンポジウム、栄養・健康管理ツール	川村
	第4回	食産業でのAIとデータサイエンス：導入事例を通してAI・データ活用技術と課題解決による価値の創出	食産業へのAI導入事例紹介 キーワード：スマート農業/畜産/漁業、ロボットの導入	川村
	第5回	福祉・スポーツ分野でのAIとデータサイエンス：導入事例を通してAI・データ活用技術と課題解決による価値の創出	福祉分野およびスポーツ分野のAI キーワード：アシスティブテクノロジー、動作解析、映像自動編集	川村
	第6回	医療・臨床分野でのAIとデータサイエンス：導入事例を通してAI・データ活用技術と課題解決による価値の創出	医療・臨床分野でのAI キーワード：AIホスピタル、医療画像診断、手術ロボット、VR利用	川村
	第7回	看護・介護・義肢分野でのAIとデータサイエンス：導入事例を通してAI・データ活用技術と課題解決による価値の創出	看護・介護・義肢分野でのAI キーワード：ロボットの導入、VR利用、筋電位×義手、3Dプリンタの利用	川村
	第8回	シンギュラリティ時代に向けて	シンギュラリティに向けて、人間の果たす役割、生成AIのトラブル事例 キーワード：シンギュラリティ、人間の役割、著作権侵害	川村

授業評価アンケートに基づく改善点	動画講義の中では、時間の関係で資料の中の一部の動画だけを再生し紹介します。興味のある方はURLを貼り付けているので再生して確認すること。
方略	講義では、資料の説明とビデオ教材から構成されます。講義を視聴して、AIやデータサイエンスが、各分野においてどのように活用されているのか、また技術が利用されるに至った背景を考えてみてください。
連絡事項	AIやデータサイエンスは日常生活の身近なところに利活用されているので、授業で扱った分野だけでなく、日頃から興味をもって世の中の事象を観察し、キーワードを調べてみましょう

科目名	ヒューマン－人間のこころとからだ(N)				B
サブタイトル					
対象学科	人間科学部 心身健康科学科				
担当教員	鍵谷方子（科目責任者）・鈴木はる江・矢島孔明・松居靖久・小柴満美子・熊谷勝久・鈴木康弘				
担当教員の 実務経験					
オフィスアワー	鍵谷方子：金曜日13時～17時 矢島孔明：火曜日16時30分～17時30分（蓮田キャンパス、zoom）、土曜日12時30分～13時30分（zoom） 鈴木はる江：水曜日13時～15時（ZOOM） 本館2Fコミュニケーションラウンジまたはオンライン（ZOOM）、2週間前までにUHAS@MyCampusの質問箱で 予約ください。				
配当年次	1-3	必修	単位数	インターネット授業履修：1単位	
授業形態	講義				
アクティブラーニング					
授業方法	メディア授業				
資格等 関連科目	心身健康アドバイザー				
科目コード	B011N				
科目区分	コア科目				
テキストの変更 ・改訂	2022年度からの変更・改訂： なし				
使用教材	教科書	『ヒューマン 私たち人類の壮大な物語―生命誕生から人間の未来までを見ずえる統合科学』、久住眞理・久住武著「人間総合科学大学」、2018年、第1版 本科目では、第1章、第2章の内容を中心に扱う。			
授業概要 (目的・ねらい)	テキスト「ヒューマン」では、人間をこころ・からだ・文化の面から追求し、学際的・科学的に探究する「人間総合科学」の本質を学べるよう、生命誕生から未来社会の人類の存在まで展望した広範な課題が解説されている。人間・生命の本質の統合理解をもとに、各自が「よりよく生きるための知恵」を育むこと目指している。 本科目では、第1章人間そのものに学ぶ統合科学の新たな視点、第2章人間の「こころ」と「からだ」の統合理解について学ぶ。具体的には、生命・生命活動の基本を理解したうえで、脳の発達に伴い共感システムを育んできた人間がストレスを乗り越えて進化してきたことを学ぶ。「こころ」と「からだ」がつながりつつ生涯にわたって発達・変化してく特徴を理解する。				
キーワード	心身相関／遺伝子／心身の発達／心身の健康／ストレス				
テキストの内容 及びアドバイス	第1章 人間そのものに学ぶ統合科学の新たな視点 こころ、からだ、文化・社会から人間を理解する人間総合科学の視点を学ぶ。また生命の仕組みについて、DNA、ゲノム、細胞の特徴、ホメオスタシスやエピジェネティックスなどの生命活動の仕組みを学ぶ。 第2章 人間の「こころ」と「からだ」の統合理解 人間の脳と共感システムの発達、ストレスを乗り越えてきた心身の仕組み、乳幼児期の触れ合いの重要性について学ぶ。 インターネット授業では、テキストの重要ポイントを取り上げつつそこから発展した内容についても解説する。第1章、第2章の重要語を把握しておくこと。				
一般目標 (GIO)	激動するストレス社会で力強く生きていくために、人間の特徴を理解して、心身の健康を維持する知恵を養う。				
行動目標 到達目標 (SBOs)	1. 人間の脳の特異性を説明できる。 2. 心身相関の仕組みを説明できる。 3. 心身相関の現象例を列挙できる。 4. ストレス対処の方法を列挙できる。 5. 遺伝子の働きがどのように調節されているか概説できる。 6. ホメオスタシスについて説明できる。 7. アロスタシスについて説明できる。 8. 人間の社会性と共感性の関連について説明できる。				

	9. 心身の健康を保つための栄養の働きを説明できる。 10. 人間理解の知識を生きる知恵へつなげることができる。	
卒業認定・学位授与の方針と本科目の関連	本科目の学修を通して、人間「こころ」と「からだ」のつながりについて、学際的・総合的な知識を身につけ、心身ともに健康で充実した生き方を展望できる洞察力を養う。	
ディプロマポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学ぼうとする意欲、豊かな人間性 ■ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育 ■ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。
	学科	心身健康科学科に関連する項目 2. 専門的知識を自身や社会・職業上の問題関心と有機的に関連付けて問題を解決する能力を身につけていること 4. 現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に寄与できる能力を身につけていること
カリキュラムポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学科	心身健康科学科に関連する項目
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 評価は「最終レポート」（100%）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。 ただし、各時限の「確認学修」を行い、全ての時限で合格（60点以上）した者が、「最終レポート」を受験できる。 最終レポート内の「記述問題」については、以下の項目に従って評価する。 ・指定文字数に従っているか。	

	・誤字、脱字がないか。 ・出題内容の問いに答えているか。 ・文章が論理的か ・専門用語を適切、正確に使用しているか。 ・常体（『である』調）で記述されているか。 ・他人のレポートをコピー＆ペーストしていないか。 ・本学独自の科目であり、ChatGPT等の生成AIの利活用は不可。			
課題に対する フィードバック の方法	各時限の確認問題合格時に、解答・解説を提示する。			
スクーリング履修 における授業準備 （予習・復習）の 具体的な内容及び それに必要な時間	【予習】 テキストの第1章、第2章にひととおり目を通しておき、テキストとの関連性を理解しながら視聴する。（各時限ごと に2時間程度） 【復習】 インターネット授業の内容を整理し、ヒューマンの他の科目との関連も考察して今後の学修に活かす。（各時限ごと に2時間程度）			
スクーリング履修 での講義内容	授業計画			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員
	1時限	人類進化と人間の特徴の理解	人類進化と脳の発達、こころを持つ人間の特徴を学ぶ。 人類／進化／脳／人間の特異性	松居
	2時限	心身相関とストレス対処	心身相関、ストレスの仕組みと対処について学ぶ。 心身相関／ストレス／ストレス対処／運動／触刺激／マッサージ	鈴木
	3時限	心身を支える生命活動と健康	心身の健康を維持する生体内の仕組みを学ぶ。 ホメオスタシス／アロスタシス／自己組織化／自律神経系／ホルモン系／適応／触れ合い	鍵谷
	4時限	細胞がつくる“いのち”	ゲノムと生命システムから“いのち”の仕組みを学ぶ。 細胞／ゲノム／分化／エピジェネティクス／遺伝子制御／ホメオスタシス／再生医療／環境応答	熊谷
	5時限	人間総合科学の基礎となる「こころ」の理解	ヒューマンを理解するための「こころ」の支援を学ぶ。 カウンセリング／こころの科学と検査／人間関係論／情動／睡眠衛生指導／現代家族論／うつ病	鈴木康弘
	6時限	人間の社会性の発達	共感性を軸に人間の社会性の発達について学習する。 模倣・ミラーニューロン／自他分離／共感性／向社会性／互惠／利己と利他／同世代と異世代／発達障害	小柴
	7時限	栄養からヒューマンを捉える	栄養の重要性と脳と腸の関連性を学ぶ。 栄養と感覚／腸内フローラ／脳腸相関／遺伝的多型	矢島
	8時限	人間の特徴の理解からより良く生きる知恵へ	人間の特徴を振り返り、統合的に人間を捉える。 人間／こころと身体／より良く生きる知恵／統合的視点	松居、鈴木はる江、鍵谷、矢島、小柴、熊谷、鈴木康弘

授業評価アンケートに基づく改善点	マイキャンパスの「質問箱」へ寄せられた質問へ、各時限の担当教員が1週間以内に返答するようにします。質問する際には、何時限目への質問か、あるいはどの教員への質問か、を質問箱の最初に記載願います。
方略	インターネット講義の重要ポイントをノートに取り、テキストや参考書で復習する。
連絡事項	

科目名	ヒューマン－人間のこころとからだ(N)				B
サブタイトル					
対象学科	人間科学部 心身健康科学科				
担当教員	鍵谷方子（科目責任者）・鈴木はる江・矢島孔明・松居靖久・小柴満美子・熊谷勝久・鈴木康弘				
担当教員の 実務経験					
オフィスアワー	鍵谷方子：金曜日13時～17時 矢島孔明：火曜日16時30分～17時30分（蓮田キャンパス、zoom）、土曜日12時30分～13時30分（zoom） 鈴木はる江：水曜日13時～15時（ZOOM） 本館2Fコミュニケーションラウンジまたはオンライン（ZOOM）、2週間前までにUHAS@MyCampusの質問箱で 予約ください。				
配当年次	1-3	必修	単位数	インターネット授業履修：1単位	
授業形態	講義				
アクティブラーニング					
授業方法	メディア授業				
資格等 関連科目	心身健康アドバイザー				
科目コード	B011N				
科目区分	コア科目				
テキストの変更 ・改訂	2022年度からの変更・改訂： なし				
使用教材	教科書	『ヒューマン 私たち人類の壮大な物語―生命誕生から人間の未来までを見ずえる統合科学』、久住眞理・久住武著「人間総合科学大学」、2018年、第1版 本科目では、第1章、第2章の内容を中心に扱う。			
授業概要 (目的・ねらい)	テキスト「ヒューマン」では、人間をこころ・からだ・文化の面から追求し、学際的・科学的に探究する「人間総合科学」の本質を学べるよう、生命誕生から未来社会の人類の存在まで展望した広範な課題が解説されている。人間・生命の本質の統合理解をもとに、各自が「よりよく生きるための知恵」を育むこと目指している。 本科目では、第1章人間そのものに学ぶ統合科学の新たな視点、第2章人間の「こころ」と「からだ」の統合理解について学ぶ。具体的には、生命・生命活動の基本を理解したうえで、脳の発達に伴い共感システムを育んできた人間がストレスを乗り越えて進化してきたことを学ぶ。「こころ」と「からだ」がつながりつつ生涯にわたって発達・変化してく特徴を理解する。				
キーワード	心身相関／遺伝子／心身の発達／心身の健康／ストレス				
テキストの内容 及びアドバイス	第1章 人間そのものに学ぶ統合科学の新たな視点 こころ、からだ、文化・社会から人間を理解する人間総合科学の視点を学ぶ。また生命の仕組みについて、DNA、ゲノム、細胞の特徴、ホメオスタシスやエピジェネティックスなどの生命活動の仕組みを学ぶ。 第2章 人間の「こころ」と「からだ」の統合理解 人間の脳と共感システムの発達、ストレスを乗り越えてきた心身の仕組み、乳幼児期の触れ合いの重要性について学ぶ。 インターネット授業では、テキストの重要ポイントを取り上げつつそこから発展した内容についても解説する。第1章、第2章の重要語を把握しておくこと。				
一般目標 (GIO)	激動するストレス社会で力強く生きていくために、人間の特徴を理解して、心身の健康を維持する知恵を養う。				
行動目標 到達目標 (SBOs)	1. 人間の脳の特異性を説明できる。 2. 心身相関の仕組みを説明できる。 3. 心身相関の現象例を列挙できる。 4. ストレス対処の方法を列挙できる。 5. 遺伝子の働きがどのように調節されているか概説できる。 6. ホメオスタシスについて説明できる。 7. アロスタシスについて説明できる。 8. 人間の社会性と共感性の関連について説明できる。				

	9. 心身の健康を保つための栄養の働きを説明できる。 10. 人間理解の知識を生きる知恵へつなげることができる。	
卒業認定・学位授与の方針と本科目の関連	本科目の学修を通して、人間「こころ」と「からだ」のつながりについて、学際的・総合的な知識を身につけ、心身ともに健康で充実した生き方を展望できる洞察力を養う。	
ディプロマポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学ぼうとする意欲、豊かな人間性 ■ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育 ■ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。
	学科	心身健康科学科に関連する項目 2. 専門的知識を自身や社会・職業上の問題関心と有機的に関連付けて問題を解決する能力を身につけていること 4. 現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に寄与できる能力を身につけていること
カリキュラムポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学科	心身健康科学科に関連する項目
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 評価は「最終レポート」（100%）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。 ただし、各時限の「確認学修」を行い、全ての時限で合格（60点以上）した者が、「最終レポート」を受験できる。 最終レポート内の「記述問題」については、以下の項目に従って評価する。 ・ 指定文字数に従っているか。	

	・誤字、脱字がないか。 ・出題内容の問いに答えているか。 ・文章が論理的か ・専門用語を適切、正確に使用しているか。 ・常体（『である』調）で記述されているか。 ・他人のレポートをコピー＆ペーストしていないか。 ・本学独自の科目であり、ChatGPT等の生成AIの利活用は不可。			
課題に対する フィードバック の方法	各時限の確認問題合格時に、解答・解説を提示する。			
スクーリング履修 における授業準備 （予習・復習）の 具体的な内容及び それに必要な時間	【予習】 テキストの第1章、第2章にひととおり目を通しておき、テキストとの関連性を理解しながら視聴する。（各時限ごと に2時間程度） 【復習】 インターネット授業の内容を整理し、ヒューマンの他の科目との関連も考察して今後の学修に活かす。（各時限ごと に2時間程度）			
スクーリング履修 での講義内容	授業計画			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員
	1時限	人類進化と人間の特徴の理解	人類進化と脳の発達、こころを持つ人間の特徴を学ぶ。 人類／進化／脳／人間の特異性	松居
	2時限	心身相関とストレス対処	心身相関、ストレスの仕組みと対処について学ぶ。 心身相関／ストレス／ストレス対処／運動／触刺激／マッサージ	鈴木
	3時限	心身を支える生命活動と健康	心身の健康を維持する生体内の仕組みを学ぶ。 ホメオスタシス／アロスタシス／自己組織化／自律神経系／ホルモン系／適応／触れ合い	鍵谷
	4時限	細胞がつくる“いのち”	ゲノムと生命システムから“いのち”の仕組みを学ぶ。 細胞／ゲノム／分化／エピジェネティクス／遺伝子制御／ホメオスタシス／再生医療／環境応答	熊谷
	5時限	人間総合科学の基礎となる「こころ」の理解	ヒューマンを理解するための「こころ」の支援を学ぶ。 カウンセリング／こころの科学と検査／人間関係論／情動／睡眠衛生指導／現代家族論／うつ病	鈴木康弘
	6時限	人間の社会性の発達	共感性を軸に人間の社会性の発達について学習する。 模倣・ミラーニューロン／自他分離／共感性／向社会性／互惠／利己と利他／同世代と異世代／発達障害	小柴
	7時限	栄養からヒューマンを捉える	栄養の重要性と脳と腸の関連性を学ぶ。 栄養と感覚／腸内フローラ／脳腸相関／遺伝的多型	矢島
	8時限	人間の特徴の理解からより良く生きる知恵へ	人間の特徴を振り返り、統合的に人間を捉える。 人間／こころと身体／より良く生きる知恵／統合的視点	松居、鈴木はる江、鍵谷、矢島、小柴、熊谷、鈴木康弘

授業評価アンケートに基づく改善点	マイキャンパスの「質問箱」へ寄せられた質問へ、各時限の担当教員が1週間以内に返答するようにします。質問する際には、何時限目への質問か、あるいはどの教員への質問か、を質問箱の最初に記載願います。
方略	インターネット講義の重要ポイントをノートに取り、テキストや参考書で復習する。
連絡事項	

科目名	ヒューマン—環境・社会といのちのつながり(N)				B
サブタイトル					
対象学科	人間科学部 心身健康科学科				
担当教員	中山和久（科目責任者）・吉田浩子・時光一郎・川村春美・北原圭・矢澤順根				
担当教員の 実務経験					
オフィスアワー	中山和久：水・金・土曜日 10:30～16:30 蓮田キャンパス 吉田浩子：火曜日 9時～16時 オンライン、電話、対面のいずれかの方法で行います。予約は先着順です。 北原圭：金曜日 10:30～16:30 蓮田キャンパス 時光一郎：水曜日13:10-16:20 オンライン・蓮田キャンパス 川村春美：木曜日 13-15時 オンライン・蓮田キャンパス 矢澤順根：水曜日 10:30～16:30 蓮田キャンパス ＊以上、面談はオンライン・電話・対面のいずれについても、全てUHAS@Myキャンパス「質問箱」から申し込んでください。				
配当年次	1-3	必修	単位数	インターネット授業履修：1単位/	
授業形態	講義				
アクティブラーニング					
授業方法	メディア授業				
資格等 関連科目					
科目コード	B013N				
科目区分	コア科目				
テキストの変更 ・改訂	2022年度からの変更・改訂： なし				
使用教材	教科書	『ヒューマン 私たち人類の壮大な物語—生命誕生から人間の未来までを見ずえる統合科学』（本学オリジナルテキスト）、久住真理／久住武 本科目では、第3章の内容を中心に扱う。			
授業概要 (目的・ねらい)	テキスト「ヒューマン」では、人間をこころ・からだ・文化の面から追求し、学際的・科学的に探究する「人間総合科学」の本質を学べるよう、生命誕生から未来社会の人類の存在まで展望した広範な課題が解説されている。人間・生命の本質の統合理解をもとに、各自が「よりよく生きるための知恵」を育むこと目指している。 本科目では、第3章人間らしさを育んできた「環境・社会」の統合理解について学ぶ。具体的には、人類の進化、集団・家族から社会形成への流れ、文明と宗教の誕生、芸術の起源、個人行動と社会制度やコミュニケーション手段について学び、文化の系譜の多様性について理解する。				
キーワード	化石人類／集団／社会／集会的無意識／宗教／仏教／文化／多様性／認知／コミュニケーション／AI				
テキストの内容 及びアドバイス	テキストでは、人類の進化、集団・家族・社会を形成した経緯、ならびに宗教、芸術、文明の起源、個人行動と社会制度やコミュニケーション手段、さらに技術革新について記述されている。 インターネット授業では、人類進化の歴史に沿ってテキストの重要ポイントを取り上げ、さまざまな角度から議論を深めたり新たな解説を加えている。第3章の流れを把握しておくこと。				
一般目標 (GIO)	人類の歴史を「文化」・「社会」の視点を通して学び、人間に対する総合的理解を深める。				
行動目標 到達目標 (SBOs)	1．化石人類の進化の概要を説明できる 2．科学とは何かについて、宗教と比較しながら説明できる 3．文化とは何か、文化の重層性に着目して説明できる 4．人間がどのように文化、文明、宗教を生み出してきたか説明できる 5．世界の宗教、北伝仏教、南伝仏教について概要を説明できる 6．認知と言語の働きから、コミュニケーションの特徴を説明できる 7．人間の文明の進化やAIの流れを説明できる 8．文化や社会を形作ってきた人間を人類史の視点から理解する				

卒業認定・学位授与の方針と本科目の関連	本科目の学修を通して、人類がどのように社会・文化を築いてきたかの歴史について、学際的・総合的な知識を身につけ、心身ともに健康で充実した生き方を展望できる洞察力を養う。	
ディプロマポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学ぼうとする意欲、豊かな人間性 ■ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育 ■ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。
	学科	心身健康科学科に関連する項目 2. 専門的知識を自身や社会・職業上の問題関心と有機的に関連付けて問題を解決する能力を身につけていること 4. 現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に寄与できる能力を身につけていること
カリキュラムポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学科	心身健康科学科に関連する項目
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 評価は「最終レポート」（100％）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。 ただし、各時限の「確認学修」を行い、全ての時限で合格（60点以上）した者が、「最終レポート」を受験できる。 最終レポート内の「記述問題」については、以下の項目に従って評価する。 ・指定文字数に従っているか。過不足がないか。 ・誤字、脱字がないか。 ・出題内容の問い、趣旨に答えているか。	

	・文章が論理的か ・専門用語を適切、正確に使用しているか。 ・常体（『である』調）で記述されているか。 ・他人のレポートをコピー＆ペーストしていないか。 なお、生成AIの利用は自由であるが、教科書に沿っていない内容は評価の対象とはならないので注意すること。			
課題に対するフィードバックの方法	各時限の確認問題合格時に、解答・解説を提示する。			
スクーリング履修における授業準備（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間	【予習】 テキストの第3章に一通り目を通しておき、テキストとの関連性を理解しながら視聴する。（1コマにつき2時間程度） 【復習】 インターネット授業の内容を整理し、必修科目のヒューマンⅠ、Ⅱ、Ⅴとの関連も考察して今後の学修に活かす。（1コマにつき2時間程度）			
スクーリング履修での講義内容	授業計画			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員
	1時限	化石人類の系譜	化石、化石人類、人類進化	吉田浩子
	2時限	科学とは何か、エビデンスとは何か、論文とは何か	科学、エビデンス、論文、ES細胞とiPS細胞	北原圭
	3時限	農耕文化・食文化から見た日本文化の特徴を学ぶ	風土と文化、農耕、料理、照葉樹林文化	時光一郎
	4時限	文化と社会と宗教の関係を学ぶ	文化、社会、文明、宗教、仏教	中山和久
	5時限	宗教と人間	世界宗教、民族宗教、イスラム教、北伝仏教、南伝仏教	中山和久
	6時限	認知とコミュニケーション	認知、コミュニケーション、言語、継承	矢澤順根
	7時限	文明の進化とAI	産業革命、文明、制度、AI、人工知能	川村春美
	8時限	総合討論から人類が築き継承してきた文化の相互関係について学ぶ	継承という視点から人類の歴史を語る	担当教員全員
授業評価アンケートに基づく改善点	授業満足度がやや低かったので、より多くの先生の意見を盛り込む工夫をします。			
方略	教科書の中で重要となる概念や知識をテキスト課題の学修やVOD視聴を通して理解する。難解と感じる箇所については担当教員に質問をして理解を深める。			
連絡事項				

科目名	心身健康科学—こころとからだの健康科学(N)				B
サブタイトル					
対象学科	人間科学部 心身健康科学科				
担当教員	矢島孔明（科目責任者）・鍵谷方子・鈴木はる江・吉田浩子・渡辺久美				
担当教員の 実務経験					
オフィスアワー	鍵谷方子：金曜日13時～17時 矢島孔明：火曜日16時30分～17時30分（蓮田キャンパス、zoom）、土曜日12時30分～13時30分（zoom） 吉田浩子：火曜日10:00～16:00 鈴木はる江：水曜日13時～15時（ZOOM） 本館2Fコミュニケーションラウンジまたはオンライン（ZOOM）、2週間前までにUHAS@MyCampusの質問箱で 予約ください。				
配当年次	1-3	必修	単位数	インターネット授業履修：1単位	
授業形態	講義				
アクティブラーニング					
授業方法	メディア授業				
資格等 関連科目	心身健康アドバイザー、ストレスマネジメント・プログラム～こころとからだの健康科学				
科目コード	B016N				
科目区分	コア科目				
テキストの変更 ・改訂	2022年度からの変更・改訂： なし				
使用教材	教科書	『かがやく生き方 心身健康科学』、久住眞理・久住武監修、「人間総合科学大学」、2020年、第3版			
授業概要 (目的・ねらい)	心身健康科学とは、人間が「よりよく生きる」ための知恵を創りだすために、「心身相関」をキーコンセプトとして、「学際的・統合的」なアプローチによって「健康科学」の領域を専門的に研究しようとする領域である。新しい学問領域であるが、本学大学院の課程（心身健康科学専攻）の中心に位置する研究領域でもあり、「人間総合科学」とも密接なつながりを持つ。 本科目では、心身健康科学の特徴である、人間のこころとからだの有機的関連性「心身相関」の科学的基礎を学ぶとともに、人間の心身の発達や健康維持に必要な事柄を理解して、自らの「よりよく生きる知恵」を考察する。				
キーワード	心身健康科学／心身相関／脳とこころ／ストレス／生命文化／生涯発達／よりよく生きる				
テキストの内容 及びアドバイス	心身健康科学の一つ目のポイントは、「こころ」と「からだ」の有機的関連性（心身相関）の解明である。私たちは「からだ」に何らかのトラブルを抱えたとしても、「こころ」までこの問題を波及させてはならない。逆に「こころ」が病んでいるからといって、「からだ」まで傷めることがあってはならない。心身相関の法則性を科学的・客観的に理解して、自らの意志によって心身のバランスを維持することで、より賢く生きることができる。 二つ目のポイントは、心身健康科学が「統合科学」であるという点である。人類が抱える諸問題を解決するには、高度に細分化・専門化された学問や研究の諸分野を広い視野で統合して、人間の生命の本質に迫ることが求められる。ライフサイエンスや脳科学などの最先端の学際領域も含めて、人間に関する諸科学を統合する視点が重要となる。 三つ目のポイントは、心身健康科学の知見は人々の「よりよい生」に資するという点である。健康教育やヘルスプロモーションなどを通して、学問の知識が「生活者の知恵」となり、学問成果を広く生活レベルに浸透させることが求められる。これによって、私たちは自らの人生をプロモートし、明日を生きる知恵と力を身につけることができるようになるであろう。 第1章 心身健康科学のめざすもの 第2章 心身相関の基礎 第3章 心身の相関性を理解する 第4章 心身健康科学の展開				
一般目標 (GIO)	心身の健康を維持して活力ある人生を過ごすために、心身相関を科学的に探究する心身健康科学を理解し、その知識を生きる知恵として活用できる。				
行動目標 到達目標 (SBOs)	1. 心身健康科学の特徴を説明できる。 2. 心身相関の科学的仕組みを説明できる。 3. 心身相関の基盤となる神経細胞、脳の仕組みの基本を説明できる。 4. 免疫担当細胞の働きとストレスの関係について説明できる。				

	5. 生命文化と心身健康科学の関連を説明できる。 6. 女性のライフサイクルに伴う心身の特徴を説明できる。 7. 高齢者の心身の特徴と健康維持のための注意点を説明できる。 8. 心身健康科学の学びを、実際の生活の場に応用することができる。	
卒業認定・学位授与の方針と本科目の関連	本科目の学修を通して、人間の心身健康にかかわる学際的・総合的な知識を身につける。現代社会と人間に関心を持ち、心身ともに健康で豊かに暮らすことのできる社会構築に向けた洞察力を養う。	
ディプロマポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学ぼうとする意欲、豊かな人間性 ■ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育 ■ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。
	学科	心身健康科学科に関連する項目 2. 専門的知識を自身や社会・職業上の問題関心と有機的に関連付けて問題を解決する能力を身につけていること 3. 「こころ」「からだ」「環境・社会」の統合的・学際的な知識を持っていること 4. 現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に寄与できる能力を身につけていること
カリキュラムポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学科	心身健康科学科に関連する項目
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 評価は「最終レポート」（100%）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。ただし、各時限の「確認学	

	修」を行い、全ての時限で合格（60点以上）した者が、「最終レポート」を受験できる。 最終レポート内の「記述問題」については、以下の項目に従って評価する。 ・ 指定文字数に従っているか。 ・ 誤字、脱字がないか。 ・ 出題内容の問いに答えているか。 ・ 文章が論理的か ・ 専門用語を適切、正確に使用しているか。 ・ 常体（『である』調）で記述されているか。 ・ 他人のレポートをコピー＆ペーストしていないか。 ・ 本学独自の科目であり、ChatGPT等の生成AIの利活用は不可。			
課題に対する フィードバック の方法	各時限の確認問題合格時に、解答・解説を提示する。			
スクーリング履修 における授業準備 （予習・復習）の 具体的な内容及び それに必要な時間	【予習】 テキストにひととおり目を通しておき、テキストとの関連性を理解しながら視聴する。(各時限ごとに2時間程度) 【復習】 インターネット授業の内容を整理し、心身健康科学－こころとからだの健康科学（Ｔ）、心身健康科学－いのちの運用論（Ｔ）との関連も考察して今後の学修に活かす。(各時限ごとに2時間程度)			
スクーリング履修 での講義内容	授業計画			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員
	1時限	心身健康科学の理解	心身健康科学と心身相関の意味を理解し、 脳と身体の相互関係を学ぶ。 心身健康科学／心身相関／脳・神経系／脳 と身体 of 相互作用	鈴木
	2時限	心身相関の理解から生きる知恵へ	心身相関の基本である感覚と情動の仕組み やストレスについて学び、ストレス対処を 考える。 感覚と認識／情動／ストレス／ストレス対 処	鈴木
	3時限	脳・神経系と心身相関	脳の発達と神経細胞の特徴を学ぶ。 脳の発達／神経細胞／シナプス／ネットワ ーク	小岩
	4時限	免疫系と心身相関	免疫系の特徴とストレスの影響を学ぶ。 免疫担当細胞／NK細胞／ストレス	鍵谷
	5時限	生命文化と心身健康科学	生命文化と心身健康科学の関連を学ぶ。 生命文化／人間の自然科学的理解／生命倫 理	吉田
	6時限	女性のライフサイクルと心身の健康	ライフサイクルに伴う心身の変化について 学ぶ。 ライフサイクル／生涯発達／内部環境、性 ホルモン／更年期	鍵谷
	7時限	サクセスフルエイジングと心身健康科学	栄養の役割と老化について学ぶ。 栄養・栄養素／老化／フレイル	矢島
	8時限	総合討論とまとめ	心身健康科学の理解からよりよく生きる知 恵への発展を考える。 心身健康科学の特徴／よりよく生きる知恵	鈴木、小 岩、鍵谷、 吉田、矢島
授業評価アンケートに基づく改善点	マイキャンパスの「質問箱」へ寄せられた質問へ、各時限の担当教員が1週間以内に返答するようにします。質問する際には、何時限目への質問か、あるいはどの教員への質問か、を最初に記載願います。			
方略	インターネット講義の重要ポイントをノートに取り、テキストや参考書で復習する。			
連絡事項				

科目名	人間行動の仕組みとところ（T）／人間行動の仕組みとところ（N）				B
サブタイトル					
対象学科	人間科学部 心身健康科学科				
担当教員	小柴満美子				
担当教員の 実務経験					
オフィスアワー	Uhas@myキャンパスからご連絡ください。				
配当年次	1－4	選択	単位数	テキスト履修 T：2単位 / インターネット授業履修 N：2単位	
授業形態	講義				
アクティブラーニング					
授業方法	メディア授業 印刷授業				
資格等 関連科目	【B103T】：認定心理士、【B104N】：認定心理士、ストレスマネジメント・プログラム～こころとからだの健康科学～				
科目コード	B103T / B104N				
科目区分	こころとからだの関係				
テキストの変更 ・改訂	2024年度から変更なし				
使用教材	教科書	『行動科学概論』久住眞理（監修）、筒井末春・大谷純（著）、人間総合科学大学、2013年、2000円＋税			
	参考書等	『はじめて出会う心理学（第3版）』長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行（著）、有斐閣、2020年、2,000円＋税 『進化と人間行動（第2版）』長谷川寿一・長谷川眞理子・大槻久（著）、東京大学出版会、2022年、2,500円＋税			
授業概要 (目的・ねらい)	行動科学の概論として位置付けられる科目である。人間・ヒトの行動とところについて、生物学、心理学、人類学、社会学、健康科学、医学といった幅広い分野の知見から説明する。神経や生理といったミクロな視点と、社会や文化や進化といったマクロな視点の双方から、行動とところの仕組みや機能について解説する。行動とところについて、統合的に理解するとはどういうことか、科学的に研究するとはどういうことかについても、考察するきっかけを提供する。				
キーワード	生物学 / 心理学 / 社会 / 文化 / 進化				
テキストの内容 及びアドバイス	教科書の目次は以下の通り。 第1章 人間理解としての心理学 第2章 行動の生物科学 第3章 個人行動の理解 第4章 ライフスタイルと発達心理学 第5章 対人行動と社会行動の理解 第6章 人間行動の文化・社会的側面 第7章 行動医学と心身医学 第8章 行動医学療法 テキスト履修（T）とスクーリング履修（N）では、学修内容が一部異なる。スクーリングでは、教科書の内容を踏まえつつも内容を選択したり、強弱を付けたり、順番を変更したりする。授業で講義するが教科書では扱われていない内容については、参考書で補足することになる。参考書の購入は必須ではないので、授業を受講しつつ各自で必要性を判断すること。				
一般目標 （GIO）	日常生活で見られる我々の営みについて、生物学や心理学の知見に基づき考察することができるようになるために、人間の行動とところを科学的に理解する。				
行動目標 到達目標 （SBOs）	1 行動科学における基礎的な理論（学習理論、発達理論等）を説明することができる。 2 行動科学に関する応用的な側面（進化的側面、医療的側面等）を説明することができる。 3 行動やこころの仕組みについて説明することができる。 4 行動やこころの機能について説明することができる。 5 至近要因と究極要因の違いと関連性について説明することができる。 6 行動とこころの関連性から心身相関について考察する。 7 行動とところについて科学的に議論する。				

	8 行動とところに関する社会的な課題について考察する。 9 行動とところに関する社会的な課題について自身の考えを述べることができる。 10 行動科学に関する最新の研究論文にアクセスすることができる。	
卒業認定・学位授与の方針と本科目の関連	人間と社会に関する総合的知識を身につけるための基本的な科目である。現代社会における人間の営みに関心をもち、心身の健康を科学的に洞察する力を養うことを目指す。	
ディプロマポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学習意欲、豊かな人間性 ■ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育 ■ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。
	学科	心身健康科学科に関連する項目 2. 専門的知識を自身や社会・職業上の問題関心と有機的に関連付けて問題を解決する能力を身につけていること 3. 「こころ」「からだ」「環境・社会」の統合的・学際的な知識を持っていること
カリキュラムポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学科	心身健康科学科に関連する項目
評価方法・基準	評価基準は、人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 【テキスト履修 T】 評価は「科目修了試験」（100％）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。ただし、「テキスト課題」に合格（60点以上）した者が「科目修了試験」を受験できる。 【インターネット授業履修 N】 評価は「最終レポート」（100％）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。ただし、各時限の「確認学修」を行い、すべての時限で合格した者が「最終レポート」を提出できる。	

	試験・レポートの「記述問題」については、以下の項目に従って評価する。 ・指定文字数に従っているか。過不足がないか。 ・出題内容の問い、趣旨に答えているか。 ・専門用語を適切、正確に使用しているか。 ・文章が論理的か。 ・誤字、脱字がないか。 ・常体（「である」調）で記述されているか。 ・参考文献、引用文献の出典を適切に示しているか。 ・他人のレポートをコピー＆ペーストしていないか。 答案の作成にあたっては、以下の点を特に意識すること。 ・指定された文字数を大幅に下回ることがないようにすること。 ・設問をよく読み、指定された内容をすべて含めること（例：AとBについて説明せよ → AとBの両方を説明する）。 ・本科目の教科書や参考書であっても、引用した場合は出典を明記すること。 科目修了試験（テキスト履修 T）については、トライアル（デモ試験）を活用し、システムの操作に十分慣れておくことも勧める。 ChatGPT等の生成AIの使用は可とするが、以下の注意事項を厳守すること。 ・生成AIが出力したテキストをそのまま引用するのではなく、他の方法で調べた情報や自分の考えも加えること。 ・生成AIの種類（GhatGPT、Gemini等）、設定したプロンプト、使用した箇所を明記すること。これらの情報は、回答の文字数には含めない。			
課題に対する フィードバック の方法	テキスト履修 T：テキスト課題合格時に、「解答・解説」を表示する。 インターネット授業履修 N：各時限の確認学修の正答率が、授業内容の理解度を反映している。必要な復習を行うこと。			
スクーリング履修 における授業準備 （予習・復習）の 具体的な内容及び それに必要な時間	【予習】 教科書を精読して各章の概要を理解しておく。キーワードについて教科書で確認しておく。行動目標を念頭に置いて予習を進める。（1時限につき2時間程度） 【復習】 各時限の内容を、教科書、参考書、配布資料等に基づき自分なりに整理し直す。（1時限につき2時間程度）			
スクーリング履修 での講義内容	授業計画			
	時限をまとめているものは、各回の内容が特に密接に関連していることを意味する。			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員
	1－3時限	行動とところ、心理学・行動学の歴史、科学とは何か、研究の手法とアプローチ、生物学の基礎、について理解を深める。 （教科書の第1章）	心理学、行動主義、心身相関、研究法、至近要因・究極要因、進化生物学	
	4－5時限	行動の生理学的なメカニズムについて理解を深める。 （教科書の第2章）	神経、脳、行動の発現、ホルモン、ストレス、比較行動学	
	6－7時限	個人行動を理解するための基礎理論について理解を深める。 （教科書の第3章）	動機づけ、情動、パーソナリティ、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、社会学習、認知科学	
	8－9時限	発達理論について理解を深める。 （教科書の第4章）	発達曲線、発達段階、青年期、老年期、生涯発達、遺伝と環境、発達障害、縦断調査、親子関係	
	10－13 時限	対人行動と社会行動、行動の文化・社会的側面について理解を深める。 （教科書の第5・6章）	コミュニケーション、言語、家族、結婚・離婚、少子化、児童虐待、自殺、協力、社会心理学、性	
	14時限	保健行動、行動医学、行動療法について理解を深める。 （教科書の第7・8章）	ヘルスケアシステム、学習理論、行動随伴性、バイオフィードバック、行動分析	
	15時限	振り返り、まとめ（ヒトの行動と現代社会の課題についての考察）。	少子化、児童虐待、自殺、科学と社会、行動とところ、人間総合科学、心身健康科学	
授業評価アンケートに基づく改善点	・配布資料が多いため、その取り扱いが難しいとの意見が寄せられた。そこで、活用方法についての説明を補った（N）。 ・「正解」がないような問いについて、自分自身で科学的に考えることの重要性を説いているが、その意図や意義が十分に伝わらないこともあった。次回の収録時には、より丁寧な説明を行う（N）。 ・学修の理解度や到達度をより適切に評価することができるように、科目修了試験と最終レポートの内容を調整した（T/N）。			

	・教科書の内容について、学生が積極的に学修を深めている状況である。そこで、マナビやインターネット授業で近年の動向についての補足説明を加え、最新の状況にも目を向けてもらいやすいようにしている（T/N）。 ・テキスト履修とインターネット授業履修を組み合わせると、科目の内容をより理解しやすくなるとのことであった。履修形態間の連動を意識して、学修に対するアドバイスや質問への回答を行う（T/N）。 ・2023年度前期より、授業の映像を全面的に新しいものに切り替えた。その際に各時限の区切りを見直し、1時限ごとで内容の区切りが良くなるようにした（N）。
方略	テキスト履修 T：テキスト課題をもとに教科書の該当箇所を丁寧に精読する。 インターネット授業履修 N：映像授業の視聴と並行して教科書の精読を進める。 TとNを両方履修すると、学修を深めることができる。
連絡事項	

科目名	ストレスと健康(T) / ストレスと健康 (N)				B
サブタイトル					
対象学科	人間科学部 心身健康科学科				
担当教員	矢島孔明（科目責任者）・鍵谷方子・鈴木はる江				
担当教員の 実務経験					
オフィスアワー	矢島孔明：火曜日16:30～17:30、木曜日12:00～13:00 鍵谷方子：金曜日13時～17時 鈴木はる江：木曜日13時～15時 本館2Fコミュニケーションラウンジまたはオンライン、UHAS@MyCampusの質問箱で予約ください。				
配当年次	1-4	選択	単位数	テキスト履修：2単位 / インターネット 授業履修：2単位/	
授業形態	講義 演習				
アクティブラーニング	有				
授業方法	メディア授業 印刷授業				
資格等 関連科目	【B105T】認定心理士。【B106N】認定心理士,ストレスマネジメント・プログラム～こころとからだの健康科学, 心身健康アドバイザー,LPコース, DSコース				
科目コード	B105T/B106N				
科目区分	こころとからだの関係				
テキストの変更 ・改訂	2024年度からの変更・改訂： なし				
使用教材	教科書	久住眞理／筒井末春／久住武／鈴木はる江／小岩信義『ストレスと健康』（本学オリジナルテキスト）			
	参考書等	テキストの各章ごとに基本的な文献を列挙してある。			
授業概要 (目的・ねらい)	現代人は様々なストレスにさらされながら生きている。1930年代に動物でストレスの主体に及ぼす作用の神経科学的メカニズムが解明された。人間の社会的な生活においても種々のストレス刺激によって、動物と同様のストレス反応が現れるが、人間ではさらに心理的・社会的刺激もストレス反応を起こしうる。このようなストレスの基礎的科学的メカニズムと人間社会のストレスの特徴を学ぶ。各種ストレス反応の評価法、ストレスによる健康障害とストレスに対する対処法についても学び、ストレスへの理解を深める。				
キーワード	心身相関 / ストレス反応／ホメオスタシス／ストレス障害／ストレスマネジメント				
テキストの内容 及びアドバイス	第1章 ストレスと健康 ―統合的考察― ストレスは古くて新しい概念である。現代社会のストレスの特徴やストレスとどう向き合うかなど、ストレスを取り巻く諸問題について概観する。 第2章 ストレスの生理学的基礎 ―ストレスとホメオスタシス― ストレス概念の基礎を築いたセリエの全身適応症候群やキャノンの緊急反応について学び、ストレスの生理的仕組みについて理解する。ストレスは生体に本来備わっているホメオスタシスにも影響を及ぼす。その仕組みについても学ぶ。 第3章 ストレスと脳 ―ストレスの脳機能に及ぼす影響― ストレスはうつ病やうつ状態を発症したり、脳の発達に大きな影響を及ぼす。ストレスの脳科学からのアプローチについて学ぶ。 第4章 生理的ストレス反応の測定 ストレスは身体に様々な反応を起こす。ストレス反応の様々な測定法について学び、ストレス反応を測定して客観的に評価することの意義について理解する。 第5章 ストレスとメンタルヘルス 人間は多数の心理学的・社会的ストレスに曝されている。種々の心理的・社会的ストレスモデルを学び、ストレスの認知的評価、ストレスのコーピング、ストレスマネジメント、メンタルヘルス、種々のストレス性健康障害について理解する。				
一般目標 (GIO)	ストレス社会で心身の健康を維持していくために、ストレスの仕組みを理解して、適切なストレス対処ができる。				
行動目標 到達目標 (SBOs)	1. セリエの視床下部―下垂体前葉―副腎皮質系の特徴を説明できる。 2. キャノンの交感神経―副腎髄質系の特徴を説明できる。 3. 血圧調節の仕組みとストレスの影響を説明できる。 4. 体温調節の仕組みとストレスの影響を説明できる。				

	5. 血糖値調節の仕組みとストレスの影響を説明できる。 6. ストレス反応を客観的に測定する方法を列举できる。 7. ストレスの生理的指標の意味を理解している。 8. ストレス性健康障害の代表例を列举できる。 9. 主要なストレス予防と対策について説明できる。	
卒業認定・学位授与の方針と本科目の関連	本科目により、人間と社会にかかわる学際的・総合的知識を身につける。現代社会に生きる人間のストレスについて新たな視座で洞察し、心身共に健康で豊かに暮らすことのできる社会構築に向けて意見を発信できる力を養う。	
ディプロマポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学ぼうとする意欲、豊かな人間性 ■ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育 ■ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。
	学科	心身健康科学科に関連する項目 2. 専門的知識を自身や社会・職業上の問題関心と有機的に関連付けて問題を解決する能力を身につけていること 3. 「こころ」「からだ」「環境・社会」の統合的・学際的な知識を持っていること 4. 現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に寄与できる能力を身につけていること
カリキュラムポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学科	心身健康科学科に関連する項目
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 【テキスト履修】	

	評価は「科目修了試験」（100％）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。ただし、「テキスト課題」に合格（60点以上）した者が、「科目修了試験」を受験できる。 【インターネット履修】 評価は「最終レポート」（100％）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。 ただし、各時限の「確認学修」を行い、全ての時限で合格（60点以上）した者が、「最終レポート」を受験できる。 最終レポート内の「記述問題」については、以下の項目に従って評価する。 ・ 指定文字数に従っているか。 ・ 誤字、脱字がないか。 ・ 出題内容の問いに答えているか。 ・ 文章が論理的か ・ 専門用語を適切、正確に使用しているか。 ・ 常体（『である』調）で記述されているか。 ・ 他人のレポートをコピー＆ペーストしていないか。 ※ ChatGPT等の生成AIの利活用は可ですが、利活用した際には、利活用した旨の記載や、利活用した生成AIの種類・箇所等を明記ください。（回答文字数には含まれません）			
課題に対する フィードバック の方法	テキスト履修：テキスト課題合格時に「解答・解説」を表示する。 インターネット履修：各時限の確認問題合格時に、解答・解説を提示する。			
スクーリング履修 における授業準備 （予習・復習）の 具体的な内容及び それに必要な時間	【予習】 テキストの第2、4、5章の重要用語を予習しておくとい。 「からだの構造とはたらき」「内臓の調整のしくみ」についても受講もしくはこれらの分野の基礎的知識を理解していることが望ましい。（1コマにつき2時間程度） 【復習】 講義内容の重要事項を、テキストで再度確認しておく。（1コマにつき2時間程度）			
スクーリング履修 での講義内容	授業計画			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員
	1－4時限	ストレスの生理学的基礎－ストレスとホメオスタシス－	ストレスとホメオスタシスの仕組みの基礎を学ぶ。 セリエ／全身適応症候群／キャノン／緊急反応／ホメオスタシス／体温調節／血糖調節／血圧調節	鈴木
	5－6時限	ストレス反応の測定とその意味	ストレス反応とアロスタシスを学ぶ。 ストレス反応／アロスタシス／アロスタティック負荷／ライフポロモーション	鈴木、小岩
	7－9時限	生理的ストレス反応の計測	身体のストレス反応の測定を学ぶ。 自律神経機能／運動機能／ストレスマーカー／体位変換試験	小岩
	10時限	生理的ストレス反応の実験実習の解説	ストレス反応測定の原理を学ぶ。 心電図R-R間隔／皮膚血流量／発汗反応／F波／暗算負荷	鍵谷
	11－12時限	ストレスとメンタルヘルス	ストレス対処とメンタルヘルスを学ぶ。 ストレスコーピング／メンタルヘルス／ストレス性健康障害	村林
	13－14時限	ストレスの生体機能に及ぼす影響の観察 【実験体験】	【アクティブラーニング】 ストレス反応の測定の実際を体験・観察する。 心電図／筋電図／血圧／皮膚血流／発汗	鍵谷、矢島
	15時限	総合ディスカッションとまとめ	ストレス反応の意味を考察する。 心拍のゆらぎ／女性ホルモン／オキシトシン／脳機能／ストレス研究の変遷	鍵谷、小岩、矢島、鈴木
授業評価アンケートに基づく改善点	これまで心理学や医学系の専門的な学修を経験されていない方々にも多数受講いただいております。アンケート等を通して、各教員が提示するトピック、話題を通して、ヒトや人間の本質を深めるできたとの受講感想をお届けいただいております。ストレスと健康の理解は、総合演習等をはじめ、皆さんの発展的な学修に新しい視点をお届けすることができると思います。これまでのように、オンラインを通した担当教員とのディスカッションの場を推奨したいと考えております。受講生のみなさんも、担当する教員に積極的にご質問を投げかけていただ			

	ければ幸いです。ご質問にあたっては、質問箱の最初に、何限目への質問か（どの教員への質問か）を記載いただきますようお願いいたします。
方略	ネット授業と並行してテキスト履修を進める。
連絡事項	

科目名	人間の発達とところ（T）／人間の発達とところ（N）				B
サブタイトル					
対象学科	人間科学部 心身健康科学科				
担当教員	小柴満美子				
担当教員の 実務経験					
オフィスアワー					
配当年次	1-4	選択	単位数	テキスト履修：2単位 / インターネット 授業履修：1単位	
授業形態	講義				
アクティブラーニング					
授業方法	メディア授業 印刷授業				
資格等 関連科目	【B109T】認定心理士【B110N】認定心理士,ストレスマネジメント・プログラム～ところとからだの健康科学				
科目コード	B109T / B110N				
科目区分	ところとからだの関係				
テキストの変更 ・改訂	2023年度からの変更：なし				
使用教材	教科書	【テキスト履修】 林 洋一『史上最強図解 よくわかる発達心理学』ナツメ社 2010年初版（現在：2021年第18刷）あるいは、改訂版である、林 洋一『最新図解 よくわかる発達心理学』、「ナツメ社」、2022年、初版 【スクーリング履修】 林 洋一『史上最強図解 よくわかる発達心理学』ナツメ社 2010年初版（現在：2021年第18刷）あるいは、改訂版である、林 洋一『最新図解 よくわかる発達心理学』、「ナツメ社」、2022年、初版			
授業概要 (目的・ねらい)	人間が人間らしく成長するためにはどのような条件が必要かについて心理的視点から理解する。特に「ところの健康」に関係が深いと思われる情緒の側面の発達の、人間ならではの複雑さを知るとともに、人を人の命の誕生から死にいたるまでの生涯発達を視野に入れて認識する。				
キーワード	生涯発達 / 遺伝と環境 / ライフサイクル / アタッチメント（愛着） / 中高年の発達				
テキストの内容 及びアドバイス	【テキスト履修】 序章 発達って何だろう 発達心理学における発達とは、発達段階と課題 第1章 誕生時からある不思議な能力～胎児期・新生児期～ からだ・脳の発達、原始反射 第2章 コミュニケーションの基礎ができる～乳児期～ 全身の発達、情緒、社会性、愛着 第3章 感覚からイメージの世界へ～幼児期Ⅰ～ 脳とからだ、全身の発達、ことばの発達、読み書き、遊びと発達 第4章 「わたし」と「あなた」の違いに気づく 自己認知、自我のめばえ、情緒の発達 第5章 思考力がつき、人間関係が発達する～児童期～ 子どもと学校、思考の発達、動機づけ、つまづき、ギャング・エイジ 第6章 子どもと大人の間で揺れ動く～青年期～ からだ、ところ、青年期の壁、親子・友人・男女関係 第7章 変化し続けるところとからだ～成人期以降～ 成人期の発達、仕事、結婚、中年期、老年期、生きがい 【スクーリング（e-learning）履修】 発達心理学は、実際の子どもや青年、中高年のところの理解をする上で実生活にも役立つ領域だと思います。しかしすぐに結論が出るわけではありません。ヒトの心はとても複雑なものなので、いろいろな問題が生じたときに、原因→結果という直線的で単純な因果律で理解するのではなく、複雑な多くの要因の関係を考慮しなくてはなりません。そこが人のところの難しさでもあり、面白さでもあります。				

	私たちはつい、物事を単純化して理解したくなりますが、心理学を学べば学ぶほど、人のところはそんなに簡単に理解出来ないことを思い知らされます。割りきれないために学ぶことでかえってすっきりしない気持ちが残るかもしれませんが、そこを楽しんで下さい。	
一般目標 (GIO)	心身の健康の課題について、人の誕生から死までの生涯発達の観点から考察し論じることができる。	
行動目標 到達目標 (SBOs)	【テキスト履修】 1. 生涯発達の視点をもって人間の発達の各段階の特徴を説明できる。 2. ヒトが人間として存在するために必要なことについて説明できる。 3. 発達心理学で得られた知識を基にして日常の問題を考えることができる。 4. テキストを通し、発達心理学について学んだことをもとに自分の考えをまとめられる。 【スクーリング (e-learning) 履修】 1. 生涯発達の視点をもって人間の発達の各段階の特徴を説明できる。 2. ヒトが人間として存在するために必要なことについて説明できる。 3. 発達心理学で得られた知識を基にして日常の問題を考えることができる。 4. 視聴を通し、発達心理学について学んだことをもとに自分の考えをまとめられる。	
卒業認定・学位授与 の方針と本科目の 関連	本科目の履修を通じて、建学の精神に基づき ころ・からだ・文化の広い側面から人間に興味・関心を持ち、学際的、総合的な幅広い視点から理解できるようになることを目指す。またその結果、ともに心身共に健康で豊かに暮らすことのできる社会の構築を探究する。	
ディプロマポリシー との関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学習意欲とする意欲、豊かな人間性 ■ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育 ■ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。
	学科	心身健康科学科に関連する項目 1. 人間と社会の諸側面について、「ころ」「からだ」「環境・社会」のそれぞれの領域に関する専門知識を持っていること
カリキュラムポリシー との関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る

		3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る		
	学科	心身健康科学科に関連する項目		
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 【テキスト履修】 評価は「科目修了試験」（100%）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。ただし、「テキスト課題」に合格（60点以上）した者が、「科目修了試験」を受験できる。 【インターネット履修】 評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 評価は「最終レポート」（100%）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。 ただし、各時限の「確認学修」を行い、全ての時限で合格（60点以上）した者が、「最終レポート」を受験できる。 最終レポート内の「記述問題」については、以下の項目に従って評価する。 ・指定文字数に従っているか。過不足がないか。 ・誤字、脱字がないか。 ・出題内容の問い、趣旨に答えているか。 ・文章が論理的か。 ・専門用語を適切、正確に使用しているか。 ・常体（『である』調）で記述されているか。 ・他人の文章をコピー＆ペーストしていないか。※引用の場合は引用ページを含む出典の明記が必須。 なお、ChatGPT等の生成AIの利活用は可とするが、利活用した際には、利活用した旨の記載や利活用した生成AIの種類・箇所等を明記すること。			
課題に対する フィードバック の方法	テキスト課題合格時に「解答・解説」を表示			
スクーリング履修 における授業準備 （予習・復習）の 具体的な内容及び それに必要な時間	【予習】 発達心理学のテキストを読んでから視聴すると理解が深まります。（1コマにつき2時間程度） スクーリングにおいては、発達心理学で得られた知識を実際の生活の中でどう生かすかという点に力を入れています。時間的に、e-learningの時間内にテキストのすべてを網羅することは難しいので、基本的なことについては積極的に事前に学んで参加して下さい。事前の学修と、発達心理学に関する問題意識や疑問を持つての参加を歓迎します。 【復習】 テキストと配布資料を用いて、学んだことについて再確認する。（1コマにつき2時間程度） 例えば疑問に思ったことがあった場合、UHAS@マイキャンパスを通じて確認する。			
スクーリング履修 での講義内容	授業計画			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員
	1時限	発達とは何か	発達段階／発達の法則／遺伝と環境／生涯発達	
	2時限	新生児期までの発達	胎児期／新生児期／原始反射／生理的微笑	
	3時限	乳児期の発達	コンピテンス／相互作用／愛着／社会的参照	
	4時限	幼児期の発達①	レディネス／共同注視／言葉の発達／自己中心性	
	5時限	幼児期の発達②	自己認知／自我／発達期待／遊び	
	6時限	児童期の発達	ギャング・エイジ／達成動機／認知発達／発達の障害	
	7時限	青年期の発達	アイデンティティ／自己開示／摂食障害／不登校	
	8時限	成人期以降の発達	流動性知能・結晶性知能／中年期クライシス／認知症／ライフレビュー	
授業評価アンケートに基づく改善点	授業が分かりやすいという評価が多かったです。そのためか質問が少なめでしたので、必要に応じて資料の補足をUHAS@Myキャンパスを通しておこなっていきます。			

方略	シラバスをもとに指定教科書をよく読んでから講義に臨むことで、より学習が理解できる。加えて、講義で提示された課題やキーワードを中心に関連図書や関連文献を講読することで、学習をさらに深めていく。
連絡事項	インターネット授業は、林 洋一『史上最強図解 よくわかる発達心理学』ナツメ社 2010年初版（現在：2021年第18刷）を基にしているため、教科書の改訂に伴い必要な補足はUHAS@Myキャンパスを通しておこなう。

科目名	データ解析による心身の理解－実践・入門（N）				B
サブタイトル					
対象学科	人間科学部 心身健康科学科				
担当教員	矢澤順根				
担当教員の 実務経験					
オフィスアワー					
配当年次	1－4	選択	単位数	インターネット授業履修 N：2単位	
授業形態	講義				
アクティブラーニング	有				
授業方法	メディア授業				
資格等 関連科目	【B135N】認定心理士				
科目コード	B135N				
科目区分	こころとからだの関係				
テキストの変更 ・改訂	2024年度から変更なし				
使用教材	教科書	教科書は使用しない。 受講に必要な資料やExcelファイルを、「UHAS@Myキャンパス」よりダウンロードしてもらう。			
	参考書等	『ていねいな保健統計学（第2版）』白戸亮吉・鈴木研太（著）、羊土社、2022年、2200円＋税 『よくわかる心理統計』山田剛史・村井潤一郎（著）、ミネルヴァ書房、2004年、2800円＋税 『Excelによるやさしい統計解析：分析手法の使い分けと統計モデリングの基礎』荒川俊也（著）、オーム社、2020年、2400円＋税 『発想法：創造性開発のために（改版）』川喜田二郎（著）、中央公論新社、2017年、720円＋税 『心理尺度のつくり方』村上宣寛（著）、北大路書房、2006年、2200円＋税			
授業概要 (目的・ねらい)	基本的な心理統計学の理論や考え方を知る。実験・調査等の心理学的データの種類や整理方法を知る。Excelを用いて、心理学的データの整理や初歩的な分析を行うことができるようになる。				
キーワード	記述統計 / 推測統計 / 統計的仮説検定 / 質的分析 / 質問紙調査法				
テキストの内容 及びアドバイス	実験・調査等の心理学的データに基づき、基礎的な統計学の考え方や手法について説明する。 参考書の購入は必須ではないので、授業を受講しつつ各自で必要性を判断すること。 【アクティブラーニング】 受講者各自がExcelを用いて、基本的なデータ整理と初歩的な分析も行う。Excelは「分析ツール」も用いる。 パソコンで有料版のExcelが使用できる受講環境を前提とする（タブレットや無料版のExcelでは機能の一部が制限されることがあるため）。 統計学を学修するのが初めてという人は、「データ解析による心身の理解－実践・発展（N）」の学修を始める前に、本科目を履修することが望ましい。 また、各時限の確認学修の他に、提出期日が定められた3回的小テスト、および最終レポート（修了テスト）がある。定められた期日までに課題を提出する必要があるので注意すること。提出期日は他のインターネット授業と異なり、本科目独自のスケジュールとなっている。提出期日を間違えないように、十分に注意すること。				
一般目標 (GIO)	1 基礎的な心理統計学の理論や考え方を理解するために、統計解析の基礎を学修する。 2 基礎的なデータ整理や初歩的な分析ができるようになるために、Excelの操作方法を修得する。 3 データを科学的に分析・解釈することができるようになるために、量的分析と質的分析を学修する。				
行動目標 到達目標 (SBOs)	1 記述統計について説明することができる。 2 推測統計について説明することができる。 3 データを適切に図表化することができる。 4 Excelの基本操作を行うことができる。 5 統計的仮説検定の考え方を説明することができる。 6 さまざまな検定を適切に使い分けすることができる。 7 量的分析の考え方を説明することができる。 8 質的分析の考え方を説明することができる。				

	9 質問紙を作成する際の要点を挙げることができる。 10 科学における統計学の役割を考察する。	
卒業認定・学位授与の方針と本科目の関連	本科目により、人間と社会にかかわる様々な学問領域で基本となる統計学の基本を学ぶ。学際的・総合的知識を身につける基礎を養う。	
ディプロマポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学習意欲、豊かな人間性 ■ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育 ■ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。
	学科	心身健康科学科に関連する項目 2. 専門的知識を自身や社会・職業上の問題関心と有機的に関連付けて問題を解決する能力を身につけていること
カリキュラムポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学科	心身健康科学科に関連する項目
評価方法・基準	評価基準は、人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 評価は「最終レポート」で行うが、小テストの提出・合格状況も加味する。評価基準に則り総合で60点以上を合格とする。ただし、各時限の「確認学修」を行い、すべての時限で合格した者、かつ、受講期間中に3回実施する小テストをすべて提出した者が「最終レポート」を提出できる。どれか1つでも未提出の小テストがあった場合は、最終レポートは評価の対象とならない。スケジュールを十分に確認の上、学修を進めること。 小テストのスケジュール等については、授業計画の欄、およびUHAS@Myキャンパスでの連絡を参照すること。 試験・レポートの「記述問題」については、以下の項目に従って評価する。 ・指定文字数に従っているか。過不足がないか。	

	出題内容の問い、趣旨に答えているか。 ・ 専門用語を適切、正確に使用しているか。 ・ 文章が論理的か。 ・ 誤字、脱字がないか。 ・ 常体（「である」調）で記述されているか。 ・ 参考文献、引用文献の出典を適切に示しているか。 ・ 他人のレポートをコピー＆ペーストしていないか。 答案の作成にあたっては、以下の点を特に意識すること。 ・ 設問をよく読み、指定された内容をすべて含めること（例：AとBについて説明せよ → AとBの両方を説明する）。 ChatGPT等の生成AIの使用は可とするが、以下の注意事項を厳守すること。 ・ 生成AIが出力したテキストをそのまま引用するのではなく、他の方法で調べた情報や自分の考えも加えること。 ・ 生成AIの種類（GhatGPT、Gemini等）、設定したプロンプト、使用した箇所を明記すること。これらの情報は、回答の文字数には含めない。																																																																								
課題に対する フィードバック の方法	各時限の確認学修の正答率が、授業内容の理解度を反映している。必要な復習を行うこと。																																																																								
スクーリング履修 における授業準備 （予習・復習）の 具体的な内容及び それに必要な時間	【予習】 本授業では、UHAS@Myキャンパスから課題ファイルをダウンロードし、Excelで作業を行い、ファイルを提出するという一連の作業が自力でできないと履修は困難である。自信がない人は、事前に「AIデータサイエンス入門（S）」を履修する等、準備を各自で行っておくこと（履修の必須条件ではない）。 加えて、各回の概要を理解し、キーワードについて参考書等で確認し、行動目標を念頭に置いて予習を進める。（1時限につき2時間程度） 【復習】 各時限の確認学修に合格できなかった場合は、再度授業を視聴し内容の確認を行うこと。確認学修に合格した場合でも式や用語等に疑問が残り気になる場合は、気軽に質問すること。（1時限につき2時間程度）																																																																								
スクーリング履修 での講義内容	<table><tr><th colspan="4">授業計画</th></tr><tr><th>時限</th><th>学習内容</th><th>キーワード（重要語句）</th><th>担当教員</th></tr><tr><td>1時限</td><td>イントロダクション</td><td>統計学、科学、ビッグデータ</td><td></td></tr><tr><td>2時限</td><td>データ、尺度水準、記述統計、確率分布</td><td>質的データ、量的データ、代表値、散布度、正規分布</td><td></td></tr><tr><td>3時限</td><td>記述統計のExcel演習、データの図表化</td><td>平均、分散、標準偏差、ヒストグラム、箱ひげ図、グラフ</td><td></td></tr><tr><td>4時限</td><td>データの図表化のExcel演習、相関</td><td>ヒストグラム、正の相関・負の相関、相関係数、心身相関</td><td></td></tr><tr><td></td><td>小テスト1（1－4時限の内容）</td><td></td><td></td></tr><tr><td>5時限</td><td>相関のExcel演習、回帰</td><td>散布図、相関係数、線形回帰、目的変数、説明変数、回帰係数、回帰係数の正・負</td><td></td></tr><tr><td>6時限</td><td>推測統計、統計的仮説検定</td><td>標本、母集団、帰無仮説、対立仮説、検定統計量、有意確率、有意水準</td><td></td></tr><tr><td>7時限</td><td>t検定（2群の平均の差の検定）</td><td>パラメトリック検定、t検定、対応のあるt検定、ノンパラメトリック検定、U検定</td><td></td></tr><tr><td>8時限</td><td>t検定のExcel演習、分散分析（3群以上の平均の差の検定）</td><td>有意確率、t検定、分散分析</td><td></td></tr><tr><td></td><td>小テスト2（5－8時限の内容）</td><td></td><td></td></tr><tr><td>9時限</td><td>分散分析（3群以上の平均の差の検定）、カイ2乗検定（比率の差の検定）</td><td>t検定、分散分析、ノンパラメトリック検定、カイ2乗検定、クロス集計表、独立性の検定</td><td></td></tr><tr><td>10時限</td><td>カイ2乗検定のExcel演習、さまざまな検定</td><td>カイ2乗検定、独立性の検定、適合度の検定、検定の使い分け</td><td></td></tr><tr><td>11時限</td><td>質的分析（1）</td><td>質的データ、エスノグラフィー、観察</td><td></td></tr><tr><td>12時限</td><td>質的分析（2）</td><td>質的データ、KJ法、ブレインストーミング</td><td></td></tr><tr><td></td><td>小テスト3（9－12時限の内容）</td><td></td><td></td></tr><tr><td>13時限</td><td>質問紙調査法（1）</td><td>質問紙調査、信頼性、妥当性、因子分析</td><td></td></tr></table>	授業計画				時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員	1時限	イントロダクション	統計学、科学、ビッグデータ		2時限	データ、尺度水準、記述統計、確率分布	質的データ、量的データ、代表値、散布度、正規分布		3時限	記述統計のExcel演習、データの図表化	平均、分散、標準偏差、ヒストグラム、箱ひげ図、グラフ		4時限	データの図表化のExcel演習、相関	ヒストグラム、正の相関・負の相関、相関係数、心身相関			小テスト1（1－4時限の内容）			5時限	相関のExcel演習、回帰	散布図、相関係数、線形回帰、目的変数、説明変数、回帰係数、回帰係数の正・負		6時限	推測統計、統計的仮説検定	標本、母集団、帰無仮説、対立仮説、検定統計量、有意確率、有意水準		7時限	t検定（2群の平均の差の検定）	パラメトリック検定、t検定、対応のあるt検定、ノンパラメトリック検定、U検定		8時限	t検定のExcel演習、分散分析（3群以上の平均の差の検定）	有意確率、t検定、分散分析			小テスト2（5－8時限の内容）			9時限	分散分析（3群以上の平均の差の検定）、カイ2乗検定（比率の差の検定）	t検定、分散分析、ノンパラメトリック検定、カイ2乗検定、クロス集計表、独立性の検定		10時限	カイ2乗検定のExcel演習、さまざまな検定	カイ2乗検定、独立性の検定、適合度の検定、検定の使い分け		11時限	質的分析（1）	質的データ、エスノグラフィー、観察		12時限	質的分析（2）	質的データ、KJ法、ブレインストーミング			小テスト3（9－12時限の内容）			13時限	質問紙調査法（1）	質問紙調査、信頼性、妥当性、因子分析	
授業計画																																																																									
時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員																																																																						
1時限	イントロダクション	統計学、科学、ビッグデータ																																																																							
2時限	データ、尺度水準、記述統計、確率分布	質的データ、量的データ、代表値、散布度、正規分布																																																																							
3時限	記述統計のExcel演習、データの図表化	平均、分散、標準偏差、ヒストグラム、箱ひげ図、グラフ																																																																							
4時限	データの図表化のExcel演習、相関	ヒストグラム、正の相関・負の相関、相関係数、心身相関																																																																							
	小テスト1（1－4時限の内容）																																																																								
5時限	相関のExcel演習、回帰	散布図、相関係数、線形回帰、目的変数、説明変数、回帰係数、回帰係数の正・負																																																																							
6時限	推測統計、統計的仮説検定	標本、母集団、帰無仮説、対立仮説、検定統計量、有意確率、有意水準																																																																							
7時限	t検定（2群の平均の差の検定）	パラメトリック検定、t検定、対応のあるt検定、ノンパラメトリック検定、U検定																																																																							
8時限	t検定のExcel演習、分散分析（3群以上の平均の差の検定）	有意確率、t検定、分散分析																																																																							
	小テスト2（5－8時限の内容）																																																																								
9時限	分散分析（3群以上の平均の差の検定）、カイ2乗検定（比率の差の検定）	t検定、分散分析、ノンパラメトリック検定、カイ2乗検定、クロス集計表、独立性の検定																																																																							
10時限	カイ2乗検定のExcel演習、さまざまな検定	カイ2乗検定、独立性の検定、適合度の検定、検定の使い分け																																																																							
11時限	質的分析（1）	質的データ、エスノグラフィー、観察																																																																							
12時限	質的分析（2）	質的データ、KJ法、ブレインストーミング																																																																							
	小テスト3（9－12時限の内容）																																																																								
13時限	質問紙調査法（1）	質問紙調査、信頼性、妥当性、因子分析																																																																							

	14時限	質問紙調査法（2）	質問紙調査、質問紙の作成手順、質問項目	
	15時限	振り返り、まとめ	記述統計、推測統計、統計的仮説検定、量的分析、質的分析	
		最終レポート（修了テスト）		
	Excel演習は【アクティブラーニング】を意味する。			
授業評価アンケートに基づく改善点	・ 質問や問い合わせへの対応が、迅速で丁寧だと好評である。今後も、学生が学修を進めやすい環境を整えることに努める。 ・ 3回の小テストがある本科目の学修スケジュールについて、その把握が難しいようである。そのため、小テストに関する連絡をUHAS@Myキャンパスにてより入念に行い、受講生が学修スケジュールを把握しやすいようにする。 ・ 統計学に関するテキスト履修科目とインターネット授業履修科目を組み合わせると、科目の内容をより理解しやすくなるとのことであった。科目間の連動を意識して、学修に対するアドバイスや質問への回答を行う。 ・ 2023年度後期より、インターネット授業の映像を全面的に新しいものに切り替えた。その際に授業内容を見直し、学生が無理なく統計の学修を進めることができるように工夫した。			
方略	受講者各自がExcelを使用して、データの整理と基礎的な統計解析を行う。 統計学に関する科目を組み合わせると、学修を深めることができる。			
連絡事項	履修に関する条件、アドバイス ●Excelがインストールされたパソコン等を持ち、ファイルのダウンロードやUHAS@Myキャンパスへの提出ができる必要がある。Excelは「分析ツール」も用いる。 ●パソコンで有料版のExcelが使用できる受講環境を前提とする（タブレットや無料版のExcelでは機能の一部が制限されることがあるため）。 ●Excelの基本操作に自信がない人は、事前に「AIデータサイエンス入門（S）」を履修する等、準備を各自で行っておくこと（履修の必須条件ではない）。 学修の流れ 本N科目はインターネット授業のみの開講で、学修はすべてUHAS@Myキャンパス上で行われる。基本的な学修の流れは「インターネット授業」に準拠するので、まずは『学修生活の手引き』と『UHAS@Myキャンパス 利用マニュアル』の「インターネット授業」に関する内容を理解すること。加えて、この科目独自の学修方法を採用している部分もある。以下にその概要を記載するので、十分に理解した上で学修を進めること。 ●履修期間中に3回の小テスト（レポート提出）、および最終レポートを課す。各時限の確認学修（自動採点）に加え、4・8・12時限目の終了後に小テスト（レポート提出）、15時限の終了後に最終レポートを課す。提出スケジュールや提出場所は、UHAS@Myキャンパスで確認すること。 ●各課題の提出期間を過ぎて提出されたものは、受け付けないことがある。各時限ごとの確認学修（自動採点）は不合格になると70分間は再受験ができなくなるので、小テスト・最終レポートの提出期限までに余裕をもって終わらせておく必要がある。また、ファイルの添付し忘れも同様の処置となるので、十分に気をつけること。 ●小テストは不合格の場合、再提出を求める。 ●最終レポートについては特に取り扱いが厳格で、締切後の提出や、各提出期間内での差替・再提出はできない。間違ったファイルを添付して提出した場合には、その提出回は不合格となるので注意すること。 ●最終レポートの提出期間終了の時点で未提出の小テストがある場合は、最終レポートは評価の対象とはならない。 ●最終レポートについては、早めに提出しても成績通知日までは結果が通知されない。 ●前期・後期に渡っての受講はできない。 （例）前期に小テストの1・2回目を提出し、後期に小テストの3回目と最終レポートを提出する、といったことはできない。 ●やむを得ぬ事情により各学期の途中で受講を断念した場合、次学期に再度履修登録を行い最初から受講し直すことは可能である。 （例）前期に小テストの1・2回目まで提出したが、やむを得ぬ事情により受講を断念し、後期に履修登録をして小テストを1回目から受講し直し、最後の最終レポートまで提出し単位を修得する、といったことは可能である。 ●前期・後期ともに最後の最終レポートの提出まで至らなかった場合は、その期の学修状況（インターネット授業の視聴記録・確認学修の受験記録、小テストの提出記録）はすべてリセットされ、次学期に最初から学修を始めることになる。 ●履修有効期間内に単位修得ができずに、引き続き履修を希望する場合は、再度の履修科目登録が必要になる。			

科目名	データ解析による心身の理解－実践・発展（N）				B
サブタイトル					
対象学科	人間科学部 心身健康科学科				
担当教員	矢澤順根				
担当教員の 実務経験					
オフィスアワー					
配当年次	1－4	選択	単位数	インターネット授業履修 N：2単位	
授業形態	講義				
アクティブラーニング	有				
授業方法	メディア授業				
資格等 関連科目	【B136N】認定心理士				
科目コード	B136N				
科目区分	こころとからだの関係				
テキストの変更 ・改訂	2025年度から変更				
使用教材	教科書	『Excelで今すぐ始める心理統計：簡単ツールHADで基本を身につける（第2版）』小宮あすか・布井雅人（著）、講談社、2024年、2800円＋税 2024年9月18日に第2版が出版されました。第1版をお持ちの方は、そちらで本科目の学修を進めていただくことも可能です。			
	参考書等	『ていねいな保健統計学（第2版）』白戸亮吉・鈴木研太（著）、羊土社、2022年、2200円＋税 『よくわかる心理統計』山田剛史・村井潤一郎（著）、ミネルヴァ書房、2004年、2800円＋税 『Excelによるやさしい統計解析：分析手法の使い分けと統計モデリングの基礎』荒川俊也（著）、オーム社、2020年、2400円＋税 『発想法：創造性開発のために（改版）』川喜田二郎（著）、中央公論新社、2017年、720円＋税 『質的研究 Step by Step：すぐれた論文作成をめざして（第2版）』波平恵美子（著）、医学書院、2016年、2600円＋税			
授業概要 （目的・ねらい）	卒業研究（総合演習：探究）や論文の精読に必要な、心理統計学の基礎と応用を学修する。特に、推測統計、統計的仮説検定、多変量解析に関する知識と技術を修得することを目標とする。Excelによるデータの統計解析に加え、不足する機能を補うために他の無料の統計解析ソフトウェア（HAD、R）も用いる。				
キーワード	統計的仮説検定 / 多変量解析 / 質的分析 / 心理調査法 / 統計ソフトウェア				
テキストの内容 及びアドバイス	教科書では基本的な心理統計学の理論や考え方が、HADというExcel上で動くフリーソフトでの分析例とともに解説されている。インターネット授業では推測統計と仮説検定の話を中心に、実際に自分のデータを分析したり、他者の論文を精読して内容を理解する上で必要となる統計解析の手法や結果の解釈について説明する。 教科書の目次は以下の通り。 第0章 HADの準備 第1章 心理学でなぜ統計が必要なのか 第2章 記述統計：尺度水準・データの分布・代表値と散布度 第3章 推測統計と統計的検定 第4章 t検定 第5章 1要因分散分析 第6章 2要因分散分析 第7章 相関とその検定 第8章 単回帰分析 第9章 重回帰分析① 第10章 重回帰分析②：交互作用項の投入・媒介分析 第11章 心理尺度の分析方法①：因子分析 第12章 心理尺度の分析方法②：既存の尺度の使い方 第13章 カイ2乗検定 第14章 サンプルサイズの決め方				

	参考書の購入は必須ではないので、授業を受講しつつ各自で必要性を判断すること。 【アクティブラーニング】 受講者各自がExcel等を用いて、基本的なデータ整理と初歩的な分析も行う。Excelは「分析ツール」も用いる。 パソコンで有料版のExcelが使用できる受講環境を前提とする（タブレットや無料版のExcelでは機能の一部が制限されることがあるため）。 Excel以外のソフトウェアの使用については、授業内で説明する。 統計学を学修するのが初めてという人は、本科目を履修する前に「データ解析による心身の理解－実践・入門（N）」を履修することが望ましい（履修の必須条件ではない）。 また、各時限の確認学修の他に、提出期日が定められた3回的小テスト、および最終レポート（修了テスト）がある。定められた期日までに課題を提出する必要があるので注意すること。提出期日は他のインターネット授業と異なり、本科目独自のスケジュールとなっている。提出期日を間違えないように、十分に注意すること。	
一般目標 (GIO)	1 卒業研究や論文の精読に必要なとなる心理統計学の理論や考え方を理解するために、統計解析の基礎と応用を学修する。 2 応用的な統計解析までできるようになるために、Excel、およびその他のソフトウェアの操作方法を修得する。 3 データを科学的に分析・解釈することができるようになるために、量的分析と質的分析を学修する。	
行動目標 到達目標 (SBOs)	1 記述統計について説明することができる。 2 推測統計について説明することができる。 3 データを適切に図表化することができる。 4 Excelの基本操作を行うことができる。 5 Excel以外のソフトウェアも用いて高度な統計解析まで行うことができる。 6 統計的仮説検定の考え方を説明することができる。 7 さまざまな検定を適切に使い分けすることができる。 8 量的分析の考え方を説明することができる。 9 質的分析の考え方を説明することができる。 10 質問紙を作成する際の要点を挙げることができる。 11 データの統計解析に基づく研究論文を実際に読んでその方法や結果を適切に解釈することができる。 12 科学における統計学の役割を考察する。 13 心理統計法を用いた研究の計画を立てることができる。	
卒業認定・学位授与 の方針と本科目の 関連	本科目により、人間と社会にかかわる様々な学問領域で基本となる統計学を系統的に学ぶ。学際的・総合的知識を身につける基礎を養う。	
ディプロマポリシー との関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感性、創造力、表現力、自己教育力、生涯学習意欲、豊かな人間性 ■ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育 ■ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。
	学科	心身健康科学科に関連する項目 2. 専門的知識を自身や社会・職業上の問題関心と有機的に関連付けて問題を解決する能力を身につけていること
カリキュラムポリシー との関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る

		2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る		
	人間科学部	人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る		
	学科	心身健康科学科に関連する項目		
評価方法・基準	評価基準は、人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 評価は「最終レポート」で行うが、小テストの提出・合格状況も加味する。評価基準に則り総合で60点以上を合格とする。ただし、各時限の「確認学修」を行い、すべての時限で合格した者、かつ、受講期間中に3回実施する小テストをすべて提出した者が「最終レポート」を提出できる。どれか1つでも未提出の小テストがあった場合は、最終レポートは評価の対象とならない。スケジュールを十分に確認の上、学修を進めること。 小テストのスケジュール等については、授業計画の欄、およびUHAS@Myキャンパスでの連絡を参照すること。 「記述問題」については、以下の項目に従って評価する。 ・指定文字数に従っているか。過不足がないか。 ・出題内容の問い、趣旨に答えているか。 ・専門用語を適切、正確に使用しているか。 ・文章が論理的か。 ・誤字、脱字がないか。 ・常体（「である」調）で記述されているか。 ・参考文献、引用文献の出典を適切に示しているか。 ・他人のレポートをコピー＆ペーストしていないか。 答案の作成にあたっては、以下の点を特に意識すること。 ・設問をよく読み、指定された内容をすべて含めること（例：AとBについて説明せよ → AとBの両方を説明する）。 ChatGPT等の生成AIの使用は可とするが、以下の注意事項を厳守すること。 ・生成AIが出力したテキストをそのまま引用するのではなく、他の方法で調べた情報や自分の考えも加えること。 ・生成AIの種類（GhatGPT、Gemini等）、設定したプロンプト、使用した箇所を明記すること。これらの情報は、回答の文字数には含めない。			
課題に対するフィードバックの方法	各時限の確認学修の正答率が、授業内容の理解度を反映している。必要な復習を行うこと。			
スクーリング履修における授業準備（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間	【予習】 Excelの基本操作、およびUHAS@Myキャンパスの説明は、授業内では行わない。 本授業では、UHAS@Myキャンパスから課題ファイルをダウンロードし、Excel等のソフトで作業を行い、ファイルを提出するという一連の作業が自力でできないと履修は困難である。自信がない人は、事前に「AIデータサイエンス入門（S）」を履修する等、準備を各自で行っておくこと（履修の必須条件ではない）。 加えて、各回の概要を理解し、キーワードについて教科書や参考書等で確認し、行動目標を念頭に置いて予習を進める。（1時限につき2時間程度） 【復習】 各時限の確認学修に合格できなかった場合は、再度授業を視聴し内容の確認を行うこと。確認学修に合格した場合でも式や用語等に疑問が残る場合は、必ず不明点をなくしてから次の時限の授業を視聴すること。（1時限につき2時間程度）			
スクーリング履修での講義内容	授業計画			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員
	1時限	イントロダクション	統計学、科学、記述統計、推測統計、データの図表化、統計的仮説検定	

	2時限	無料の心理統計ソフト「HAD」を使用する	統計ソフトウェア、HAD、t検定	
	3時限	t検定を行い、統計ソフトの使用についての理解を深める	HAD、t検定、対応のあるt検定	
	4時限	3群の比較を1要因の分散分析で行い、主効果について学修する	分散分析、主効果	
		小テスト1（1－4時限の内容）		
	5時限	2つの要因の効果を調べるために、2要因の分散分析について学修する	分散分析、両側検定、片側検定、交互作用	
	6時限	3群の比較を行うために、多重比較について学修する	分散分析、多重性の問題、多重比較	
	7時限	2つの変数間の関係を分析するために、相関について学修する	積率相関係数、順位相関係数、相関の演習	
	8時限	ある変数の値から別の変数の値を予測するために、回帰について学修する（1）	目的変数、説明変数、回帰係数、単回帰、重回帰、一般化線形モデル	
		小テスト2（5－8時限の内容）		
	9時限	ある変数の値から別の変数の値を予測するために、回帰について学修する（2）／統計ソフト「R」の紹介	回帰の演習、単回帰、重回帰、統計ソフトウェア、R	
	10時限	質的変数の差を分析するために、カイ2乗検定について学修する	質的データ、カイ2乗検定、適合度の検定	
	11時限	データが共通してもつ要素を分析する方法として、因子分析について学修する	因子分析、主成分分析、構造方程式モデリング	
	12時限	説明変数と目的変数以外の変数が媒介した時の効果を分析するために、媒介分析について学修する	媒介分析、直接効果、間接効果、パス解析、構造方程式モデリング	
		小テスト3（9－12時限の内容）		
	13時限	質的分析を具体的にを行うことができるように、インタビューの倫理や方法について学修する	質的研究、インタビュー、倫理的課題	
	14時限	心理統計法を駆使した研究を行うことができるように、調査研究の具体的な手法について学修する	調査研究、質問紙調査、リサーチクエッション	
	15時限	振り返り／実際の論文を読む／まとめ	統計的仮説検定、分析の使い分け、量的分析、質的分析、心身健康科学	
		最終レポート（修了テスト）		
	統計ソフトを用いた演習は【アクティブラーニング】を意味する。			
授業評価アンケートに基づく改善点	・質問や問い合わせへの対応が、迅速で丁寧だと好評である。今後も、学生が学修を進めやすい環境を整えることに努める。 ・3回の小テストがある本科目の学修スケジュールについて、その把握が難しいようである。そのため、小テストに関する連絡をUHAS@Myキャンパスにてより入念に行い、受講生が学修スケジュールを把握しやすいようにする。 ・統計学に関するテキスト履修科目とインターネット授業履修科目を組み合わせると、科目の内容をより理解しやすくなるとのことであった。科目間の連動を意識して、学修に対するアドバイスや質問への回答を行う。 ・2024年度前期より、インターネット授業の映像を全面的に新しいものに切り替えた。その際に授業内容を見直し、学生が無理なく統計の学修を進めることができるように工夫した。			
方略	受講者各自がExcel等を使用して、データの整理と基礎的・応用的な統計解析を行う。 統計学に関する科目を組み合わせると、学修を深めることができる。			
連絡事項	●Excelがインストールされたパソコン等を持ち、ファイルのダウンロードやUHAS@Myキャンパスへの提出ができる必要がある。Excelは「分析ツール」も用いる。 ●パソコンで有料版のExcelが使用できる受講環境を前提とする（タブレットや無料版のExcelでは機能の一部が制限されることがあるため）。 ●Excelの基本操作に自信がない人は、事前に「AIデータサイエンス入門（S）」を履修する等、準備を各自で行っておくこと（履修の必須条件ではない）。 ●Excel以外のソフトウェアの使用については、授業内で説明する。 ●統計学を学修するのが初めてという人は、本科目の学修を始める前に「データ解析による心身の理解－実践・入門（N）」を履修することが望ましい（履修の必須条件ではない）。			

学修の流れ

本N科目はインターネット授業のみの開講で、学修はすべてUHAS@Myキャンパス上で行われる。基本的な学修の流れは「インターネット授業」に準拠するので、まずは『学修生活の手引き』と『UHAS@Myキャンパス 利用マニュアル』の「インターネット授業」に関する内容を理解すること。加えて、この科目独自の学修方法を採用している部分もある。以下にその概要を記載するので、十分に理解した上で学修を進めること。

●履修期間中に3回の小テスト（レポート提出）、および最終レポートを課す。各時限の確認学修（自動採点）に加え、4・8・12時限目の終了後に小テスト（レポート提出）、15時限の終了後に最終レポートを課す。提出スケジュールや提出場所は、UHAS@Myキャンパスで確認すること。

●各課題の提出期間を過ぎて提出されたものは、受け付けないことがある。各時限ごとの確認学修（自動採点）は不合格になると70分間は再受験ができなくなるので、小テスト・最終レポートの提出期限までに余裕をもって終わらせておく必要がある。また、ファイルの添付し忘れも同様の処置となるので、十分に気をつけること。

●小テストは不合格の場合、再提出を求める。

●最終レポートについては特に取り扱いが厳格で、締切後の提出や、各提出期間内での差替・再提出はできない。間違ったファイルを添付して提出した場合には、その提出回は不合格となるので注意すること。

●最終レポートの提出期間終了の時点で未提出の小テストがある場合は、最終レポートは評価の対象とはならない。

●最終レポートについては、早めに提出しても成績通知日までは結果が通知されない。

●前期・後期に渡っての受講はできない。

（例）前期に小テストの1・2回目を提出し、後期に小テストの3回目と最終レポートを提出する、といったことはできない。

●やむを得ぬ事情により各学期の途中で受講を断念した場合、次学期に再度履修登録を行い最初から受講し直すことは可能である。

（例）前期に小テストの1・2回目まで提出したが、やむを得ぬ事情により受講を断念し、後期に履修登録をして小テストを1回目から受講し直し、最後の最終レポートまで提出し単位を修得する、といったことは可能である。

●前期・後期ともに最後の最終レポートの提出まで至らなかった場合は、その期の学修状況（インターネット授業の視聴記録・確認学修の受験記録、小テストの提出記録）はすべてリセットされ、次学期に最初から学修を始めることになる。

●履修有効期間内に単位修得ができずに、引き続き履修を希望する場合は、再度の履修科目登録が必要になる。

科目名	こころの健康と看護（T）／こころの健康と看護（N）				B
サブタイトル					
対象学科	人間科学部 心身健康科学科				
担当教員	鈴木英子				
担当教員の 実務経験	現在 国際医療福祉大学大学院教授 精神科看護師 実務経験 16年				
オフィスアワー	UHAS@Myキャンパスから質問の受付や面接日時の調整ができます。質問・面接予約等はUHAS@m yキャンパスより申込んでください。				
配当年次	1-4	選択	単位数	テキスト履修： 4単位 / インターネット 授業履修：1単位	
授業形態	講義				
アクティブラーニング					
授業方法	メディア授業 印刷授業				
資格等 関連科目	【B130T】養護教諭養成コース				
科目コード	B130T / B131N				
科目区分	こころとからだの関係				
テキストの変更 ・改訂	2022年度からの変更・改訂： なし				
使用教材	教科書	『精神保健看護学』、瀧川 薫・鈴木英子他、「オーム社」			
	参考書等	『精神保健看護辞典』、瀧川 薫・鈴木英子他、「オーム社」			
授業概要 (目的・ねらい)	1 精神保健：人間の発達と危機的状況について理解できる。 2 人関係の基本となる個人の倫理観、パーソナリティについて理解できる。 3 精神科における主要疾患を学びその要因、病体について理解できる。 4 ストレスとストレス対処方法を学び、自らの精神的健康について考えることができる。 5 職業上のストレスについて学びストレス予防について考えることができる。 6 ストレス予防のためのコミュニケーション技法について述べるができる。				
キーワード	人間発達上の危機 / うつ病 / ストレス / ストレスコーピング / アサーティブネス（自己主張のありかた）				
テキストの内容 及びアドバイス	精神看護、精神科看護の標準テキストを選択した。この中から主要疾患を学んだ上で自らの精神的健康について振り返り、ストレスやその予防について学んで欲しい。				
一般目標 (GIO)	この授業を通して、精神看護学の基本概念、精神疾患や精神的健康の理解を深め説明することができる。				
行動目標 到達目標 (SBOs)	対人関係の基本となる倫理観や健全なパーソナリティについて学び、自らの精神的健康を考え、自分にあったストレスの対処法、職業上のストレスとその予防について学び、少しでも日常に生かしていただきたい。				
卒業認定・学位授与 の方針と本科目の 関連					
ディプロマポリシー との関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ▪ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学ぼうとする意欲、豊かな人間性 ▪ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育 ▪ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得			

		■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。
	学科	心身健康科学科に関連する項目 4. 現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に寄与できる能力を身につけていること
カリキュラムポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学科	心身健康科学科に関連する項目
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 【テキスト履修】 評価は「科目修了試験」（100％）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。ただし、「テキスト課題」に合格（60点以上）した者が、「科目修了試験」を受験できる。 【インターネット履修】 評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 評価は「最終レポート」（100％）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。 ただし、各時限の「確認学修」を行い、全ての時限で合格（60点以上）した者が、「最終レポート」を受験できる。 最終レポート内の「記述問題」については、以下の項目に従って評価する。 ・ 指定文字数に従っているか。過不足がないか。 ・ 誤字、脱字がないか。 ・ 出題内容の問い、趣旨に答えているか。 ・ 文章が論理的か ・ 専門用語を適切、正確に使用しているか。 ・ 常体（『である』調）で記述されているか。 ・ 他人のレポートをコピー＆ペーストしていないか。 ・ ChatGPT等の生成AIの利活用は可ですが、利活用した際には、利活用した旨の記載や、利活用した生成AIの種類・箇所等を明記ください。（回答文字数には含まれません）	
課題に対するフィードバックの方法	テキスト課題合格時に「解答・解説」を表示してフィードバックする。	
スクーリング履修における授業準備（予習・復習）の	【予習】 事前に渡す質問紙に回答して（20分ほどでできるもの）授業に臨んでほしい。 理解が難しい専門用語は自分なりにチェックをして図書館等で調べ確認できるようにしておく。	

具体的な内容及び それに必要な時間	テキストを読み、事前に概要を学習するとともに、参考書にも目を通しておく和良好的。 (1コマにつき2時間程度) 【復習】 講義のノート等を振り返り、確実にキーワードを理解してほしい。 講義内容の重要事項を、テキストで再度確認しておく。 (1コマにつき2時間程度)			
スクーリング履修 での講義内容	授業計画			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員
	1時限	精神看護学の基本概念と位置づけ及び精神保健医療の歴史と法制度、精神保健と精神看護、人間の発達と危機的状況	人間の発達と危機的状況	
	2時限	対人関係の基本となる個人の倫理観、健全なパーソナリティ	倫理観とパーソナリティ	
	3時限	精神疾患の分類と主要疾患（神経症とパーソナリティ生涯）	神経症水準、人格障害水準、精神病水準	
	4時限	精神疾患の分類と主要疾患（統合失調症とうつ病）	現代増えつつあるうつ病	
	5時限	ストレスとストレスコーピング	ストレス	
	6時限	ストレスとバーンアウト	職業上のストレス障害	
	7時限	ストレス予防のためのアサーティブス（自己主張の方法）	ストレス予防	
	8時限	まとめ	本科目で学修したことを振り返りストレス予防のための応用を考える	
授業評価アンケートに基づく改善点	・次年度より受講生の皆様のご意見を基に、授業内容を改善していく予定です。 皆様のご意見が、より良い授業をつくっています。本年度の授業評価アンケートへのご協力をお願いします。			
方略	教科書の中で重要となる概念や知識をテキスト課題の学修やVOD視聴を通して理解する。理解しにくい箇所やわからない箇所については担当教員に質問をして解消する。			
連絡事項				

科目名	こころの健康と病（N）				B
サブタイトル					
対象学科	人間科学部 心身健康科学科				
担当教員	鈴木康弘				
担当教員の 実務経験	・ 医療機関・児童相談所・教育現場等での実務経験 ・ 医学部「精神医学」オムニバス講義の心理検査実習の講師歴 ・ 大学や医療福祉系専門学校での「精神医学」「臨床心理学」等の講師歴 ・ 公認心理師・臨床心理士を養成する指定大学院の学生に対する実習指導歴				
オフィスアワー					
配当年次	1-4	選択	単位数	インターネット履修：2単位	
授業形態	講義				
アクティブラーニング					
授業方法	メディア授業				
資格等 関連科目	認定心理士				
科目コード	B146N				
科目区分	こころとからだの関係				
テキストの変更 ・改訂	変更なし				
使用教材	教科書	『よくわかる臨床心理学 改訂新版 15刷』、下山晴彦編,「ミネルヴァ書房」			
授業概要 (目的・ねらい)	使用テキストでは、米国心理学会（APA）による臨床心理学の包括的定義「科学、理論、実践を統合して、人間行動の適応調整や人格の成長を促進し、さらには不適応、障害、苦悩の成り立ちを研究し、問題を予測し、そして問題を軽減、解消することを目指す学問である」を引用し、臨床心理学の特徴として「人間行動がどのように維持発展されるかについての科学的探究にかかわること、および人間の苦悩を生み出す状況を改善し、問題を解決していく専門的援助実践にかかわること」を挙げています。 これらのことから、臨床心理学の目的は、科学的な知見に基づいて人々の心身の健康を保持するという心身健康科学の目的に直結するものであると考えられます。 学者自身や周りの方々にとって、そしてより大きな視点からの、Well-Beingな生き方、在り方の探求に役立てていただきたい。				
キーワード	アセスメント／データ／異常心理学／ライフサイクル／発達／介入／心理療法／コミュニティ／倫理／臨床心理学研究				
テキストの内容 及びアドバイス	テキストは、下記の内容で構成されています。臨床心理学の領域における理論と実践、および研究に関する包括的概説となっており、最後は「臨床心理士になるために」という章ですが、公認心理師やその他の心理的援助職を目指す人にも参考になる内容です。心理的援助がどのような理論に基づきどのようなようになされているか、さらには人の心についての科学研究方法について学ぶことを通して、心身健康科学的探究を深めてください。 I 臨床心理学の構造と歴史 II 臨床心理学の基本理論 III アセスメントの目的と方法 IV データの収集技法 V データの分析方法 VI 異常心理学 VII ライフサイクルと心理的問題 VIII 発達過程で生じる障害や問題 IX 問題介入の理論モデル X 問題介入の技法～個人 XI 問題介入の技法～集団・社会 XII コミュニティにおける相談活動 X III 臨床心理学研究 X IV 社会的専門性 X V 臨床心理士になるために				
一般目標 （GIO）	人（個人・集団）の心理的健康の維持や回復のための援助に資する学問である臨床心理学の思考法、研究法、実践法について理解する。				
行動目標 到達目標 （SBOs）	臨床心理学の歴史について説明できる。 心理アセスメントの目的と方法について説明できる。 心理的障害の主な種類について説明できる。 ライフサイクルと心理的問題の関係について説明できる。 発達過程で生じる問題について説明できる。 心理的介入方法の主なものについて説明できる。 臨床心理学研究の種類と方法について説明できる。 心理的援助とその専門性について説明できる。				
卒業認定・学位授与 の方針と本科目の 関連					

ディプロマポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学ぼうとする意欲、豊かな人間性 ■ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育 ■ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。
	学科	心身健康科学科に関連する項目 1. 人間と社会の諸側面について、「こころ」「からだ」「環境・社会」のそれぞれの領域に関する専門知識を持っていること
カリキュラムポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学科	心身健康科学科に関連する項目
評価方法・基準		評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 評価は「最終レポート」（100％）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。 ただし、各時限の「確認学修」を行い、全ての時限で合格（60点以上）した者が、「最終レポート」を受験することができる。 最終レポート内の「記述問題」については、以下の項目に従って評価する。 ・指定文字数に従っているか。過不足がないか。 ・誤字、脱字がないか。 ・出題内容の問い、趣旨に答えているか。 ・文章が論理的か ・専門用語を適切、正確に使用しているか。 ・常体（『である』調）で記述されているか。 ・他人のレポートをコピー＆ペーストしていないか。 ※ ChatGPT等の生成AIの利活用は可ですが、利活用した際には、利活用した旨の記載や、利活用した生成AIの種類・箇所等を明記ください（回答文字数には含まれません）。

課題に対する フィードバック の方法	各授業直後に実施する確認問題の正答率が各授業の理解度を反映しています。確認問題は、授業内で扱ったテーマから出題されますので、全て正解となるようにしっかりと授業を聴講してください。			
スクーリング履修 での講義内容	授業計画			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員
	1	臨床心理学の構造と歴史	インフォームドコンセント、心理療法、コラボレーション	
	2	臨床心理学の基本理論	物語性、実証性、生物―心理―社会モデル	
	3	アセスメントの目的と方法	ケース・フォーミュレーション、初回面接、検査法、観察法	
	4	データの収集技法	質問紙法、投影法、知能検査法、神経心理学的検査	
	5	データの分析方法	応用行動分析、機能分析、生態学的アセスメント	
	6	異常心理学	精神病理学、診断分類、精神障害、薬物療法	
	7	ライフサイクルと心理的問題	生涯発達、Erikson,E.H、モラトリアム	
	8	発達過程で生じる障害や問題	発達障害、不登校、非行	
	9	問題介入の理論モデル	統合的視点、心理療法、コミュニティ心理学	
	10	問題介入の技法～個人	箱庭療法、フォーカシング、自律訓練法	
	11	問題介入の技法～集団・社会	危機介入、コンサルテーション、心理教育	
	12	コミュニティにおける相談活動	スクールカウンセリング、特別支援教育、学生相談、EAP、デイケア、ターミナルケア	
	13	臨床心理学研究	質的・量的研究、事例研究、効果研究	
	14	社会的専門性	倫理、関連法規、社会的連携、教育	
	15	臨床心理士になるために	事例検討、スーパーヴィジョン、インターンシップ	
授業評価アンケートに基づく改善点	今期より新しく開講した科目となります。このため、評価アンケートデータはありませんが、受講生の皆様のご要望、ご意見等を踏まえて改善してまいりたいと思います。授業評価アンケートについてのご協力、何卒宜しくお願ひ致します。			
方略	関連するテキストの該当箇所を丁寧に精読してください。			
連絡事項				

科目名	人間関係とこころのしくみ（N）				B
	サブタイトル				
実務経験のある教員による授業科目					
対象学科	人間科学部 心身健康科学科				
担当教員	鈴木康弘				
担当教員の 実務経験	・ 医療機関・児童相談所・教育現場等での実務経験 ・ 医学部「精神医学」オムニバス講義の心理検査実習の講師歴 ・ 大学や医療福祉系専門学校での「精神医学」「臨床心理学」等の講師歴 ・ 公認心理師・臨床心理士を養成する指定大学院の学生に対する実習指導歴				
オフィスアワー					
配当年次	1-4	選択	単位数	インターネット授業履修：2単位	
授業形態	講義				
アクティブラーニング	有				
授業方法	メディア授業				
資格等 関連科目	認定心理士				
科目コード	B147N				
科目区分	こころとからだの関係				
テキストの変更 ・改訂	なし				
使用教材	教科書	メディカルスタッフのための基礎からわかる人間関係論，山蔦圭輔・本田周二著，2021，南山堂			
授業概要 (目的・ねらい)	人間関係をめぐって、例えば患者との関りを業とする医療職には、高い人間関係能力が求められます。人間関係に起因する心理的ストレスの軽減のためにも、こころのしくみを理解することは有益です。 本授業では心理学に基づいて人間関係論やコミュニケーション論について学び、同時にこころのしくみについて理解を深めていきます。 また、コミュニケーションとは自己と他者の情報や感情などの共有を意味します。「わかりあえない」から始まって「わかりあえる」関係性をどのように構築していくのか理解を深めることを目指します。 本授業は教科書に沿って学びます。アクティブラーニングを取り入れ、こころのしくみに関連した知識・技能・態度の統合を目指します。				
キーワード	コミュニケーション／情動／ストレス／援助行動／動機づけ				
テキストの内容 及びアドバイス	教科書は第15章にわたり、医療従事者を想定した心理学に基づく人間関係論について書かれているが、医療現場と関連のない学生でも理解できる入門的な内容になっている。履修する学生それぞれの立場に置き換えて学修を進めていくことが可能である。				
一般目標 (GIO)	日常生活において、あるいは対人援助職として患者やその家族に関わって支援をするにあたり、友好的な人間関係を構築するために、人の情動や人間関係、コミュニケーション、こころのしくみについて学修する。				
行動目標 到達目標 (SBOs)	1．主に臨床心理学を背景にした人間関係に関する主要な理論や用語を説明できる。 2．人間関係を効果的に構築・維持する能力について説明できる。 3．援助する対象者である患者やその家族の側に立って理解する。 4．こころのしくみについて、人間関係を通して理解する。 5．人間関係に起因する心理的ストレスを軽減するための知識を身に着ける。 6．人間関係で求められるソーシャルスキルを概説できる。 7．人間関係やコミュニケーションの重要性を理解する。 8．人間関係やコミュニケーションについて議論することができる。 9．学修した理論を基にして、実際の人間関係場面に活かすことがイメージできる。 10．学修した理論を自らの自己理解や自己研鑽に活かすことができる。				
卒業認定・学位授与 の方針と本科目の 関連					
ディプロマポリシー との関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。			

		1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ▪ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学習意欲、豊かな人間性 ▪ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育 ▪ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ▪ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。
	学科	心身健康科学科に関連する項目 1. 人間と社会の諸側面について、「こころ」「からだ」「環境・社会」のそれぞれの領域に関する専門知識を持っていること 2. 専門的知識を自身や社会・職業上の問題関心と有機的に関連付けて問題を解決する能力を身につけていること 3. 「こころ」「からだ」「環境・社会」の統合的・学際的な知識を持っていること 4. 現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に寄与できる能力を身につけていること
カリキュラムポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学科	心身健康科学科に関連する項目 1. 人間の「こころ」「からだ」「環境・社会」の相互関係と、健康で幸福な社会の実現に貢献するために必要な学識を修得するために「コア科目」を設ける 2. 総合的、学際的に人間を理解するために「分野別科目」として、「こころとからだの関係」「いのちと健康のしくみ」「環境・社会と人間」「未来と人間」の4分野を設ける 3. 社会生活の中に存在する課題や関心領域のテーマに、学際的、総合的な観点からアプローチし、科学的知識を応用することによって問題解決を図る能力を修得するために、「総合演習」を設ける
評価方法・基準		評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 評価は「最終レポート」（100％）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。 ただし、各時限の「確認学修」を行い、全ての時限で合格（60点以上）した者が、「最終レポート」を受験する

	ことができる。 最終レポート内の「記述問題」については、以下の項目に従って評価する。 ・ 指定文字数に従っているか。過不足がないか。 ・ 誤字、脱字がないか。 ・ 出題内容の問い、趣旨に答えているか。 ・ 文章が論理的か ・ 専門用語を適切、正確に使用しているか。 ・ 常体（『である』調）で記述されているか。 ・ 他人のレポートをコピー＆ペーストしていないか。 ※ ChatGPT等の生成AIの利活用は可ですが、利活用した際には、利活用した旨の記載や、利活用した生成AIの種類・箇所等を明記ください（回答文字数には含まれません）。			
課題に対する フィードバック の方法	各授業直後に実施する確認問題の正答率が各授業の理解度を反映しています。確認問題は、授業内で扱ったテーマから出題されますので、全て正解となるようにしっかりと授業を聴講してください。			
スクーリング履修 における授業準備 （予習・復習）の 具体的な内容及び それに必要な時間	【予習】 事前に指定された教科書の部分を読みながら、自分の情動や体験談を思い出して考えてみること。 (1コマにつき2時間程度) 【復習】 授業の内容や小テストで問われた内容を振り返り、自分の考えを紙に書き出すなどして、自己理解を深めること。 (1コマにつき2時間程度)			
スクーリング履修 での講義内容	授業計画			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員
	1	人間関係とは	【アクティブラーニング】 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて考える。 コミュニケーション／臨界期／生涯発達理論	
	2	対人認知	【アクティブラーニング】 ステレオタイプについて考える。 印象形成／スキーマ／原因帰属／対人魅力／ピグマリオン効果	
	3	パーソナリティ	【アクティブラーニング】 自己イメージと他者イメージについて考える。 自己概念／類型論と特製論／測定と心理検査	
	4	コミュニケーションとチャネル	【アクティブラーニング】 インターネット依存の程度を測定する。 CMC／SNS／インターネット	
	5	感情（情動）	【アクティブラーニング】 自分の感情について振り返る。 感情／感情認知／感情労働	
	6	葛藤と欲求不満	【アクティブラーニング】 日常生活の様々な葛藤場面について振り返る。 防衛機制／精神分析学／心的装置	
	7	ストレス	【アクティブラーニング】 自分のストレスコーピングについて考える。 汎適応症候群／ストレッサー／オプティマル・ストレス	

	8	援助行動・援助要請とソーシャルサポート, 社会的スキル	【アクティブラーニング】 社会的スキルについて測定する。 援助希求意識／傍観者効果／SST	
	9	人間関係を理解する	【アクティブラーニング】 自分の対人関係について考える。 交流分析／エゴグラム／マインドフルネス	
	10	カウンセリング的アプローチと人間関係	【アクティブラーニング】 聴く姿勢について考える。 来談者中心療法／自己理論／心理アセスメント	
	11	動機づけと人間関係	【アクティブラーニング】 自分の動機や目標について考える。 外発的・内発的動機づけ／マズローの欲求5段階説／アンダーマイニング効果／学習性無力感／自己効力感	
	12	リーダーシップとチーム	【アクティブラーニング】 リーダーシップ能力について考える。 PM理論／サーバント・リーダーシップ／タスク・フォースとクルーとチーム	
	13	コーチング	【アクティブラーニング】 対人援助に有効なコミュニケーションについて考える。 動機づけ面接法／行動主義／モデリング	
	14	集団	【アクティブラーニング】 内集団と外集団について考える。 同調／集団思考／社会的アイデンティティ	
	15	人間関係を難しくする障害	【アクティブラーニング】 他者を援助することについて考える。 自閉スペクトラム症／パーソナリティ障害	
授業評価アンケートに基づく改善点	今期より新しい担当講師による開講科目です。そのため、今年度は評価アンケートデータはありませんが、受講生の皆さんのご要望、ご意見等を踏まえて改善していきますので、事務局より案内のある授業評価アンケートへの回答をお願い致します。			
方略	指定の教科書を読み進めながら、映像授業を視聴する。授業内で考えたり取り組むことのできるアクティブラーニングや確認問題を実施し、学修できるように構成している。また、レポートの作成によって、人間関係論とこちらのしくみをより深く理解するための学修を行う。			
連絡事項				

科目名	自立活動の指導の実際 入門編（S）				B
	サブタイトル	教育としてのアプローチとは何か			
実務経験のある教員による授業科目					
対象学科	人間科学部 心身健康科学科				
担当教員	西郷建彦				
担当教員の 実務経験	特別支援学校において、自立活動教諭や担任などの活動実績がある。また、地域の学習会や教員向けのセミナーなどで、講義や実技指導を行っている。これらに関する特別支援学校教諭及び養護・訓練の教員免許を有している。				
オフィスアワー	非常勤講師のためUHAS@Myキャンパスでの質問箱で随時配布資料や課題についての質問を受け付けます。				
配当年次	1-4	選択	単位数	スクーリング履修：1単位	
授業形態	演習				
アクティブラーニング	有				
授業方法	面接授業				
資格等 関連科目	自立活動教諭				
科目コード	B148S				
科目区分	こころとからだの関係				
テキストの変更 ・改訂	2026年度より『みんなのうんどう』、西郷建彦（著）、「虎乃穴書房」,2025年に変更。				
使用教材	教科書	『みんなのうんどう』、西郷建彦（著）、「虎乃穴書房」,2025年。			
	参考書等	・『筋の機能解剖』、John H. Warfel（著） 矢谷令子／小川恵子（訳）、「医学書院」、1993年、第4版			
授業概要 (目的・ねらい)	本科目は、障害のある子どもたちに、どうしても必要な共通的学习内容を学び、かつ指導方法を習得することで、基本となる自立活動の指導ができるようにする。 また、教育である自立活動と、理学療法などの医療との違いを明確にし、教育としてのアプローチとは何かを理解する。				
キーワード	教育とは／自立活動／ボディ・イメージ／教科書／「基本のうんどう」				
テキストの内容 及びアドバイス	テキストは、障害のある子どもにとって、必要最低限の学習内容を、いろいろな指導方法を総合的に使って指導できるようにプログラムされた内容になっている。また、必要な医学的知識も自然と覚えられるように構成されている。 まずは、テキストに従い障害のある子どもたちに「基本のうんどう」を繰り返し行い、自立活動における基本となる手技（触れる、動かす、揺らす）を獲得してほしい。				
一般目標 (GIO)	自立活動の指導が自信をもって行えるために、教育としての理解と基本手技を学び、どんな障害のある子どもたちにも、共通的な自立活動の指導ができるようにする。				
行動目標 到達目標 (SBOs)	①教育基本法から教育の目的を述べられる。 ②日本国憲法から教育を行う上での任務を説明できる。 ③自立活動を概括できる。 ④子どもの障害の状態や行動を受容する態度をもっている。 ⑤子どもの障害の状態や行動に共感する態度をもっている。 ⑥子どもの障害の状態や行動の変化を待つ態度をもっている。 ⑦子どもを包み込むような受容的な触れ方ができる。 ⑧子どもと一緒にいるような共感的なゆらし方ができる。 ⑨子どもの動きを待ちながら動かすことができる。				
卒業認定・学位授与 の方針と本科目の 関連					
ディプロマポリシー との関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育			

		■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学ぼうとする意欲、豊かな人間性 ■ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通じた医療・健康・食・栄養の専門職教育 ■ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力		
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。		
	学科	心身健康科学科に関連する項目 2. 専門的知識を自身や社会・職業上の問題関心と有機的に関連付けて問題を解決する能力を身につけていること 4. 現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に寄与できる能力を身につけていること		
カリキュラムポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る		
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る		
	学科	心身健康科学科に関連する項目		
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 講義における授業態度(20%)と指導の実際の手技(80%)の総合評価とする。総合評価で60点以上を合格とする。			
課題に対するフィードバックの方法	スクーリング中に行われる講義に対する質問や実技の際に、教員が受講者の課題に対する理解度を確認しコメントを伝える。			
スクーリング履修における授業準備（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間	【予習】 テキスト（資料）を読んで、疑問点を整理しておく。（1コマにつき2時間程度） 【復習】 テキストを見ながら、自分で体験する。（1コマにつき2時間程度）			
スクーリング履修での講義内容	授業計画			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員

	1時限	新しいうんどうとは	「新しいうんどう」とは何かを、教育の本来の意義から学ぶ。また教育としての自立活動を再認識する。 「基本のうんどう」／ボディ・イメージ／教育	西郷建彦
	2時限	基本のうんどう	障害のある子どもたちすべてにおいて、共通的に必要と思われる学習内容で組み立てる指導プログラムとして、「基本のうんどう」を学ぶ。 「基本のうんどう」／ボディ・イメージ／全体	西郷建彦
	3時限	心を開くとき	「新しいうんどう」での基本手技としての、触れ方、動かし方、揺らし方を心身相関の立場から学ぶ。 受容すること／共感すること／待つこと	西郷建彦
	4時限	自己への気づき	重度の障害のある子どもたちに、まず自己の存在に気づくような感覚体験をさせることを学ぶ。 手／足／身体／遠近	西郷建彦
	5時限	呼吸（１）・排泄	腹部や頸部のボディ・イメージを正常かつ明確にして、それぞれ上下、左右の方向感覚を体験させ、呼吸の改善を図ることを学ぶ。 腹／上下／首／左右	西郷建彦
	6時限	呼吸（２）・嚥下	背部、腰部、前傾部、唇部のボディ・イメージを正常かつ明確にして、呼吸や嚥下の改善を図ることを学ぶ。 背中／腰／のど／唇	西郷建彦
	7時限	座位	背臥位から座位になり、立ち直りやバランス保持の経験を行うことで、より安定した姿勢がとれることを学ぶ。 立ち直り／バランス／脊柱入力／注視・追視	西郷建彦
	8時限	基本のうんどうの実際	自己の気づきから座位までを通して行うことで、「基本のうんどう」を復習し、身体全体を教えることを学ぶ。 全体／評価／アセスメント	西郷建彦
授業評価アンケートに基づく改善点	今後とも、受講生の皆さんのご要望、ご意見等を踏まえて改善してまいりたいと思います。授業評価アンケートについてのご協力、何卒宜しくお願い致します。			
方略	まずは、基本手技である触れ方、動かし方、ゆらし方を理解し習得する。次に、ポイントとなる箇所を明確に意識しながら、正しい基本手技を使って役割（子ども側、教師側）を交代しながらお互いに体験する。この際特に、施行される側（子ども側）になった時に感じたことを大切にする。ややもすると施行する側（教師側）に力点が置かれやすいが、あくまでも学修は施行される側（子ども側）であることを忘れないでほしい。			
連絡事項	このプログラムはすべての障害のある子どもに必要なものです。できるだけ多くの障害のある子どもに、このプログラムを実施することによって、基本手技を習得できるはずである。触れる位置も重要なので、初めはテキストをみながら行うことを推奨する。また実習時、される側になった時に気づいた感覚経験を大切にする。			

科目名	自立活動の指導の実際 基礎編（S）				B
	サブタイトル	教育は生命保持活動へのアプローチはできるか			
実務経験のある教員による授業科目					
対象学科	人間科学部 心身健康科学科				
担当教員	西郷建彦				
担当教員の 実務経験	特別支援学校において、自立活動教諭や担任などの活動実績がある。また、地域の学習会や教員向けのセミナーなどで、講義や実技指導を行っている。これらに関する特別支援学校教諭及び養護・訓練の教員免許を有している。				
オフィスアワー	非常勤講師のためUHAS@Myキャンパスでの質問箱で随時配布資料や課題についての質問を受け付けます。				
配当年次	1-4	選択	単位数	スクーリング履修：1単位	
授業形態	演習				
アクティブラーニング	有				
授業方法	面接授業				
資格等 関連科目	自立活動教諭				
科目コード	B149S				
科目区分	こころとからだの関係				
テキストの変更 ・改訂	2026年度より『みんなのうんどう』、西郷建彦（著）、「虎乃穴書房」,2025年に変更。				
使用教材	教科書	『みんなのうんどう』、西郷建彦（著）、「虎乃穴書房」,2025年。			
	参考書等	・『筋の機能解剖』、John H. Warfel（著） 矢谷令子／小川恵子（訳）、「医学書院」、1993年、第4版			
授業概要 (目的・ねらい)	本科目は、障害のある子どもたちの自立活動の内容の基礎的な部分を扱う。誰もが、必ず経験しなければならない学習内容の理解と方法などの習得を図る。また、すでに学んだ「基本のうんどう」に、「基礎のうんどう」から健康に関することと得意なことを伸ばすための学習内容を加えることによって、基礎的な指導プログラムが作成できることを学ぶ。				
キーワード	「基礎のうんどう」／指導プログラム／教科指導／自立活動／子どもにとっての課題				
テキストの内容 及びアドバイス	テキストは、基礎的な自立活動の学習内容について、いろいろな指導方法を総合的に使って指導できるよう構成されている。また、必要な医学的知識も自然と覚えられるように構成されている。 テキストから障害のある子どもに必要と思われる健康に関わることと得意なものに繋がる学習内容を選び、「基本のうんどう」に加えて基礎的な指導プログラムを作成し、実際に子どもたちに行ってください。				
一般目標 （GIO）	自立活動の指導が自信をもって行えるために、基礎的な指導のあり方と指導プログラムの作成及び方法を学び、どんな障害のある子どもたちにも、自立活動における基礎的な指導ができるようにする。				
行動目標 到達目標 （SBOs）	①「基礎のうんどう」の自立活動における位置づけを説明できる。 ②「基礎のうんどう」の自立活動における意義を説明できる。 ③自立活動における基礎的な指導プログラムが作成できる。 ④子どもの障害の状態や行動を受容する態度をもっている。 ⑤子どもの障害の状態や行動に共感する態度をもっている。 ⑥子どもの障害の状態や行動の変化を待つ態度をもっている。 ⑦子どもを包み込むような受容的な触れ方ができる。 ⑧子どもと一緒にいるような共感的なゆらし方ができる。 ⑨子どもの動きを待ちながら動かすことができる。 ⑩神経生理学的な配慮を持って、子どもにアプローチできる。				
卒業認定・学位授与 の方針と本科目の 関連					
ディプロマポリシー との関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育			

		■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学ぼうとする意欲、豊かな人間性 ■ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通じた医療・健康・食・栄養の専門職教育 ■ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力		
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。		
	学科	心身健康科学学科に関連する項目 2. 専門的知識を自身や社会・職業上の問題関心と有機的に関連付けて問題を解決する能力を身につけていること 4. 現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に寄与できる能力を身につけていること		
カリキュラムポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る		
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る		
	学科	心身健康科学学科に関連する項目		
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 講義における授業態度(20%)と指導の実際の手技(80%)の総合評価とする。総合評価で60点以上を合格とする。			
課題に対するフィードバックの方法	スクーリング中に行われる講義に対する質問や実技の際に、教員が受講者の課題に対する理解度を確認しコメントを伝える。			
スクーリング履修における授業準備（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間	【予習】 テキスト（資料）を読んで、疑問点を整理しておく。（1 コマにつき 2 時間程度） 【復習】 テキストを見ながら、自分で体験する。（1 コマにつき 2 時間程度）			
スクーリング履修での講義内容	授業計画			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員

	1時限	生命保持活動への教育としてのアプローチ①	教育としての生命保持機能へアプローチはできるのか。重度重複障害児にとつての最も重要なものの一つである呼吸、拘束性換気障害についての検討する。 教育としてのアプローチ／呼吸のメカニズム／拘束性換気障害	西郷建彦
	2時限	生命保持活動への教育としてのアプローチ②	重度重複障害児の多くのケースでの呼吸障害である閉塞性換気障害について扱う。また、関連した嚥下、排泄、血行について検討する。 閉塞性換気障害／嚥下／排泄／血行／生命保持活動への教育としてのアプローチ	西郷建彦
	3時限	手足	感覚器としての性質を持つ手足に、いろいろな種類の変化にとんだ感覚入力をすることを学ぶ。 手／足	西郷建彦
	4時限	体の前側	「基本のうんどう」で扱っていない体幹の前側のボディ・イメージを育て、呼吸障害の改善につなげることを学ぶ。 胸／顎下／口	西郷建彦
	5時限	手足の付け根	上肢帯、下肢帯、それらの周辺部のボディ・イメージを育て、呼吸やスムーズな関節運動につなげることを学ぶ。 肩／上腕／腰／大腿	西郷建彦
	6時限	仰向けからうつ伏せへ 体の後側	立ち直り反応の促通による体幹の回旋を行い、身体の後側のボディ・イメージを育て、安定した腹臥位につなげることを学ぶ。 体幹の回旋／背中／中心と輪郭	西郷建彦
	7時限	体幹と手足へのつながり うつ伏せから仰向けへ	体幹から上肢や下肢が離れる（分離する）イメージの体験によりボディ・イメージを育て、肘立て位によって抗重力姿勢の立ち直り反応やバランス反応につなげることを学ぶ。 体幹／肘立て位／立ち直り／バランス	西郷建彦
	8時限	「基礎のうんどう」の実際	「基本のうんどう」に「基礎のうんどう」から選択した学習内容を加え、実際に「基礎のうんどう」を行う。 基本のうんどう／+a1／+a2／基礎のうんどうプログラム	西郷建彦
授業評価アンケートに基づく改善点	今後とも、受講生の皆様のご要望、ご意見等を踏まえて改善してまいりたいと思います。授業評価アンケートについてのご協力、何卒宜しくお願い致します。			
方略	まずは、触れ方、動かし方、ゆらし方の正しい基本手技を行うこと。次に、ポイントとなる箇所を明確に意識しながら、正しい基本手技を使ってお互いに役割（子ども側、教師側）を交代しながら体験していく。この際特に、施行される側（子ども側）になった時に感じたことを大切にする。ややもすると施行する側（教師側）に力点が置かれやすいが、あくまでも学修は施行される側（子ども側）であることを忘れないでほしい。			
連絡事項	「基本のうんどう」に加える「基礎のうんどう」から選択した学習内容は、担当している教師の観察上の根拠によるもので良い。万が一効果が現れないときは、中間評価の時に、「基礎のうんどう」から選択する学習内容を検討してほしい。その中で、また観察する力や基本手技の力も増すはずである。とにかく繰り返し実践してほしい。ポイントになる箇所については、参考書などを使い、解剖学的な視点も育てるようにする。			

科目名	自立活動の指導の実際 展開編（S）				B
	サブタイトル		教育としての文化の伝承は自立活動へのアプローチとならないのか		
実務経験のある教員による授業科目					
対象学科	人間科学部 心身健康科学科				
担当教員	西郷建彦				
担当教員の 実務経験	特別支援学校において、自立活動教諭や担任などの活動実績がある。また、地域の学習会や教員向けのセミナーなどで、講義や実技指導を行っている。これらに関する特別支援学校教諭及び養護・訓練の教員免許を有している。				
オフィスアワー	非常勤講師のためUHAS@Myキャンパスでの質問箱で随時配布資料や課題についての質問を受け付けます。				
配当年次	1-4	選択	単位数	スクーリング履修：1単位	
授業形態	演習				
アクティブラーニング	有				
授業方法	面接授業				
資格等 関連科目					
科目コード	B150S				
科目区分	こころとからだの関係				
テキストの変更 ・改訂	2026年度より『みんなのうんどう』、西郷建彦（著）、「虎乃穴書房」,2025年に変更。				
使用教材	教科書	『みんなのうんどう』、西郷建彦（著）、「虎乃穴書房」,2025年。			
	参考書等	・『筋の機能解剖』、John H. Warfel（著） 矢谷令子／小川恵子（訳）、「医学書院」、1993年、第4版			
授業概要 (目的・ねらい)	本科目は、障害のある子どもたちの課題に対するアプローチを扱う。子どもたちに応じた課題の学習内容の理解と方法などの習得を図る。また、「課題のうんどう」の学習内容に、実際の課題を適切に加えることによって、課題に向けての指導プログラムが作成できることを学ぶ。				
テキストの内容 及びアドバイス	テキストは、子どもに応じた課題に関する学習内容について、いろいろな指導方法を総合的に使って指導できるよう構成されている。また、必要な医学的知識も自然と覚えられるように構成されている。 テキストの「課題のうんどう」から子どもに応じた課題に繋がる学習内容を選び、課題を適切に加えて課題に向けての指導プログラムを作成し、実際に子どもたちに行ってください。				
一般目標 (GIO)	自立活動の指導が自信をもって行えるために、子どもたちに応じた課題に向けての指導のあり方と指導プログラムの作成及び方法を学び、どんな障害のある子どもたちにも、自立活動における課題に向けての指導ができるようにする。				
行動目標 到達目標 (SBOs)	①「課題のうんどう」の自立活動における位置づけを説明できる。 ②「課題のうんどう」の自立活動における意義を説明できる。 ③自立活動における課題に向けての指導プログラムが作成できる。 ④子どもの障害の状態や行動を受容する態度をもっている。 ⑤子どもの障害の状態や行動に共感する態度をもっている。 ⑥子どもの障害の状態や行動の変化を待つ態度をもっている。 ⑦子どもを包み込むような受容的な触れ方ができる。 ⑧子どもと一緒にいるような共感的なゆらし方ができる。 ⑨子どもの動きを待ちながら動かすことができる。 ⑩神経生理学的な配慮を持って、子どもにアプローチできる。				
卒業認定・学位授与 の方針と本科目の 関連					
ディプロマポリシー との関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ▪ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学ぼうとする意欲、豊かな人間性			

		■ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通じた医療・健康・食・栄養の専門職教育 ■ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力		
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。		
	学科	心身健康科学科に関連する項目 2. 専門的知識を自身や社会・職業上の問題関心と有機的に関連付けて問題を解決する能力を身につけていること 4. 現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に寄与できる能力を身につけていること		
カリキュラムポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る		
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る		
	学科	心身健康科学科に関連する項目		
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 講義における授業態度(20%)と指導の実際の手技(80%)の総合評価とする。総合評価で60点以上を合格とする。			
課題に対するフィードバックの方法	スクーリング中に行われる講義に対する質問や実技の際に、教員が受講者の課題に対する理解度を確認しコメントを伝える。			
スクーリング履修における授業準備（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間	【予習】 テキスト（資料）を読んで、疑問点を整理しておく。（1コマ2時間程度） 【復習】 テキストを見ながら、自分で体験する。（1コマ2時間程度）			
スクーリング履修での講義内容	授業計画			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員
	1時限	新しいうんどうの指導内容と自立活動の方程式	新しいうんどう」の中での「課題のうんどう」の位置付けを明確にし、方向性とプログラム作成の手順を学ぶ。	西郷建彦

		全体／学習過程（作る・使う）／姿勢／移動／操作／言語	
2時限	移動①	移動動作の基礎となる下肢全体を扱う。 陰性支持反射／内反洗足／外反扁平足／下肢（帯）	西郷建彦
3時限	移動②	寝返りから腹臥位、立ち上がり、立位と連続した内容と歩行を扱う。 立ち直り反応／バランス反応／対称性頸反射／陽性支持反応／寝返り	西郷建彦
4時限	操作①	手指、前腕部および上肢全体を扱う。 手指と前腕部／手関節背屈・掌屈／上肢（帯）	西郷建彦
5時限	操作②	操作としての、握り、放し、リーチ、つまみを扱い、認識に関連する手についても学ぶ。 握り／放し／リーチ／つまみ／手と脳	西郷建彦
6時限	言語①	言語に関わる前頸部、顔面部を扱い、摂食機能との関連も学ぶ。 発声／嚥下／両唇音／取り込み	西郷建彦
7時限	言語②	言語に関わる舌部を扱い、摂食機能との関連も学ぶ。 発語／押しつぶし	西郷建彦
8時限	言語③	言語に関わる顎部を扱い、摂食機能との関連も学ぶ。 構音／咀嚼	西郷建彦
授業評価アンケートに基づく改善点	今後とも、受講生の皆様のご要望、ご意見等を踏まえて改善してまいりたいと思います。授業評価アンケートについてのご協力、何卒宜しくお願い致します。		
方略	まずは、触れ方、動かし方、ゆらし方の正しい基本手技を再度意識して行うこと。次に、ポイントとなる箇所を明確に意識しながら、ここでは特に動きに関する正しい基本手技を使ってお互いに役割（子ども側、教師側）を交代しながら体験していく。この際施行される側（子ども側）になった時に感じたことを大切にする。ややもすると施行する側（教師側）に力点が置かれやすいが、あくまでも学修は施行される側（子ども側）であることを忘れないでほしい。		
連絡事項	「課題のうんどう」から選択する学習内容は、担当している教師の観察上の根拠によるもので良い。万が一効果が現れないときは、中間評価の時に、「課題のうんどう」から選択する学習内容を検討してほしい。その中で、また観察する力や基本手技の力も増すはずである。とにかく繰り返し実践してほしい。ポイントになる箇所については、参考書などを使い、解剖学的、生理学的な視点も育てるようにする。		

科目名		知的障がいと自立活動の基礎（S）				B
		サブタイトル				
実務経験のある教員による授業科目						
対象学科		人間科学部 心身健康科学科				
担当教員		川端陽子				
担当教員の 実務経験		知的障害、肢体不自由特別支援学校に39年間の勤務経験あり。通学の学級・訪問教育の経験のほかに、専任の自立活動部の経験が、知的障害・肢体不自由併せて、10数年ある。				
オフィスアワー		非常勤講師のためHAS@Myキャンパスでの質問箱で随時配布資料や課題についての質問箱を受け付けます。				
配当年次		1-4	選択	単位数	スクーリング履修：1単位	
授業形態		演習				
アクティブラーニング		有				
授業方法		面接授業				
資格等 関連科目		自立活動教諭				
科目コード		B151S				
科目区分		こころとからだの関係				
使用教材		教科書	配布資料の中で、知的障害の自立活動について、キーワードに掲げた項目等について、必要な学習項目を表示する。 発達障害の中核的な特性が、「衝動性」であること、知的障害の児童・生徒の実態を把握するときに、身体、情動、認知の関連をどうとらえるかなどについても、資料に盛り込む。			
		参考書等	・『特別支援教育の基礎・基本2020』、独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所著、「ジアース教育新社」、2020年、初版 ・『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）』、文部科学省、平成30年3月			
授業概要 (目的・ねらい)		本科目は、知的障害の自立活動についての理解を深め、教育現場での実践能力をさらに高めることをねらいとして、心身健康科学の知識と連動した実践的な活動を行う基礎をみにつけることを目的とする。				
キーワード		心身相関 / 知的障害の実態把握 / 自立活動の目標理解 / 困り感 / 個別の目標・内容				
一般目標 (GIO)		個々の児童・生徒の障害の特性について、これまで履修者が行ってきた自立活動のねらい・実践を振り返りながら、解決が出来ていない点、悩み点、困った点などを把握する。さらに、心身健康科学の知識・学びの視点を加えることで改めて問題点を見つめ直し改善点を探り、実践的な理解を深める。このことを踏まえて、教育現場で、これまで以上に、児童・生徒の困り感に目標を定めた実践を展開できる教師としての力量を培う。 上記の「教師としての変化・成長」を遂げるために、以下の事を学ぶ。 1. 心身健康科学を基礎とした児童・生徒の見方。 2. 知的障害の特別支援教育の場によくいる「発達障害の特性」について学ぶ（衝動性）。 3. 児童・生徒の実態を的確に捉えて、適切な自立活動の目標を設定できるようになる。 4. 設定した目標に沿って、教材教具等の効果的な使い方を知る。				
行動目標 到達目標 (SBOs)		1. 心身相関の観点をもち、児童・生徒の実態把握が適切にできる。 2. 発達障害の中核なる障がい特性は、「衝動性」であることの説明ができる。 3, 児童・生徒の発達を、身体・情動・認知と関連させて捉えることができる。 4, 児童・生徒の実態に見合った適切な指導方法・内容を知り、実践することができる。 5, この学習で得た、心身相関の観点からの自立活動の展開を、学校現場の先生方にも伝えることができるようにする。				
卒業認定・学位授与 の方針と本科目の 関連						
ディプロマポリシー との関連		大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学習意欲、豊かな人間性			

		▪ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通じた医療・健康・食・栄養の専門職教育 ▪ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ▪ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力	
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。	
	学科	心身健康科学科に関連する項目 2. 専門的知識を自身や社会・職業上の問題関心と有機的に関連付けて問題を解決する能力を身につけていること 4. 現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に寄与できる能力を身につけていること	
カリキュラムポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る	
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る	
	学科	心身健康科学科に関連する項目	
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 ディスカッションにおける発言(20%) と講義中の実技等や実施する試験(80%) の総合評価とする。総合評価で60点以上を合格とする。		
課題に対するフィードバックの方法	講義に対する質問や実技の際に、教員が受講者の課題に対する理解度を確認しコメントを伝える。		
スクーリング履修での講義内容	授業計画		
	発達障害の中核となる障がい特性の「衝動性」の制御にせまる自立活動の授業内容を考える（心身共に）。認知を高めるうえで必要な、個別の学習内容にせまる自立活動の内容を考える。		
	時限	学習内容	キーワード（重要語句） 担当教員
	1時限	イントロダクション	【グループ討議（アクティブラーニング）】 知的障害の自立活動の現状について、履修者の現状を振り返りながら、解決が出来る

			ていない点、悩み点、困った点などを把握する。	
2時限	発達障害の特性の理解Ⅰ		知的障がいと自立活動の理解の基本となる、衝動性の制御、脳の活性化について、心身のしくみを学ぶ。 衝動性の制御／脳の活性化	川端
3時限	発達障害の特性の理解Ⅱ		引き続き、衝動性の制御、脳の活性化について、心身のしくみを学びながら、発達障害の特性を理解する。 衝動性の制御／脳の活性化	川端
4時限	衝動性を身体からコントロールする、コミュニケーションⅠ		バランスボール、ストレッチボール等を使用した授業内容の紹介を通じ、止まる、ゆっくりの運動・活動などを促す、身体のコントロールについての意義を考える。 身体のコントロール／運動／バランスボール	川端
5時限	衝動性を身体からコントロールする、コミュニケーションⅡ		引き続き、身体のコントロールを行う中でのコミュニケーションの役割についても理解を深める。 身体のコントロール／コミュニケーション	川端
6時限	衝動性を身体からコントロールする、コミュニケーションⅢ		身体のコントロールやその活動の中でのコミュニケーションを通じてえられる、身体に触れる活動における心身のつながりの視点を学ぶ。 身体に触れる活動／心身のつながり	川端
7時限	感情・気持ち・意思の表出、コミュニケーション		感情・気持ち・意思の表出を促すために、マカトンサイン、指文字、iPadを用いた学習等で、音声言語以前のコミュニケーション表出を行う手段の獲得を目指す指導方法とそれらの特徴を学ぶ。 非言語コミュニケーション表出／マカトンサイン	川端
8時限	自立活動の事例検討		【グループ討議（アクティブラーニング）】 今回の授業での学びから現場での実践に結びつけられる事例を考え検討して、模擬実施する。	川端
授業評価アンケートに基づく改善点	今期より新しく開講した科目となります。このため、評価アンケートデータはありませんが、受講生の皆様のご要望、ご意見等を踏まえて改善してまいりたいと思います。授業評価アンケートについてのご協力、何卒宜しくお願い致します。			
方略	心身相関の観点に立った児童・生徒の実態の捉え方について学修する。特に、発達障害の中核となる障がいは「衝動性」であることを知る。授業の展開の仕方としては、アクティビティを活用して、各学校の、「知的障害の自立活動」がどのように取り組まれているか、そこでの課題は何かを忌憚なく出し合い、現状の学校現場の課題を出し合い、何が課題なのかを明確にする。 障害そのものの捉え方、自立活動の目標の立て方がおのずと変わるような学修を行っていく。実技も交え、現場で使えるようにしたい。			
連絡事項	実技も含まれるため、動きやすい服装でご参加ください。実技も交えながら、積極的に実践を体験していただきたい。			

科目名	知的障がいと自立活動の応用（S）				B
	サブタイトル				
実務経験のある教員による授業科目					
対象学科	人間科学部 心身健康科学科				
担当教員	川端陽子				
担当教員の 実務経験	知的障害、肢体不自由特別支援学校に39年間の勤務経験あり。通学の学級・訪問教育の経験のほかに、専任の自立活動部の経験として、知的障害・肢体不自由併せて、10数年を有する。				
オフィスアワー	非常勤講師のためHAS@Myキャンパスでの質問箱で随時配布資料や課題についての質問箱を受け付けます。				
配当年次	1-4	選択	単位数	スクーリング履修：1単位	
授業形態	演習				
アクティブラーニング	有				
授業方法	面接授業				
資格等 関連科目					
科目コード	B152S				
科目区分	こころとからだの関係				
使用教材	教科書	授業中に、資料を配布する。 発達障害のほかに、知的障害の児童・生徒の中にいる様々な障がい特性について、その配慮点や留意点について理解を深め、現場での実践に役立てるようにする。また、実態把握において、身体、情動、認知の関連をどうとらえるかがポイントとなる。			
	参考書等	・『特別支援教育の基礎・基本2020』、独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所著、「ジアース教育新社」、2020年、初版 ・『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）』、文部科学省、平成30年3月			
授業概要 (目的・ねらい)	本科目は、知的障害の自立活動についての理解を深め、教育現場での実践能力をさらに高めることをねらいとして、心身健康科学の知識と連動した実践的な活動を積極的に、自ら展開して、応用して使用できる知識・技能を身につけることを目的とする。				
キーワード	心身相関 / 知的障害の実態把握 / 自立活動の目標理解 / 困り感 / 個別の目標・内容				
一般目標 (GIO)	個々の児童・生徒の障害の特性について、これまで履修者が行ってきた自立活動のねらい・実践を振り返る。さらに、現在学修中の心身健康科学の知識・学びの視点を加えること、および前回の「知的障がいと自立活動の基礎」の授業を併せることで、現在、現場で行っている実践を、より児童生徒のニーズに迫ったものにしていく授業を展開できるようにする、教師としての力量を培う場とする。 上記の「教師としての変化・成長」を遂げるために、以下の事を学ぶ。 １． 知的障害の児童・生徒のおかれる現状には、どのような困り感があるのか、それは、こころとからだのつながりの中で、どこから来ているものなのかを把握する力をつける。 ２． １の上に立って、各々の児童生徒の置かれた環境や、併せ持つ障がいの状況に応じて、児童・生徒のニーズにより迫った授業を展開していく、力量を身に着ける。				
行動目標 到達目標 (SBOs)	１． 知的障害の特徴、及び発達障害との関連について理解する。 ２． 知的障害の児童・生徒の特性や困り感を理解し説明できるようになる。 ３． 個々の実態の違う児童・生徒について、それぞれに自立活動の目標を定め、その狙いに沿って、各種教材・教具や手技を、適切に使用して指導を行えるようになる。				
卒業認定・学位授与 の方針と本科目の 関連					
ディプロマポリシー との関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学習ぼうとする意欲、豊かな人間性			

		■ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通じた医療・健康・食・栄養の専門職教育 ■ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力		
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。		
	学科	心身健康科学科に関連する項目 2. 専門的知識を自身や社会・職業上の問題関心と有機的に関連付けて問題を解決する能力を身につけていること 4. 現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に寄与できる能力を身につけていること		
カリキュラムポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る		
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る		
	学科	心身健康科学科に関連する項目		
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 ディスカッションにおける発言(20%)と講義中の実技等や実施する試験(80%)の総合評価とする。総合評価で60点以上を合格とする。			
課題に対するフィードバックの方法	講義に対する質問や実技の際に、教員が受講者の課題に対する理解度を確認しコメントを伝える。			
スクーリング履修での講義内容	授業計画			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員
	1	イントロダクション 発達障害の特性の理解,その他、知的障がいに関わる様々な障がい名と、それぞれの配慮すべき点の確認①	参加者それぞれの教育の場における、困難点、解決課題を出し合い、問題を明確にする。 「知的障害の自立活動の基礎」の学修の振り返り 衝動性の制御/脳の活性化、様々な障がい名とそれぞれの配慮すべき点の確認。 以下、キーワードの内容の確認 心身相関 / 知的障害の実態把握 / 自立活動	川端陽子

			の目標理解 / 困り感 / 個別の目標・内容	
	2	発達障害の特性の理解,その他、知的障がいに関わる様々な障がい名と、それぞれの配慮すべき点の確認②	「知的障害の自立活動の基礎」の学修の振り返り 衝動性の制御/脳の活性化、様々な障がい名とそれぞれの配慮すべき点の確認。 以下キーワードの内容の確認 心身相関 / 知的障害の実態把握 / 自立活動の目標理解 / 困り感 / 個別の目標・内容	川端陽子
	3	コア・コンディショニングの意義と、その実際の手技・手法の紹介、実施の学修	ストレッチポールを活用した様々な手技・手法の実施のねらいと、その効果的な正しい実施の方法の習得。	川端陽子
	4-6	様々な教材・教具を使用した活動の実際① (合図に対する注意の集中、合図に応じる、行動の制止)	バランスボール、ムーブメントスカーフ、パラシュート、ムーブメントロープ、タオル等を使用した活動の実際と、そこでのねらい、及び目標にそった学習内容づくりについて	川端陽子
	7	様々な教材・教具を使用した活動の実際②-④ (道具を共有して、コミュニケーションを図る)	ケンステップ、縄跳びのロープ、ミュージックパッド、ムーブメントバー、ポール等の教具を活用した運動の実際と、そこでのねらい、及び目標にそった学習内容づくりについて	川端陽子
	8	認知力を高めるための教材学習の実際② まとめ	学修の段階にそったねらいと、そのための様々な教材の提示の仕方、及び学習内容について 本日の授業の中で、教育現場に帰った時に、少しでも役に立つことがあったか、また、その場合に、目的はなにを重要として、教材教具の使用を行うかがわかったかなどについて、特に感想を聞く。また、質問も受ける。	川端陽子
授業評価アンケートに基づく改善点	今期より新しく開講した科目となります。このため、評価アンケートデータはありませんが、受講生の皆さんのご要望、ご意見等を踏まえて改善してまいりたいと思います。授業評価アンケートについてのご協力、何卒宜しくお願ひ致します。			
方略	心身相関の観点に立った児童・生徒の実態の捉え方について学修する。発達障害のほかにも知的障害の児童・生徒の有する様々な障がいの特性や、その配慮点について、個々にポイントを押さえ、現場で対応できるようにする。授業の展開の仕方としては、アクティビティを活用して、各学校の、「知的障害の自立活動」がどのように取り組まれているか、そこでの課題は何かを忌憚なく出し合い、現状の学校現場の課題を出し合い、何が課題なのかを明確にする。 障害そのものの捉え方、自立活動の目標の立て方がおのずと変わるような学修を行っていく。実技も交え、現場で使えるようにしたい。			
連絡事項	2025年度前期より開講 実技も含まれるため、動きやすい服装でご参加ください。実技も交えながら、積極的に実践を体験していただきたい。			

科目名	自立活動の指導の実際 生活編（S）				B
	サブタイトル	新しいうんどうの構造			
実務経験のある教員による授業科目					
対象学科	人間科学部 心身健康科学科				
担当教員	西郷建彦				
担当教員の 実務経験	特別支援学校において、自立活動教諭や担任などの活動実績がある。また、地域の学習会や教員向けのセミナーなどで、講義や実技指導を行っている。これらに関する特別支援学校教諭及び養護・訓練の教員免許を有している。				
オフィスアワー	非常勤講師のためUHAS@Myキャンパスでの質問箱で随時配布資料や課題についての質問を受け付けます。				
配当年次	1-4	選択	単位数	スクーリング履修：1単位	
授業形態	演習				
アクティブラーニング	有				
授業方法	面接授業				
資格等 関連科目	自立活動教諭				
科目コード	B153S				
科目区分	こころとからだの関係				
テキストの変更 ・改訂	2026年度より『みんなのうんどう』、西郷建彦（著）、「虎乃穴書房」,2025年に変更。				
使用教材	教科書	『みんなのうんどう』、西郷建彦（著）、「虎乃穴書房」,2025年。			
	参考書等	・『筋の機能解剖』、John H. Warfel（著） 矢谷令子／小川恵子（訳）、「医学書院」、1993年、第4版			
授業概要 (目的・ねらい)	本科目は、障害のある子どもたちの日常生活に対するアプローチを扱う。子どもたちに応じた日常生活での学習内容の理解と方法などの習得を図る。また、「日常のうんどう」の学習内容を、実際の生活動作に加えることによって、日常生活への指導プログラムが作成できることを学ぶ。				
テキストの内容 及びアドバイス	テキストは、子どもに応じた日常生活に関する学習内容について、いろいろな指導方法を総合的に使って指導できるよう構成されている。また、必要な医学的知識も自然と覚えられるように構成されている。 テキストの「日常のうんどう」から子どもに応じた日常生活に繋がる学習内容を選び、適切に加えて日常生活に向けての指導プログラムを作成し、実際に子どもたちに行ってください。				
一般目標 (GIO)	自立活動の指導が自信をもって行えるために、子どもたちに応じた日常生活に向けての指導のあり方と指導プログラムの作成及び方法を学び、どんな障害のある子どもたちにも、自立活動における日常生活に向けての指導ができるようにする。				
行動目標 到達目標 (SBOs)	①「日常のうんどう」の自立活動における位置づけを説明できる。 ②「日常のうんどう」の自立活動における意義を説明できる。 ③自立活動における日常生活に向けての指導プログラムが作成できる。 ④子どもの障害の状態や行動を受容する態度をもっている。 ⑤子どもの障害の状態や行動に共感する態度をもっている。 ⑥子どもの障害の状態や行動の変化を待つ態度をもっている。 ⑦子どもを包み込むような受容的な触れ方ができる。 ⑧子どもと一緒にいるような共感的なゆらし方ができる。 ⑨子どもの動きを待ちながら動かすことができる。 ⑩神経生理学的な配慮を持って、子どもにアプローチできる。				
卒業認定・学位授与 の方針と本科目の 関連					
ディプロマポリシー との関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学ぼうとする意欲、豊かな人間性			

		▪ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通じた医療・健康・食・栄養の専門職教育 ▪ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ▪ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力		
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。		
	学科	心身健康科学科に関連する項目 2. 専門的知識を自身や社会・職業上の問題関心と有機的に関連付けて問題を解決する能力を身につけていること 4. 現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に寄与できる能力を身につけていること		
カリキュラムポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る		
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る		
	学科	心身健康科学科に関連する項目		
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 講義における授業態度(20%)と指導の実際の手技(80%)の総合評価とする。総合評価で60点以上を合格とする。			
課題に対するフィードバックの方法	スクーリング中に行われる講義に対する質問や実技の際に、教員が受講者の課題に対する理解度を確認しコメントを伝える。			
スクーリング履修における授業準備（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間	【予習】 テキスト（資料）を読んで、疑問点を整理しておく。（1コマ2時間程度） 【復習】 テキストを見ながら、自分で体験する。（1コマ2時間程度）			
スクーリング履修での講義内容	授業計画			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員
	1時限	受容器から脳（感覚系）	受容器と感覚を送る伝達経路および脳での情報処理について学ぶ。	西郷建彦

		皮膚／筋紡錘／ゴルジ腱器官／半規管／卵形嚢／球形嚢／脊髓視床路／後索路／触覚／固有覚／前庭覚／感覚統合	
2時限	脳から効果器（運動系）	脳における運動プログラムと効果器への情報伝達および運動発達について学ぶ。 錐体路／錐体外路／伸張反射／相反神経支配	西郷建彦
3時限	効果器と心、総合的アプローチ	効果器と運動への心の関与を学ぶ。 骨／関節／筋（筋繊維・筋原繊維）／ボディ・イメージ	西郷建彦
4時限	①姿勢に関するワンポイントアプローチ	姿勢に関する日常生活でのアプローチを学ぶ。 オピストトーマス／ヘッドコントロール	西郷建彦
5時限	②移動に関するワンポイントプログラム	移動に関する日常生活でのアプローチを学ぶ。 関節拘縮／触覚過敏	西郷建彦
6時限	③操作に関するワンポイントアプローチ	操作に関する日常生活でのアプローチを学ぶ。 触覚における原始系・識別系／感覚統合	西郷建彦
7時限	④言語・摂食に関するワンポイントアプローチ	言語・摂食に関する日常生活でのアプローチを学ぶ。 発声・嚥下／両唇音・取り込み／舌音・押しつぶし／構音・咀嚼	西郷建彦
8時限	⑤教科指導などに関するワンポイントアプローチ	教科指導などに関する日常生活でのアプローチを学ぶ。 把握反射／肩甲帯	西郷建彦
授業評価アンケートに基づく改善点	今後とも、受講生の皆様のご要望、ご意見等を踏まえて改善してまいりたいと思います。授業評価アンケートについてのご協力、何卒宜しくお願い致します。		
方略	まずは、触れ方、動かし方、ゆらし方の正しい基本手技を再度意識して行うこと。ここでは、少ないポイントとなる箇所を明確に意識しながら、正しい基本手技を使ってお互いに役割（子ども側、教師側）を交代しながら体験していく。この際施行される側（子ども側）になった時に感じたことを大切にする。ややもすると施行する側（教師側）に力点が置かれやすいが、あくまでも学修は施行される側（子ども側）であることを忘れないでほしい。		
連絡事項	「日常のうんどう」は、日常生活でもできる最も少ないプログラムのサンプルでもある。したがって、万が一効果が明確でないときは、中間評価の時に、「日常のうんどう」の修正を「基礎のうんどう」や「課題のうんどう」から検討してほしい。その中で、また観察する力や基本手技の力も増すはずである。とにかく繰り返し実践してほしい。ポイントになる箇所については、参考書などを使い、解剖学的、生理学的な視点も育てるようにする。		

科目名	いのちの科学（T）／いのちの科学（N）				B
サブタイトル					
対象学科	人間科学部 心身健康科学科				
担当教員	松居靖久・熊谷勝義・矢島孔明				
担当教員の 実務経験					
オフィスアワー					
配当年次	1-4	選択	単位数	テキスト履修：2単位 / インターネット 授業履修：2単位	
授業形態	講義				
アクティブラーニング					
授業方法	メディア授業 印刷授業				
資格等 関連科目					
科目コード	B201T / B202N				
科目区分	いのちと健康のしくみ				
テキストの変更 ・改訂	2022年度からの変更・改訂： なし				
使用教材	教科書	『生命科学概論』、新井康允・庄子和夫・村上志津子、（人間総合科学大学 オリジナルテキスト）			
授業概要 (目的・ねらい)	人間を生物学的存在と考える場合、われわれ自身が人間であり、生物学や医学は事実に基づいた学問であるとはいえ、人間が考えだした多くのアイデアによって成り立っているわけなので、人間を客観的にとらえることは困難な面があるのも事実である。「人間とは何か」を理解するために、この科目では、はじめに「人間の生命科学」として生物一般に成り立つ法則がどこまで人間に適用できるか、生物学的に見た人間の特徴とはどういうところにあるのかを考える。人間には生物学的存在としての面ばかりでなく、精神的存在、社会的存在としての面とが共存しており、「人間の生命科学」は人文科学を含む総合科学としても考える必要がある。				
キーワード	シアノバクテリア / ミトコンドリアのDNA / 化石人類 / 幹細胞 / アポトーシス / テロメア / ATP / SRY遺伝子 / アンドロゲン				
テキストの内容 及びアドバイス	第1章では、生命とは何か、生命体の特徴。分子から最初の細胞に至る過程にはどのような出来事があったか。膜が最初の細胞を形づくった。遺伝情報は最初はRNAによっていた。これにDNAが取って代わったなど。 細菌のような核のない原核細胞から、核のある真核細胞へ。シアノバクテリアの役割や、嫌気性から好気性への過程で好気性細菌であったミトコンドリアとの共生の意味などを理解する。 第2章では、600万年以上前にゴリラ、チンパンジーとの共通な祖先と分かれてから、人類は進化の過程でどのような道をたどって現在に至ったかを最近の化石人類学と分子生物学の知見から説明する。ミトコンリア・イブやY染色体アダムとは。 第3章では、ヒトの身体の基本構造について、体の構成最小単位は細胞であるが、機能的最小単位は組織であることを学ぶ。受精卵からの発生過程で、分化や胚葉形成の仕組み、最近問題になっている幹細胞（体性幹細胞、胚性幹細胞、iPS細胞）や万能細胞について学ぶ。 第4章では、細胞の基本構造、細胞小器官、特に細胞内膜系細胞小器官の機能の理解。細胞の寿命と個体の寿命、細胞の分裂寿命と老化について学び、細胞死についてはネクローシスとアポトーシスの二つの様式があることを学ぶ。 第5章では生命現象の生化学的な理解。個体を維持や活動に必要なエネルギーが細胞内の生化学反応によって作られる仕組みを学ぶ。 第6章では、遺伝子の本体はDNAであること、遺伝子の暗号は細胞内で合成するタンパク質のためのみであること、発現の仕組みやタンパク質の合成の仕方などを学ぶ。細菌からヒトに至る現存の生物の基本的な遺伝の仕組みは皆共通であること。ヒトのゲノム計画でヒトの遺伝子は約2万5000個あることが分かり、それは全体のゲノムの2-3% にすぎないので、今まで何も機能していないと考えられていたイントロンのDNAの役割が注目されるようになった。 第7章では、遺伝子発現がどのように調節されているかを学ぶ。特にヒトゲノム計画が終了してから遺伝子発現のスイッチのONはOFFによって調節されているというエピジェネティクスという領域が注目を集めている。 第8章では、ヒトの生命の誕生について発生に伴う形態変化（受精卵－胚子－胎児－新生児）を学ぶ。生命の発生の医学的な定義、胎児の命と法律、医療技術の進歩によって起こってくる生命倫理問題などを考える。受精卵はいつから人間かなど。 第9と10と11章では、男と女の体と脳はどのようにして出来上がっていくかについて、そのメカニズムを学ぶ。SRY遺伝子、アンドロゲン、抗ミュラー管ホルモンなどが性分化のキーワードである。				

	なおテキストを学修するに当たっては、章の始めの「学習のねらい」を読んでから必ず始めること。また、章が終わったら再び「学習のねらい」を読んで知識をチェックすること。	
一般目標 (GIO)	生物およびヒトの進化理解のため、生命の起源とヒトの起源を学ぶ。 生命理解のため細胞について学ぶ ヒトの発生理理解のため性差について学ぶ	
行動目標 到達目標 (SBOs)	1. 生命体の初期の段階でシアノバクテリアとミトコンドリアについてその意義を述べる事が出来ること。 2. 化石人類から現代人までの進化の過程を説明できること。 3. 組織が臓器の機能的単位であること、幹細胞について説明できること。 4. アポトーシスやテロメアについて説明できること。 5. 遺伝子発現の調節について説明できること。 6. 体と脳の性分化の仕組みについて説明できること。	
卒業認定・学位授与 の方針と本科目の 関連	生命の本質は何か、つまり生命全般について学ぶ科目である。本科目の学修を通して、生命の本質を見つめる力を持ち、ヒトとは何かを理解し、その視座に立って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に必要な洞察力を養う	
ディプロマポリシー との関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学ぼうとする意欲、豊かな人間性 ■ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育 ■ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。
	学科	心身健康科学学科に関連する項目 1. 人間と社会の諸側面について、「こころ」「からだ」「環境・社会」のそれぞれの領域に関する専門知識を持っていること 4. 現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に寄与できる能力を身につけていること
カリキュラムポリシー との関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る

	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 学部 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る 学科 心身健康科学科に関連する項目																																																								
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 【テキスト履修】 評価は「科目修了試験」（100％）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。ただし、「テキスト課題」に合格（60点以上）した者が、「科目修了試験」を受験できる。 【インターネット履修】 評価は「最終レポート」（100％）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。 ただし、各時限の「確認学修」を行い、全ての時限で合格（60点以上）した者が、「最終レポート」を受験できる。 最終レポート内の「記述問題」については、以下の項目に従って評価する。 ・ 指定文字数に従っているか。過不足がないか。 ・ 誤字、脱字がないか。 ・ 出題内容の問い、趣旨に答えているか。 ・ 文章が論理的か ・ 専門用語を適切、正確に使用しているか。 ・ 常体（『である』調）で記述されているか。 ・ 他人のレポートをコピー＆ペーストしていないか。 ・ ChatGPT等の生成AIの利活用は可ですが、利活用した際には、利活用した旨の記載や、利活用した生成AIの種類・箇所等を明記ください。（回答文字数には含まれません）																																																								
課題に対するフィードバックの方法	テキスト課題合格時に「解答・解説」を表示																																																								
スクーリング履修における授業準備（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間	【予習】 事前にテキストを読み学修する内容の全体像を把握するとともに疑問点を整理しておくこと。（1コマにつき2時間程度） 【復習】 テキストと配布資料をもとに授業内容をなぞり整理すること。（1コマにつき2時間程度）																																																								
スクーリング履修での講義内容	<table><tr><th colspan="4">授業計画</th></tr><tr><th>時限</th><th>学習内容</th><th>キーワード（重要語句）</th><th>担当教員</th></tr><tr><td>1</td><td>生命とは、分子から最初の細胞まで</td><td>生命の起源</td><td>松居、熊谷</td></tr><tr><td>2</td><td>分子から最初の細胞まで</td><td>原核細胞と真核細胞</td><td>松居、熊谷</td></tr><tr><td>3</td><td>人類の進化の道すじ</td><td>化石人類／分子生物学</td><td>松居、熊谷</td></tr><tr><td>4</td><td>細胞と組織の基本構造</td><td>細胞の構造と機能</td><td>松居、熊谷</td></tr><tr><td>5</td><td>細胞の寿命と死</td><td>DNA／RNA</td><td>松居、熊谷</td></tr><tr><td>6</td><td>細胞内の生化学反応</td><td>酵素／ATP／解糖／TCAサイクル</td><td>松居、熊谷</td></tr><tr><td>7</td><td>遺伝子の本体と遺伝の仕組み</td><td>受精</td><td>松居、熊谷</td></tr><tr><td>8</td><td>ヒトの性と生殖</td><td>ヒトの生命の発生の時期はいつか</td><td>松居、熊谷</td></tr><tr><td>9</td><td>ヒトの生命の誕生</td><td>生命倫理の問題点</td><td>松居、熊谷</td></tr><tr><td>10</td><td>ヒトの生命の誕生</td><td>幹細胞／ES細胞／iPS細胞</td><td>松居、熊谷</td></tr><tr><td>11</td><td>ヒトの性と性分化</td><td>男と女の体はどのようにして出来上がるか</td><td>松居、熊谷</td></tr><tr><td>12</td><td>ヒトの性と性分化</td><td>SR Y／アンドロゲン／抗ミューラー管ホルモン</td><td>松居、熊谷</td></tr></table>	授業計画				時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員	1	生命とは、分子から最初の細胞まで	生命の起源	松居、熊谷	2	分子から最初の細胞まで	原核細胞と真核細胞	松居、熊谷	3	人類の進化の道すじ	化石人類／分子生物学	松居、熊谷	4	細胞と組織の基本構造	細胞の構造と機能	松居、熊谷	5	細胞の寿命と死	DNA／RNA	松居、熊谷	6	細胞内の生化学反応	酵素／ATP／解糖／TCAサイクル	松居、熊谷	7	遺伝子の本体と遺伝の仕組み	受精	松居、熊谷	8	ヒトの性と生殖	ヒトの生命の発生の時期はいつか	松居、熊谷	9	ヒトの生命の誕生	生命倫理の問題点	松居、熊谷	10	ヒトの生命の誕生	幹細胞／ES細胞／iPS細胞	松居、熊谷	11	ヒトの性と性分化	男と女の体はどのようにして出来上がるか	松居、熊谷	12	ヒトの性と性分化	SR Y／アンドロゲン／抗ミューラー管ホルモン	松居、熊谷
授業計画																																																									
時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員																																																						
1	生命とは、分子から最初の細胞まで	生命の起源	松居、熊谷																																																						
2	分子から最初の細胞まで	原核細胞と真核細胞	松居、熊谷																																																						
3	人類の進化の道すじ	化石人類／分子生物学	松居、熊谷																																																						
4	細胞と組織の基本構造	細胞の構造と機能	松居、熊谷																																																						
5	細胞の寿命と死	DNA／RNA	松居、熊谷																																																						
6	細胞内の生化学反応	酵素／ATP／解糖／TCAサイクル	松居、熊谷																																																						
7	遺伝子の本体と遺伝の仕組み	受精	松居、熊谷																																																						
8	ヒトの性と生殖	ヒトの生命の発生の時期はいつか	松居、熊谷																																																						
9	ヒトの生命の誕生	生命倫理の問題点	松居、熊谷																																																						
10	ヒトの生命の誕生	幹細胞／ES細胞／iPS細胞	松居、熊谷																																																						
11	ヒトの性と性分化	男と女の体はどのようにして出来上がるか	松居、熊谷																																																						
12	ヒトの性と性分化	SR Y／アンドロゲン／抗ミューラー管ホルモン	松居、熊谷																																																						

	13	脳の性分化	視床下部	松居、熊谷
	14	脳の性分化	アンドロゲン	松居、熊谷
	15	講義内容についての復習	生命科学の可能性	松居、熊谷
授業評価アンケートに基づく改善点	授業における説明時の教員の声が一部小さいという指摘があったので、できるだけ声の高さを意識して授業を進める。			
方略	教科書の中で重要となる概念や知識をテキスト課題の学修やVOD視聴を通して理解する。理解しにくい箇所やわからない箇所については担当教員に質問をして解消する。 インターネット授業の受講と並行してテキスト履修を進めると学修を進めやすい。			
連絡事項	テキストで分からないことがあったら、遠慮なく質問すること。			

科目名	身体 （T） の構造と機能 / 身体 （N） の構造と機能				A
サブタイトル					
対象学科	人間科学部 心身健康科学科				
担当教員	鍵谷方子（科目責任者）・矢島孔明				
担当教員の実務経験					
オフィスアワー	鍵谷方子：金曜日13時～17時、オンラインまたは蓮田キャンパス、UHAS@My キャンパスよりお申込み予約ください。 矢島孔明：オンラインまたは蓮田キャンパス、UHAS@My キャンパスよりお申込み予約ください。				
配当年次	1-4	選択	単位数	テキスト履修：2単位 / インターネット授業履修：2単位	
授業形態	講義				
アクティブラーニング	有				
授業方法	メディア授業 印刷授業				
資格等 関連科目	【A203T】養護教諭養成コース【A204N】養護教諭養成コース,ストレスマネジメント・プログラム～こころとからだの健康科学,心身健康アドバイザー				
科目コード	A203T / A204N				
科目区分	統合Ⅱ（生命と健康のシステム）				
テキストの変更・改訂	2024年度からの変更・改訂： なし				
使用教材	教科書	【テキスト履修】 『人体の構造と働き』久住眞理／佐藤昭夫監修（本学オリジナルテキスト） この科目ではテキスト内のStep Up は含みません。学修の参考にしてください。 【インターネット授業履修】 『人体の構造と働き』久住眞理／佐藤昭夫監修（本学オリジナルテキスト）			
	参考書等	講義用資料を配布する場合があります。 ※講義内容の順は、場合によって変更になることがあります			
授業概要 (目的・ねらい)	脊椎動物の中でもっとも進化した人間の構造と機能を正しく理解し、最も健康的な生活を望むことは誰しも望むものである。ヒトの細胞は約37兆あるといわれ、その集合体の組織や器官は各々特有の構造と機能を持っている。解剖学は人体とそれを構成している器官や組織の形態を追求する学問であり、生理学はその生体がどのように機能しているかを解明する学問である。このテキストでは全てを学ぶ事はできないが、両者のかかわる系統的な事柄を、臨床医学に関わる点を特に強調しながら学ぶものである。				
キーワード	細胞→組織→器官→器官系→人体 / 自律機能の調節 / 感覚機能 / 運動機能の調節 / 生命				
テキストの内容 及びアドバイス	【テキスト履修】 第1章 人体のつくり 細胞と細胞の環境 人体を構成する細胞の特徴と生命の営みについて理解する。また、細胞が生きる環境（体液）の区分やその特徴とホメオスタシスについて理解する。 第2章 血液 血球と血漿の働き 血液の成分である血球と血漿それぞれの機能について理解する。血液凝固やpHの調節も血液の大切な機能であるため、その仕組みについて理解する。 第3章 循環器系 血液を循環する仕組み 心臓や血管について調節系の基本になる器官の構造と機能を学修する。これらを調節している循環調節の中枢や反射性に行われている構造とメカニズムについて理解する。 第4章 呼吸器系 酸素と二酸化炭素の交換 鼻腔や喉頭、気管、肺など呼吸器系に関わる器官の構造と機能を学修する。また呼吸運動の仕組みを理解し、酸素や二酸化炭素のガス交換が行われる仕組みとその調節を理解する。 第5章 消化器系 食物の消化と吸収 口腔、食道、胃、腸管など消化と吸収に関わる器官の構造と機能を学修する。また、吸収された栄養物が肝臓でどのように処理をされるのか、胆嚢や膵臓がどのように関わっているのかを理解する。 第6章 栄養素と代謝 栄養素の働き 腸管で吸収された三大栄養素やビタミン、無機質がどのように代謝され、生命現象に関わっているかを理解する。 第7章 体温調節 体温を保つ仕組み 体熱の産生（産熱）と放散（放熱）のしくみを学修し、暑さ、寒さに適応しようとする体温調節の仕組みについて				

	て理解する。 第8章 泌尿器系 尿の生成と排尿 体液とホメオスタシスを理解したうえで、その調節に関わる腎臓の構造と機能を学修する。腎臓でつくられた尿が膀胱で蓄尿され、そして排尿される仕組みを学修する。 第9章 内分泌系 ホルモンの働き 各ホルモンの作用やその特徴、ホルモンを分泌する内分泌腺の関係を学修し、内分泌系による身体の調節を理解する。また、ホルモン分泌の階層構造についても理解を深める。 第10章 生殖機能とヒトの一生 生殖に関わる性の仕組みを理解し、生命の誕生と妊娠・分娩を学修する。また個体の成長・成熟・老化それぞれの身体的・生理的特徴を学修し、寿命について理解を深める。 第11章 神経系 身体機能の調節 神経系の最小単位であるニューロンの興奮と情報の伝達・伝導の仕組みを理解する。また、中枢神経系と末梢神経系の構造と機能を学修し、身体の神経性調節の理解を深める。 第12章 運動器系 骨格と骨格筋の働き 骨や関節、骨格筋の構造と機能を学修し、運動機能の神経性調節を理解する。 第13章 感覚器系 環境情報の受容 環境の変化を感じ取り、その情報を中枢に伝える感覚器の種類と働きを学修する。特に、特殊感覚、体性感覚、内臓感覚の区別を学修し、神経系との関係を理解する。 第14章 ホメオスタシスの維持と自律神経系 ホメオスタシスの維持に関わる自律神経である交感神経、副交感神経について学修する。 【スクーリング履修】 第1章 人体のつくり 細胞と細胞の環境 人体を構成する細胞の特徴と生命の営みについて理解する。また、細胞が生きる環境（体液）の区分やその特徴とホメオスタシスについて理解する。 第2章 神経系 身体機能の調節 神経系の最小単位であるニューロンの興奮と情報の伝達・伝導の仕組みを理解する。また、中枢神経系と末梢神経系の構造と機能を学修し、身体の神経性調節の理解を深める。 第3章 運動器系 骨格と骨格筋の働き 骨や関節、骨格筋の構造と機能を学修し、運動機能の神経性調節を理解する。 第4章 循環器系 血液を循環する働き 心臓や血管について調節系の基本になる器官の構造と機能を学修する。これらを調節している循環調節の中枢や反射性に行われている構造とメカニズムについて理解する。 第5章 血液 血球と血漿の働き 血液の成分である血球と血漿それぞれの機能について理解する。血液凝固やpHの調節も血液の大切な機能であるため、その仕組みについて理解する。 第6章 呼吸器系 酸素と二酸化炭素の交換 鼻腔や喉頭、気管、肺など呼吸器系に関わる器官の構造と機能を学修する。また呼吸運動の仕組みを理解し、酸素や二酸化炭素のガス交換が行われる仕組みとその調節を理解する。 第7章 消化器系 食物の消化と吸収 口腔、食道、胃、腸管など消化と吸収に関わる器官の構造と機能を学修する。また、吸収された栄養物が肝臓でどのように処理をされるのか、胆嚢や膵臓がどのように関わっているのかを理解する。また腸管で吸収された三大栄養素やビタミン、無機質がどのように代謝され、生命現象に関わっているかを理解する。 第8章 泌尿器系 尿の生成と排尿 生殖機能とヒトの一生 体液とホメオスタシスを理解したうえで、その調節に関わる腎臓の構造と機能を学修する。腎臓でつくられた尿が膀胱で蓄尿され、そして排尿される仕組みを学修する。また生殖に関わる性の仕組みを理解し、生命の誕生と妊娠・分娩を学修する。また個体の成長・成熟・老化それぞれの身体的・生理的特徴を学修し、寿命について理解を深める。 第9章 内分泌系 ホルモンの働き 各ホルモンの作用やその特徴、ホルモンを分泌する内分泌腺の関係を学修し、内分泌系による身体の調節を理解する。また、ホルモン分泌の階層構造についても理解を深める。 第10章 感覚器系 環境情報の受容 環境の変化を感じ取り、その情報を中枢に伝える感覚器の種類と働きを学修する。特に、特殊感覚、体性感覚、内臓感覚の区別を学修し、神経系との関係を理解する。
一般目標 (GIO)	人間を総合的に理解するための基礎となる身体の構造と機能について学ぶ。
行動目標 到達目標 (SBOs)	【テキスト履修】 1. 人体を構成する細胞の特徴や細胞が生きる環境（体液）の区分やその特徴について説明できる。 2. 血球と血漿の機能、血液凝固やpHの調節について説明できる。 3. 心臓や血管についての構造と機能を説明できる。 4. 呼吸器系に関わる器官の構造と機能を説明できる。また呼吸の仕組みを理解し、酸素や二酸化炭素のガス交換が行われる仕組みを説明できる。 5. 消化と吸収に関わる器官の構造と機能を説明できる。 6. 腸管で吸収された三大栄養素やビタミン、無機質が生命現象にどのように関わっているか説明できる。 7. 体熱の産生（産熱）と放散（放熱）のしくみを説明できる。 8. 排尿の調節に関わる腎臓の構造と機能を説明できる。 9. 各ホルモンの作用やその特徴、ホルモンを分泌する内分泌腺の関係を説明できる。 10. 生殖に関わる性の仕組みや、個体の成長・成熟・老化それぞれの身体的・生理的特徴を説明できる。

	11. 神経系の最小単位であるニューロンの興奮と情報の伝達・伝導の仕組みを説明できる。また、中枢神経系と末梢神経系の構造と機能を学修し、身体機能の神経性調節について説明できる。 12. 感覚器の種類と働き、神経系と関係について説明できる。 13. 骨や関節、骨格筋の構造と機能、運動機能の神経性調節について説明できる。 14. ホメオスタシスの維持に関わる自律神経である交感神経、副交感神経について説明できる。 【スクーリング履修】 1. 人体を構成する細胞の特徴や細胞が生きる環境（体液）の区分やその特徴について説明できる。 2. 神経系の最小単位であるニューロンの興奮と情報の伝達・伝導の仕組みを説明できる。また、中枢神経系と末梢神経系の構造と機能を学修し、身体機能の神経性調節について説明できる。 3. 骨や関節、骨格筋の構造と機能、運動機能の神経性調節について説明できる。 4. 心臓や血管についての構造と機能を説明できる。 5. 血球と血漿の機能、血液凝固やpHの調節について説明できる。 6. 呼吸器系に関わる器官の構造と機能を説明できる。また呼吸の仕組みを理解し、酸素や二酸化炭素のガス交換が行われる仕組みを説明できる。 7. 消化と吸収に関わる器官の構造と機能を説明できる。また腸管で吸収された三大栄養素やビタミン、無機質が生命現象にどのように関わっているか説明できる。 8. 排尿の調節に関わる腎臓の構造と機能を説明できる。 9. 各ホルモンの作用やその特徴、ホルモンを分泌する内分泌腺の関係を説明できる。また生殖に関わる性の仕組みや、個体の成長・成熟・老化それぞれの身体的・生理的特徴を説明できる。 10. 感覚器の種類と働き、神経系と関係について説明できる。	
卒業認定・学位授与の方針と本科目の関連	本科目により、「こころ」および「からだ」の働きを支える構造的なしくみと、各構造の関係の理解から、人間の心身健康にかかわる基本的知識を身につける。人間に関心を持ち、心身ともに健康に暮らすことのできる社会構築に向けた洞察力の基盤を養う。	
ディプロマポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学習意欲とする意欲、豊かな人間性 ■ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育 ■ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。
	学科	心身健康科学科に関連する項目 1. 人間と社会の諸側面について、「こころ」「からだ」「環境・社会」のそれぞれの領域に関する専門知識を持っていること
カリキュラムポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る

		2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る		
	学科	心身健康科学科に関連する項目		
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 【テキスト履修】 評価は「科目修了試験」（100%）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。ただし、「テキスト課題」に合格（60点以上）した者が、「科目修了試験」を受験できる。 【インターネット授業履修】 評価は「最終レポート」（100%）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。 ただし、各時限の「確認学修」を行い、全ての時限で合格（60点以上）した者が、「最終レポート」を受験できる。 最終レポート内の「記述問題」については、以下の項目に従って評価する。 ・指定文字数に従っているか。過不足がないか。 ・誤字、脱字がないか。 ・出題内容の問い、趣旨に答えているか。 ・文章が論理的か ・専門用語を適切、正確に使用しているか。 ・常体（『である』調）で記述されているか。 ・他人のレポートをコピー＆ペーストしていないか。 ※ ChatGPT等の生成AIの利活用は可ですが、利活用した際には、利活用した旨の記載や、利活用した生成AIの種類・箇所等を明記ください。（回答文字数には含まれません）			
課題に対するフィードバックの方法	テキスト課題合格時に「解答・解説」を表示します			
スクーリング履修における授業準備（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間	【予習】 事前学習／インターネット授業履修では、模型や画像などを使って視覚的にも身体各臓器の構造や働きについての理解を深めます。最新のトピックスも紹介します。教科書に目を通しておくだけで、講義への積極的な参加が促されます。（1コマにつき2時間程度） 【復習】 事後学習／インターネット授業の限られた時間では内容のすべてを講義することが難しいので、復習もかねて教科書の通読をお奨めします。配布される講義用資料を活用しての復習は大変有益です。（1コマにつき2時間程度）			
スクーリング履修での講義内容	授業計画			
	スクーリングは、いずれかの教員が担当します。			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員
	1－5時限	・イントロダクション ・人体の概要 ・人体の構成と区分：細胞・組織などの構造と機能を学ぶ。 ・神経系の機能：末梢神経系、特に自律神経について学ぶ。 ・循環器系の構造と機能：血液と循環系について学ぶ。	細胞→組織→器官→器官系→人体、自律機能の調節、筋・骨格・関節、心臓・血管	鍵谷・矢島
	6－8時限	・呼吸器系の構造と機能 ・消化器系の構造と機能	呼吸器系の解剖、ガス交換の仕組み 消化器系の解剖、消化吸収の仕組み	鍵谷・矢島
	9-10時限	・人体の支持と機能：筋・骨格・関節について学ぶ。	骨の構造と機能、全身の骨格の主な特徴 骨格筋の構造、機能	鍵谷・矢島
	11-12時限	・感覚器の構造と機能：特殊感覚と体性感覚の受容器の解剖と機能を学ぶ。 ・神経系の構造と機能：主に中枢神経系の構造と機能を学ぶ。	特殊感覚（視覚・聴覚等）、体性感覚（痛覚・触圧覚等）の受容器の構造、機能 大脳・間脳・脳幹・小脳・脊髄の解剖と機能	鍵谷・矢島
	15時限	・泌尿器・生殖器系の構造と機能 ・女性の一生 ・内分泌系の構造と機能	泌尿器系の解剖、尿生成の仕組み 生命の誕生、生殖器系の構造と機能 ホルモン分泌器官の部位とホルモンの機能	鍵谷・矢島

授業評価アンケートに基づく改善点	医療系専門職の方のみならず、これまで解剖、生理学などの専門的な学修を経験されていない方々にも多数受講いただいております。 アンケート等を通して、各教員が提示するトピック、話題を通して、ヒト、人間の理解を深めるできたとの受講感想をお届けいただいております。 人体の構造、機能の理解は、総合演習等をはじめ、皆さんの発展的な学修に新しい視点をお届けすることができます。これまでのように、オンラインを通した担当教員とのディスカッションの場を推奨したいと考えております。受講生のみなさんも、担当する教員に積極的にご質問を投げかけていただければ幸いです。
方略	インターネット授業履修と並行してテキスト履修を進める。また、インターネット授業では豊富に示される画像などを活用して理解を促す。
連絡事項	

科目名	健康のとりえ方と健康増進（T）／健康のとりえ方と健康増進（N）				B
サブタイトル					
対象学科	人間科学部 心身健康科学科				
担当教員	久保田智洋				
担当教員の 実務経験					
オフィスアワー	久保田智洋（T/N）：非常勤講師のためUHAS@Myキャンパスでの質問箱で随時配布資料や課題についての質問を受け付けます。				
配当年次	1-4	選択	単位数	テキスト履修：2単位 / スクーリング履修：2単位	
授業形態	講義				
アクティブラーニング					
授業方法	メディア授業 印刷授業				
資格等 関連科目	養護教諭一種、ストレスマネジメント・プログラム～こころとからだの健康科学				
科目コード	B205T / B206N				
科目区分	いのちと健康のしくみ				
テキストの変更 ・改訂	2020年度からの変更・改訂：なし				
使用教材	教科書	『テキスト健康科学（改定第3版）』、監修：佐藤祐造、編集：柴田英治/松原達昭/八谷寛、ISBN：978-4-524-23448-6 発行年月：2024年9月「南江堂（東京）」			
授業概要 (目的・ねらい)	医学を基盤とした医療は主として疾患をもつ人々への治療にかかわり、保健学はいかに健康で過ごすかに注目する。これらに対し、健康科学は生物としての人間を心身両面から尊重し、社会活動の中で健康の意義、価値、歴史、社会哲学、倫理などの視点から人間のあり方を考える基礎的な分野として位置づけられる。健康とは何か、健康を構成する概念は何か、といった中心概念から出発し、社会や文化と健康とのかかわりを学び、現在の私たち、そして未来の人類がどのように生きていくのかを各自が考える糸口を得ることを目標とする。				
キーワード	人口／身体／こころ／遺伝／環境／病気／歴史／社会／文化／思想／政治経済／倫理				
テキストの内容 及びアドバイス	第1章：集団としての人間の健康を統計的な視点で捉える。また、健康が個人だけの問題ではなく社会の仕組みの中で考えられることを認識する。 第2章：人の健康を「からだ」と「こころ」という視点から理解する。身体は解剖学的な構造と生理学的な機能との両面から把握することができ、こころの問題は単に脳の問題ではなく精神のあり方と関わって重要なことである。これらをふまえて、人の健康は遺伝と環境のダイナミックな相互関係として成り立つことを理解する。 第3章：環境、栄養、運動、生活習慣と健康の関連を考えることで、現代の私たちの健康がどのように成立しているかについて考える基礎ができあがる。 第4章：健康状態を決める社会的要因は格差を作り出し、政治経済的な状況が健康に影響を与える。しかしその一方で、健康状態が社会のあり方に与える影響もあるため、双方の関係をみなければならない。職業による健康への影響、また経済状態や法律などが健康に与える影響も無視できないものがあり、法律が健康を守っている機能を知ることでも大事である。 第5章：科学が健康を守り、逆に、科学が健康を損なうことがある。ここではさまざまな化学物質を取り上げ、とくに発がん物質などについて紹介する。また、情報技術は健康にプラス、マイナスの両面から関係していること、社会のシステムとして交通・輸送も忘れてはならない。そしてこの章では、最後に住宅について取り上げる。最近では物理的な環境だけでなく、化学物質やダニなど化学的あるいは生物学的環境としての住宅の意味が大きくなっている。 第6章：ここでは健康観について取り上げる。病気になるのは仕方がないことなのか、それとも誰かの責任なのか、あるいは健康は権利なのか義務なのか、といった論議がある。ここで倫理の問題も生じてくる。最後にふたたび、健康は個人の問題であると同時に社会のあり方そのものでもあるということを強調したい。				
一般目標 (GIO)	社会や文化と健康との関わりをふまえ、人びとの健康の維持や増進について科学的に考えることができる。				
行動目標 到達目標 (SBOs)	1. 健康状態について統計的な視点から把握して理解し、説明することができる。 2. 人間の健康を身体（構造と機能）ならびに心を統合したものとして理解し、説明することができる。 3. 人間の健康と遺伝および環境の関係について説明することができる。 4. 健康と栄養、運動、生活習慣の関連を説明することができる。				

	5. 政治経済を含む社会のあり方と人びとの健康との関係について説明することができる。 6. 科学技術や情報科学と健康との関連を理解し、説明することができる。 7. 人々の健康観と生命倫理について理解し、自分の考えを説明することができる。	
卒業認定・学位授与の方針と本科目の関連	本科目の学修を通して、人々の健康について多角的に理解し、他者や環境とのかかわりのなかで心身ともに健やかに暮らすことができる社会の構築に向けて、洞察する力や意見を発信する力を養う。	
ディプロマポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学ぼうとする意欲、豊かな人間性 ■ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育 ■ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。
	学科	心身健康科学科に関連する項目 3. 「こころ」「からだ」「環境・社会」の統合的・学際的な知識を持っていること 4. 現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に寄与できる能力を身につけていること
カリキュラムポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学科	心身健康科学科に関連する項目
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 【テキスト履修】 評価は「科目修了試験」（100％）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。ただし、「テキスト課題」に合格（60点以上）した者が、「科目修了試験」を受験できる。 【インターネット履修】 評価は「最終レポート」（100％）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。 ただし、各時限の「確認学修」を行い、全ての時限で合格（60点以上）した者が、「最終レポート」を受験でき	

	る。 最終レポート内の「記述問題」については、以下の項目に従って評価する。 ・指定文字数に従っているか。過不足がないか。 ・誤字、脱字がないか。 ・出題内容の問い、趣旨に答えているか。 ・文章が論理的か ・専門用語を適切、正確に使用しているか。 ・常体（『である』調）で記述されているか。 ・他人のレポートをコピー＆ペーストしていないか。			
課題に対する フィードバック の方法	テキスト課題合格時に「解答・解説」を表示してフィードバックする。			
スクーリング履修 における授業準備 （予習・復習）の 具体的な内容及び それに必要な時間	【予習】 N科目：教科書にひととおり目を通し、理解を進めながら視聴する。（1コマにつき2時間程度） 【復習】 N科目：内容を整理し、他の科目との関連を考えて今後の学修に活かす。（1コマにつき2時間程度）			
スクーリング履修 での講義内容	授業計画			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員
	1	健康科学を考える	健康の概念、Health Science、国際生活機能分類、マズローの基本的欲求	久保田智洋
	2	日本の健康事象①	人口統計、疫学の役割、ヘルスプロモーション	久保田智洋
	3	日本の健康事象②	様々な死因等、検診の役割、有病率・有訴者率・通院者率・受療率	久保田智洋
	4	人体のしくみと歴史	解剖学等の人体のしくみ、関連する歴史上の人物、神経系	久保田智洋
	5	人体の仕組みとはたらき	循環器系、呼吸器系、ホメオスタシス	久保田智洋
	6	こころの健康①	精神疾患の現状、こころの不調の症状、心の健康の予防	久保田智洋
	7	こころの健康②	精神疾患の特徴について	久保田智洋
	8	栄養と健康	栄養に関する課題	久保田智洋
	9	生活習慣と健康	腰痛の疫学、腰痛の関連要因、腰痛対策	久保田智洋
	10	老化の特徴と疾患	老化と加齢について、老年期の変化	久保田智洋
	11	フレイルとサルコペニア	平均寿命と健康寿命、フレイルの要因、サルコペニアの要因	久保田智洋
	12	認知症と健康	認知症とは？軽度認知障害とは？認知症の症状について	久保田智洋
	13	地域活動と高齢者支援	介護保険制度下におけるサービスの紹介	久保田智洋
	14	高齢者の健康対策	介護保険制度、介護予防、高齢者支援の実践	久保田智洋
	15	健康とは何か（まとめ）	健康の社会決定要因、ヘルスプロモーション	久保田智洋
授業評価アンケートに基づく改善点	授業アンケートより、「生活していくなかでの必要な知識を学べた」などの声をいただいております。今年度も、最新の知見をみなさまにお伝えできるように努めていきます。また、非常勤講師のため、連絡はなるべく早く回答できるように努めます。			
方略	理解が難しい箇所や質問が生じた場合には担当教員に質問する。			
連絡事項				

科目名	こころとからだのつながりと病気（T）／こころとからだのつながりと病気（N）			
	サブタイトル		心身医学	
実務経験のある教員による授業科目				
対象学科	人間科学部 心身健康科学科			
担当教員	矢吹弘子			
担当教員の 実務経験	大学病院およびクリニック心療内科にて心療内科医として実務経験あり。臨床を踏まえた内容を授業。			
オフィスアワー	非常勤講師のため、UHAS@Myキャンパスの質問箱で随時テキストや課題についての質問を受け付けます。			
配当年次	1-4	選択	単位数	テキスト履修：2単位 / インターネット 授業履修：1単位
授業形態	講義			
アクティブラーニング				
授業方法	メディア授業 印刷授業			
資格等 関連科目	【B207T】認定心理士【B208N】認定心理士,ストレスマネジメント・プログラム～こころとからだの健康科学			
科目コード	B207T / B208N			
科目区分	いのちと健康のしくみ			
テキストの変更 ・改訂	2025年度から変更・改訂：なし			
使用教材	教科書	『心身症臨床のまなざし』、矢吹弘子著、筒井末春監修、「新興医学出版社」、2014年		
	参考書等	『心身症診断治療ガイドライン2006』、小牧元・久保千春・福土審編、「協和企画」、2006年 『内的対象喪失―見えない悲しみをみつめて―』、矢吹弘子著、「新興医学出版社」、2019年		
授業概要 (目的・ねらい)	心と身体をつながりを直視する医学的分野として心身医学がある。心身医学の歴史と領域、心身医学の基本理論を概観した上で、ライフサイクルごとの心身医学的配慮が必要な疾患、心と身体をつながりと病気について学び、心身の健康についての理解を深める。			
キーワード	心身医学 / 心身症 / ライフサイクル／精神分析的理論／学習理論			
テキストの内容 及びアドバイス	第1章 心身医学の歴史と心身症治療の基本ー今なぜ心身症かー 1。心身症とは何か・心身医学の歴史 2。心身症治療の基本概念 ＜心身医学の歴史と心身症、心身症治療の基本概念について学ぶ＞ 第2章 心身症と精神分析理論 1。フロイトの「ヒステリー転換」と「不安神経症」 2。アレキサンダーの自律神経反応論 3。アレキシサイミア 4。アモンの「精神分析と心身医学」 5。「自我」の機能と「防衛機制」 ＜心身医学の二大理論のひとつである精神分析的理論について、心身医学との関係部分について学ぶ＞ 第3章 学習理論（行動理論）と心身症の心理療法 1。学習理論の考え方ー古典的条件付けとオペラント条件付けー 2。学習理論の発展 3。認知療法と認知行動療法 4。自律訓練法 5。バイオフィードバック療法 ＜心身医学の二大理論のひとつである学習理論（行動理論）について、理論と治療技法を学ぶ＞ 第4章 精神分析的な技法をめぐって 1。EBM、NBMと精神分析的な精神療法 2。精神分析的な精神療法と支持的な精神療法 3。力動指向的アートセラピー（芸術療法） ＜心身医学に関わる精神分析的（精神力動的）な治療技法について学ぶ＞			
一般目標 (GIO)	心身の健康について心身医学の視点から理解を深めるために、心身医学の基本理論、ライフサイクルごとの心と身体をつながりと病気について学ぶ。			
行動目標 到達目標 (SBOs)	1。心身医学の歴史について説明することができる 2。心身医学の現代医療の中での役割について議論することができる。 3。心身医学のおもな理論について説明することができる。 4。心身医学のおもな治療法について説明することができる。 5。ライフサイクルごとのこころとからだについて説明できる。 6。心身症について説明することができる。			
卒業認定・学位授与 の方針と本科目の	現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、心身の健康問題を通して自分と他者に対して、新たな展望と視座を得る。			

関連		
ディプロマポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学ぼうとする意欲、豊かな人間性 ■ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育 ■ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。
	学科	心身健康科学学科に関連する項目 2. 専門的知識を自身や社会・職業上の問題関心と有機的に関連付けて問題を解決する能力を身につけていること 3. 「こころ」「からだ」「環境・社会」の統合的・学際的な知識を持っていること
カリキュラムポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学科	心身健康科学学科に関連する項目
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 【テキスト履修】 評価は「科目修了試験」（100％）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。ただし、「テキスト課題」に合格（60点以上）した者が、「科目修了試験」を受験できる。 【インターネット履修】 評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 評価は「最終レポート」（100％）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。 ただし、各時限の「確認学修」を行い、全ての時限で合格（60点以上）した者が、「最終レポート」を受験できる。 記述問題については、以下の項目に従って評価する。chatGPT等の生成AIの利活用は認めない。 ・指定文字数に従っているか	

	・ 出題内容の問い、趣旨に答えているか ・ 文章が論理的か ・ 専門用語を適切、正確に使用しているか ・ 誤字、脱字がないか ・ 他人のレポートをコピー＆ペーストしていないか			
課題に対する フィードバック の方法	テキスト課題合格時に「解答・解説」を表示してフィードバックする。			
スクーリング履修 における授業準備 （予習・復習）の 具体的な内容及び それに必要な時間	【予習】 テキストを読み、事前に概要を学習するとともに、参考書にも目を通しておく和良好的。 行動目標に沿って予習を進める。 （1コマにつき2時間程度） 【復習】 確認テストを中心に、重要ポイントを復習する。 テキストおよび参考書の該当箇所を復習する。 （1コマにつき2時間程度）			
スクーリング履修 での講義内容	授業計画			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員
	1時限	心身医学とは一心身医学の歴史と領域・心身症の考え方の基本ー	心身医学の歴史、全人的医療、心身症の定義、健康生成論	
	2時限	心身医学理論 その1 心身医学の歴史第1の時期と精神分析（精神力動）理論／心の防衛機制	精神分析的理論、心の防衛機制	
	3時限	心身医学理論 その2 心身医学の歴史第2の時期を中心に 精神分析理論と学習理論・認知理論	自律神経反応論、アレキシサイミア、学習（行動）理論、認知理論	
	4時限	心身医療における診断と治療	心身医学的診断、心身医学的治療、EBM、NBM	
	5時限	ライフサイクルからみたところとからだ心身医学的配慮が必要な病気その1	ライフサイクル、乳幼児期、学童期、思春期青年期、起立性調節障害	
	6時限	ライフサイクルからみたところとからだ心身医学的配慮が必要な病気その2 思春期～成人期を中心に	摂食障害、過敏性腸症候群、気管支喘息、頭痛（片頭痛、緊張型頭痛）	
	7時限	ライフサイクルからみたところとからだ心身医学的配慮が必要な病気その3 中年期	中年期、対象喪失、更年期障害、本態性高血圧症、糖尿病	
	8時限	ライフサイクルからみたところとからだ心身医学的配慮が必要な病気その4 老年期 ／精神疾患と身体症状／まとめ	老年期、身体症状が出現する精神疾患、ストレス対処	
授業評価アンケートに基づく改善点	心身症について細かく学ぶことができて良かったというご意見をいただいているので、さらに重要項目が確認できるようにテキスト課題を構成します。			
方略	教科書の中で重要となる概念や知識をテキスト課題の学修やVOD視聴を通して理解する。理解しにくい箇所やわからない箇所については担当教員に質問をして解消する。			
連絡事項				

科目名	栄養といのちの営み（T）／栄養といのちの営み（N）			
サブタイトル				
対象学科	人間科学部 心身健康科学科			
担当教員	矢島孔明			
担当教員の 実務経験				
オフィスアワー	担当教員のオフィスアワーは以下に従います。 矢島孔明：火曜日 16:30-17:30、木曜日 12:00-13:00 オンラインあるいは本館2階コミュニケーションラウンジ UHAS@Myキャンパスより随時、質問や面接日時の予約申し込み・調整ができます。			
配当年次	1-4	選択	単位数	テキスト履修：2単位 / インターネット 授業履修：1単位
授業形態	講義			
アクティブラーニング				
授業方法	メディア授業 印刷授業			
資格等 関連科目	【B209T】養護教諭養成コース【B210N】養護教諭養成コース			
科目コード	B209T / B210N			
科目区分	いのちと健康のしくみ			
テキストの変更 ・改訂	2023年度からの変更・改訂： なし			
使用教材	教科書	『栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学』、田地陽一編、「羊土社」、第5版		
	参考書等	『楽しくわかる栄養学』、中村丁次著、「羊土社」 『しっかり学べる！栄養学』、川端輝江編著、「ナツメ社」 『栄養科学イラストレイテッド 食品学I』、水品善之ら著、「羊土社」		
授業概要 (目的・ねらい)	「栄養といのちの営み」では、我々ヒトの生命体としてのいのちが、栄養によりどのように営まれているのか、その仕組みを学修することを目的とします。 特に、心身の正しい健康状態を維持するためには、栄養がどのように関与しているのかを知ることが目標です。栄養の概念を知り、摂取する栄養素がからだやこころにどのように作用しているかという仕組みを、代謝という生体活動から理解します。 主に、「いのちと栄養」、「栄養素のはたらき」、「生命活動と栄養」の3つの視点から、栄養と心身の活動の仕組みを理解することから、日常的に一日三回は行っている三食の食事に対して栄養の面から心身の健康への視点を確立できるようにしましょう。			
キーワード	栄養と栄養素 / 摂食行動 / グルコース / 脂質 / アミノ酸 / ビタミン / ミネラル / 代謝酵素 /ATP			
テキストの内容 及びアドバイス	まず、「いのちと栄養」では、栄養とは何かという一般的な概念から、その健康への必要性を確認します。そして、からだの仕組みとして、脳における摂食作用や、消化器での消化・吸収における人体の構造や機能を見ていきます。 次に、「栄養素のはたらき」では、食品として摂取された各栄養素が消化され、吸収された後、どのように人体はこれらの栄養素を有効に利用していくかということを知ります。特に食品中の五大栄養素に注目してそれらの役割を、 1）エネルギー源としての働き 2）体を作る素材としての役割 3）生命機能を調節している因子としての働き の視点から、食品から得られた栄養素が酵素により生体成分を作り上げていく代謝作用を分子的に見ていきます。 そして、「生命活動と栄養」では、生体の維持に必要なホメオスタシスに関わる栄養の役割について理解していきます。このバランスが狂うと、心身共に大きな影響を及ぼすことになります。食品摂取の観点からも説明していきます。 テキストを読みながら、あるいはスクーリングを受けながら、内容についてノートにメモを行って下さい。特にキーワードや化合物名など多く出てくるとお思いますので、書きながら整理して行って下さい。			

	知らない用語やわからない内容も多いと思いますが、まずはご自身で教科書などで調べてから、UHASを利用して積極的に質問を行い、理解を深めて下さい。	
一般目標 (GIO)	栄養という生命活動の中で、ヒトはさまざまな栄養素を利用して、どのようにヒトのいのちの営みにおける仕組みに作用して、健康な状態を維持しているのか、基本的な仕組みを理解する。	
行動目標 到達目標 (SBOs)	1. 栄養の定義を理解して、「栄養」と「栄養素」の違いについて説明できる。 2. 摂食における心身のつながりについて説明できる。 3. 栄養素の消化と吸収がどのように行われているのか概説できる。 4. 栄養素がどのように人体が利用できるエネルギーに変換するか概説出来る。 5. エネルギーに変換する代謝過程で必要となる栄養素・ビタミンを挙げることが出来る。 6. 生体の構造に利用される栄養素について挙げることが出来る。 7. こころに影響をもたらすホルモンと栄養素の関係を示すことが出来る。 8. 水・ミネラルの出納と、ホメオスタシスの関係を説明することが出来る。 9. ヒトの活動におけるエネルギーについて概説することが出来る。 10. 遺伝子もたらす栄養に関する疾患を挙げることが出来る。	
卒業認定・学位授与 の方針と本科目の 関連	本学科のディプロマポリシーの中でも特に、「人間と社会の諸側面について学際的・総合的で幅広い知識を身につける」ことについて、本科目の学修を通じて「こころ」「からだ」「文化」の側面から人間を総合的に理解し、教育理念である“自立と共生”や“創造力と人間性”を育みます。	
ディプロマポリシー との関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学ぼうとする意欲、豊かな人間性 ■ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育 ■ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。
	学科	心身健康科学科に関連する項目 1. 人間と社会の諸側面について、「こころ」「からだ」「環境・社会」のそれぞれの領域に関する専門知識を持っていること
カリキュラムポリシー との関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る

	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 学部 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る 学科 心身健康科学科に関連する項目																
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 【テキスト履修】 評価は「科目修了試験」（100％）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。ただし、「テキスト課題」に合格（60点以上）した者が、「科目修了試験」を受験できる。 【インターネット履修】 評価は「最終レポート」（100％）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。 ただし、各時限の「確認学修」を行い、全ての時限で合格（60点以上）した者が、「最終レポート」を受験できる。 《レポート判定基準》 ①締切が守られている。 ②設問課題に沿った記述を行っている。 ③レポート内容が自身の考えとして表現できている。 ④指定の文字数を大幅にオーバーもしくは不足していない。 ⑤誤字脱字がなく、形式に沿い記述している。 ⑥ChatGPT等の生成AIの利活用は可ですが、利活用した際には、利活用した旨の記載や、利活用した生成AIの種類・箇所等を明記ください。（回答文字数には含まれません）																
課題に対するフィードバックの方法	テキスト課題合格時に「解答・解説」を表示																
スクーリング履修における授業準備（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間	【予習】 受講の前には、教科書の該当する章を読むことで、内容の理解が大きく高まります。必ず受講する回の講義内容についての章を読んで下さい。また、不明な点はノートに何がわからないのかメモしておくことも大切です。（1コマにつき2時間） 【復習】 復習については、講義ノートを参照しながら、教科書（講義の範囲）をもう一度読みなおすことで、さらに理解が深まります。スクーリング履修を行ったら、すぐに教科書の講義内容の章を読み直してください。予習でわからなかった点が解決できたか、確認をしましょう。（1コマにつき2時間） 不明な点など、知らない用語やわからない内容はまずご自身で調べ、UHASを利用して積極的に質問を行い、理解を深めて下さい。																
スクーリング履修での講義内容	授業計画 <table><tr><th>時限</th><th>学習内容</th><th>キーワード（重要語句）</th><th>担当教員</th></tr><tr><td>1</td><td>いのちと栄養Ⅰ "栄養の概念"（第1章）</td><td>栄養とは何か、健康における栄養の役割について考える。また、栄養素発見の概略を学ぶ。 栄養の概念／健康と栄養／五大栄養素／欠乏症</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td>いのちと栄養Ⅱ "摂食行動"（第2章）</td><td>空腹感・満腹感とはどんな体の作用なのだろうか、脳における摂食中枢・満腹中枢の仕組みを学ぶ。 食欲／食物報酬／味覚／空腹感・満腹感／摂食中枢・満腹中枢／視床下部</td><td></td></tr><tr><td>3</td><td>いのちと栄養Ⅲ "消化の吸収と栄養素の体内動態"（第3章）</td><td>栄養素をからだに取り込むには、消化し吸収する必要がある。人体における消化器官の優れた特徴と、最近話題になる腸内細菌の役割を学ぶ。</td><td></td></tr></table>	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員	1	いのちと栄養Ⅰ "栄養の概念"（第1章）	栄養とは何か、健康における栄養の役割について考える。また、栄養素発見の概略を学ぶ。 栄養の概念／健康と栄養／五大栄養素／欠乏症		2	いのちと栄養Ⅱ "摂食行動"（第2章）	空腹感・満腹感とはどんな体の作用なのだろうか、脳における摂食中枢・満腹中枢の仕組みを学ぶ。 食欲／食物報酬／味覚／空腹感・満腹感／摂食中枢・満腹中枢／視床下部		3	いのちと栄養Ⅲ "消化の吸収と栄養素の体内動態"（第3章）	栄養素をからだに取り込むには、消化し吸収する必要がある。人体における消化器官の優れた特徴と、最近話題になる腸内細菌の役割を学ぶ。	
時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員														
1	いのちと栄養Ⅰ "栄養の概念"（第1章）	栄養とは何か、健康における栄養の役割について考える。また、栄養素発見の概略を学ぶ。 栄養の概念／健康と栄養／五大栄養素／欠乏症															
2	いのちと栄養Ⅱ "摂食行動"（第2章）	空腹感・満腹感とはどんな体の作用なのだろうか、脳における摂食中枢・満腹中枢の仕組みを学ぶ。 食欲／食物報酬／味覚／空腹感・満腹感／摂食中枢・満腹中枢／視床下部															
3	いのちと栄養Ⅲ "消化の吸収と栄養素の体内動態"（第3章）	栄養素をからだに取り込むには、消化し吸収する必要がある。人体における消化器官の優れた特徴と、最近話題になる腸内細菌の役割を学ぶ。															

			胃・腸の構造／消化液／消化器ホルモン／腸内細菌	
	4	栄養素のはたらき I "炭水化物（糖質・食物繊維）の栄養"（第4章）	五大栄養素の中の、食品中の炭水化物について、消化・吸収における化学構造の変化、代謝によるエネルギーの獲得を学ぶ。 炭水化物／解糖系・クエン酸回路／グルコース／血糖値／肝臓・筋肉／ATP	
	5	栄養素のはたらき II "脂質とタンパク質の栄養"(第5章,第6章)	五大栄養素の中の、食品中の脂質とタンパク質について、消化・吸収における化学構造の変化、代謝による特徴と心身への働きを学ぶ。 脂質／β酸化／アセチルCoA／タンパク質／アミノ酸	
	6	栄養素のはたらき III "ビタミンと無機質（ミネラル）の栄養"（第7章,第8章）	五大栄養素の中でも、食品中における生体に必須なビタミンとミネラルの働きについて、消化・吸収や心身への機能を学ぶ。 脂溶性・水溶性ビタミン／補酵素／抗酸化作用／骨／微量元素	
	7	生命活動と栄養 I "水の機能・出納と個体の調節機構・ホメオスタシス"（第9章）	生命機能を発揮する際には、水の存在が不可欠である。この水を介して栄養素や代謝物の輸送・交換を行い、ホメオスタシスを維持していることを学ぶ。 ホメオスタシス／呼吸・腎／イオン／ホルモン／輸送担体	
	8	生命活動と栄養 II "エネルギー・遺伝子発現と栄養"（第10章,第1章）	代謝して得られたエネルギーは必要に応じて使用され、蓄えられる。また、たんぱく質酵素が代謝の実行部隊であるが、その設計図である遺伝子がおかしくなった際に生じる疾患を学ぶ。 基礎代謝／エネルギー代謝／レプチン遺伝子と肥満／俊約遺伝子	
授業評価アンケートに基づく改善点	授業に関しての励ましのお言葉有難うございます。インターネット授業についてはアップデートを行いました（2024年秋より）。少しわかりにくい点につきましては、授業資料をUHASで授業後も参照できるようにします。不明なところはご質問ください。			
方略	テキスト履修、スクーリング履修ともにテキストをベースに行いますので、ポイントや用語をテキストを読み進めながら把握していきましょう。不明点はまず一度調べてみながら、教員に質問をして理解を進めてください。			
連絡事項	「栄養といのちの営み」は、基本的な栄養素の代謝により、われわれヒトのいのちがどのように営まれているのかを学んできました。このような日常的な栄養は、心身にも大きく影響を及ぼします。「栄養と心身の健康」は本科目の後続科目となり、いのちの営みとしての栄養が、どのように心身の健康をもたらしているのかを学びます。 ※ 2025年度春期よりテキストは「栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学 第5版」に版が新しくなります。2024年度秋期まで使用したテキスト「栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学 第4版」とほぼ同様の構成となっておりますので、いずれかのテキストを使用して授業に臨んでください。			

科目名	病気のしくみ(N)			
	サブタイトル			
実務経験のある教員による授業科目				
対象学科	人間科学部 心身健康科学科			
担当教員	渡邊成			
担当教員の 実務経験	1977年から2004年まで一般消化器外科医として診療に携わった。 2005年から現在に至るまで消化器内科医、一般総合内科医として診療に携わっている。 2005年から2017年まで初期研修医に対する臨床医学の研修教育を行った。 現在、働く人の健康管理と、人間ドック、健康診断業務を行っている。 また、特別養護老人ホームで高齢者の健康管理を行っている。			
オフィスアワー	UHAS@Myキャンパスから質問の受付や面接日時の調整ができます。質問・面接予約等はUHAS@m y キャンパスより申し込んでください。 渡邊 成：土曜、日曜、祝日、オンライン利用 予約はUHAS@m y キャンパスより申し込んでください。			
配当年次	1-4	選択	単位数	インターネット授業履修：1単位
授業形態	講義			
アクティブラーニング				
授業方法	メディア授業			
資格等 関連科目	【B214N】ストレスマネジメント・プログラム～こころとからだの健康科学			
科目コード	B214N			
科目区分	いのちと健康のしくみ			
テキストの変更 ・改訂	2 0 2 4 年度からの変更・改訂：なし			
使用教材	教科書	教科書 『なるほどなっとく!病理学plus：病態形成の機序と各器官の疾病の特徴』、小林正伸、「南山堂」、第1版、ISBN 978-4-525-15181-2		
	参考書等	『トリセツ・ヤマイ ヤマイ世界を俯瞰する』、海堂 尊、「宝島社」、2013年 ISBN：978-4-8002-1119-4（やや古い本ですが、中古で結構ですから、入手されると良いと思います） 『幕末からコロナ禍まで 病気の日本近代史』、秦 郁彦、「小学館新書」、2021年 ISBN9784098253746 インターネット授業ではテキストでは解説されていない、疾患病態についても解説していく。しかしこれらのことを、1冊の本で網羅している物はないので、断片的にでも拾い上げて学んでいただきたい。		
授業概要 (目的・ねらい)	【インターネット履修】 ：テキストで8つに分類した以外にも臨床的には病気は多々ある。「心の病」「成長と発達に関連した疾患」「薬剤の副作用を含む医原病」「公害病」「妊娠分娩に関連した疾患」「大規模災害に伴って起こる病気」「臓器の機能的疾患」「就労に伴って起こる疾患」「栄養失調」などであり、社会的には問題となっているものが多い。テキストで取り上げてある疾患に加え、これらの病気の成り立ちも学んでいただきたい。これらを通じて病理学とは何か、病理学の総論と各論とは何かを把握してほしい。最後には病気が起こる原因を知って、職場や地域、また個人でできる予防・対策を知ることが目的としたい。			
キーワード	【テキスト履修】病理学／自己・非自己／器質的疾患／機能的疾患 【スクーリング履修】病理学／自己・非自己／器質的疾患／機能的疾患 /心の病/成長と発達に関連した疾患/薬剤の副作用を含む医原病/公害病/妊娠分娩に関連した疾患/大規模災害に伴って起こる病気/臓器の機能的疾患/就労に伴って起こる疾患/栄養失調/健康を脅かす因子			
テキストの内容 及びアドバイス	【テキストの内容】 第1章 病気と病理学 A. 病理学とは何か？ B. 医療において病理診断はどのような意義があるのか？C. 治療やケアに病理学は必要か？ D. 病気はどのように発症するのか？			

第2章 細胞の異常—病気の本態

A. 細胞の構造と細胞傷害 B. 正常細胞の新陳代謝 — 恒常性の維持 C. 再生と修復 D. ヒトの体の多層構造

第3章 先天異常

A. 遺伝とは？ B. 先天異常とは？ C. 遺伝要因による先天異常 D. 環境要因による先天異常

第4章 循環障害

A. 循環器系の働き B. 循環障害 C. 循環障害によって発症する主な疾患と病態

第5章 代謝異常

A. 代謝とは何か？ B. 代謝異常 C. 糖代謝と糖代謝異常

D. 脂質代謝と脂質代謝異常 E. 核酸代謝と核酸代謝異常

F. タンパク代謝とタンパク代謝異常 G. カルシウム代謝とカルシウム代謝異常 H. 代謝障害によって発症する主な疾患

第6章 老 化

A. 老化とは何か？ B. 細胞の老化と個体の老化 C. 老化に伴う各臓器の変化 D. 老化によって発症する主な疾患

第7章 感染と感染症

A. 感染症とは何か？ B. 感染症の原因となる病原体 C. 感染に対する防御能 D. 感染症の発症

第8章 免疫と免疫異常

A. 免疫機構 B. アレルギー C. 自己免疫疾患 D. 免疫不全症 E. 移植免疫 F. 免疫および免疫異常によって発症する主な疾患

第9章 炎 症

A. 炎症の正体 B. 炎症はどのように起こるのか？ C. 炎症の分類 D. 炎症の全身反応

第10章 腫 瘍

A. 癌とは何か？ B. 腫瘍の分類 C. 癌の特性 D. 腫瘍マーカーと癌の診断 E. 癌の治療

【テキスト履修】

第1章 病気と病理学：病理学とは何か？医療における病理診断の意義、治療やケアと病理学、病気はどのように発症するのか。

第2章 細胞の異常—病気の本態：細胞の構造と細胞傷害、正常細胞の新陳代謝—恒常性の維持、再生と修復、ヒトの体の多層構造

第3章 先天異常：遺伝とは何か？先天異常とは何か？遺伝要因による先天異常、環境要因による先天異常

第4章 循環障害：循環器系の機能、循環障害とは

第5章 代謝異常：代謝とは何か？代謝の異常とは

第6章 老化：老化とは何か？細胞の老化と個体の老化、老化に伴う各臓器の変化、細胞の死とテロメア

第7章 感染と感染症：感染症とは何か？病原体、感染に対する防御能、感染症の発症とは

第8章 免疫と免疫異常：免疫機構とは、アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全症、移植

第9章 炎症：炎症とは、炎症はどのように起こるのか？炎症の分類、炎症の全身反応

第10章 腫瘍：良性腫瘍、悪性腫瘍、上皮性腫瘍、非上皮性腫瘍、転移と再発、腫瘍マーカー、がんの治療

参考書で取り上げた「トリセツ・ヤマイ ヤマイ世界を俯瞰する」にも、上記の各章に該当する部分があるので、合わせて読み、知識を深めていただくのが良い。

以下のウェブサイト視聴するのが望ましい。

医療関連講座 1. 病気の要因

<https://med-info-update7.webnode.jp/>

病気と病理学：病理学とは何か？

細胞の異常—病気の本態

https://www.youtube.com/watch?v=_v12No6f0gI

第3章 先天異常：遺伝とは何か？先天異常とは何か？

<https://www.youtube.com/watch?v=k04UbKU18jg>

循環障害：循環器系の機能、循環障害とは

<https://www.youtube.com/watch?v=IYb3yxOQuDM>

	第 5 章 代謝異常：代謝とは何か？代謝の異常とは 第 6 章 老化：老化とは何か？細胞の老化と個体の老化、老化に伴う各臓器の変化、細胞の死とテロメア https://www.youtube.com/watch?v=OML7XAn9rN4 感染と感染症：感染症とは何か？病原体、感染に対する防御能、感染症の発症とは https://www.youtube.com/watch?v=vDTGJkSZvhU 免疫と免疫異常：免疫機構とは、アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全症、移植 炎症：炎症とは、炎症はどのように起こるのか？炎症の分類、炎症の全身反応 https://www.youtube.com/watch?v=WJgE8mVyHiE 第10章 腫瘍： https://www.youtube.com/watch?v=nMH3Ka6TasQ 「心の病」「成長と発達に関連した疾患」「薬剤の副作用を含む医原病」「公害病」「妊娠分娩に関連した疾患」 「大規模災害に伴って起こる病気」「臓器の機能的疾患」「就労に伴って起こる疾患」「栄養失調」などを取り上げて解説する。新聞、ＴＶなどでもしばしば取り上げられる病態なので普段から、医療系の記事に関心を持ってい ただくと良い。 以下のウェブサイト視聴するのが望ましい。 「心の病」 https://snabi.jp/article/154 「成長と発達に関連した疾患」 https://snabi.jp/article/9 「薬剤の副作用を含む医原病」 https://www.jstage.jst.go.jp/article/jscpt1970/10/3/10_3_457/_pdf https://www.youtube.com/watch?v=I4JJDWphrq4 「公害病」 https://www.s-yamaga.jp/kankyo/kankyo-osen-1.htm https://www.youtube.com/watch?v=0vijfyW-FCc https://www.youtube.com/watch?v=sND7jhKKgLo 「妊娠分娩に関連した疾患」（性・妊娠分娩に関連した疾患） https://www.youtube.com/watch?v=TBCKIyGkqqA https://www.youtube.com/watch?v=PMRvQDoyFAA https://www.youtube.com/watch?v=Fci3LVbQgYc 「大規模災害に伴って起こる病気」 https://www.youtube.com/watch?v=y7cNDzZZWIs https://www.youtube.com/watch?v=PGSONswb-Os https://www.youtube.com/watch?v=y1-_e5J4ISg https://www.youtube.com/watch?v=VMOD7yBunnQ 「臓器の機能的疾患」 https://www.shiki-cl.com/dyspepsia/ https://www.nhk.or.jp/kenko/atc_832.html https://www.nhk.or.jp/kenko/atc_1476.html 「就労に伴って起こる疾患」 https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudoukijun/karoushizero/index.html https://www.youtube.com/watch?v=JeIdWtTO6FQ 「栄養失調」 https://www.j-milk.jp/report/study/h4ogb400000011hw-att/h4ogb400000011k9.pdf
一般目標 (GIO)	人々の健康と幸福ならびにQOLの向上を支援することができるようになるために、病気の成り立ちを知り、その知識をもとに病気の予防と治療の基本的考え方を理解する。
行動目標 到達目標 (SBOs)	【インターネット履修】 １．テキスト第1章から第10章に記載されている病理学総論の内容の概略を説明できる ２．病理学総論で扱われない疾患・病態を分類できる。 ３．病理学総論で扱われない疾患・病態の例を挙げることができる。 ４．心の病について概略を説明できる。 ５．成長と発達に関連した疾患について概略を説明できる。 ６．薬剤の副作用を含む医原病について概略を説明できる。 ７．公害病について概略を説明できる。

	8. 妊娠分娩に関連した疾患について概略を説明できる。 9. 大規模災害に伴って起こる病気について概略を説明できる。 10. 臓器の機能的疾患について概略を説明できる。 11. 就労に伴って起こる疾患について概略を説明できる。 12. 栄養失調について概略を説明できる。	
卒業認定・学位授与の方針と本科目の関連	この講座は本学のディプロマポリシー3に大きくかわかる内容を取り上げている。すなわち「現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、創造力・洞察力を持って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築という現代の科学的・社会的要請に対して応えようとする意欲と能力がある」ことを養成するのにきわめて役立つものと考えられる。	
ディプロマポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学ぼうとする意欲、豊かな人間性 ■ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育 ■ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。
	学科	心身健康科学科に関連する項目 3. 「こころ」「からだ」「環境・社会」の統合的・学際的な知識を持っていること
カリキュラムポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学科	心身健康科学科に関連する項目
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 評価は「最終レポート」（100%）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。 ただし、各時限の「確認学修」を行い、全ての時限で合格（60点以上）した者が、「最終レポート」を受験できる。	

	最終レポートの記述に関しては以下の項目に従って、評価する。 1) 指定の文字数に合致しているか。過不足はないか。 2) 誤字、脱字がないか。 3) 出題内容の問いや趣旨に合致しているか。 4) 文章の結論とそれに至る理由が明確に書かれているか。 5) 専門用語が適切に、誤りなく使用されているか。 6) 常体（「である」調）で記載されているか。 7) 他人のレポートをコピー＆ペーストしていないか。		
課題に対する フィードバック の方法	各授業直後に実施する確認問題の内容は、授業内及びテキスト内などから出題されますので、すべて正解となるようにしっかり復習をしてください。		
スクーリング履修 における授業準備 （予習・復習）の 具体的な内容及び それに必要な時間	【予習】 参考書などにより事前に勉強し、基本的な人体の構造：臓器の名称と働き、生理機能、細胞の基本構造と細胞が組織を構成していることを理解しておく。 基礎的な病原微生物の概念：ウイルス、細菌、寄生虫などの違いを理解しておく。また、基本的な生理、生化学的用語、血圧、消化、呼吸、酵素などが何を意味しているかをおさえておく 以下のウェブサイト予習・復習として視聴しておくことが望ましい。 病気と病理学：病理学とは何か？ 細胞の異常－病気の本態 https://www.youtube.com/watch?v=_v12No6f0gI 第5章 代謝異常：代謝とは何か？代謝の異常とは 第6章 老化：老化とは何か？細胞の老化と個体の老化、老化に伴う各臓器の変化、細胞の死とテロメア https://www.youtube.com/watch?v=OML7XAn9rN4 感染と感染症：感染症とは何か？病原体、感染に対する防御能、感染症の発症とは https://www.youtube.com/watch?v=vDTGJkSZvhU 免疫と免疫異常：免疫機構とは、アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全症、移植 炎症：炎症とは、炎症はどのように起こるのか？炎症の分類、炎症の全身反応 https://www.youtube.com/watch?v=WJgE8mVyHiE 第10章 腫瘍： https://www.youtube.com/watch?v=nMH3Ka6TasQ （1コマにつき2時間程度） 【復習】 テキストを繰り返し読むことがのぞましい。予習のウェブサイトを再視聴しても良い。講義のビデオを繰り返し視聴することもお勧めする。 人体、健康、病気といったことに関する新聞記事、ニュースなどに関心を持ってみておくことが望ましい。 また、人体、健康、病気といったことに関する別の書籍（参考書欄にも一部記載した）にも目を通すことが望ましい。 （1コマにつき2時間程度） NHKの健康番組：「今日の健康」「チョイス」を視聴する		
スクーリング履修 での講義内容	授業計画		
	いわゆる身体的な病気だけでなく、私たちを取り巻く広い意味の病や健康問題、障害に関することなどに関する知識を身に着けることを目的として講義を構成しています。		
	時限	学習内容	キーワード（重要語句） 担当教員
	1 時限	病理学とは何か？病気の発症 先天異常とは何か、循環障害とは何か	病因、内因、外因、合併症、細胞、組織、 遺伝子 先天異常、先天代謝異常、梗塞、出血、動脈、静脈、充血、うっ血、健康を脅かす因子 渡邊成
	2 時限	代謝とその異常とは何か 老化（個体の老化、細胞の老化）とは何か	代謝、糖尿病、脂質異常、高尿酸血症、ホルモン、ビタミン、微量金属 退行性変化、廃用萎縮、テロメア、神経細胞 渡邊成
	3 時限	炎症とは何か・感染症とは何か 免疫とその異常とは何か、移植とは何か、再生医療	炎症の4兆候、自己と非自己、炎症と感染、病原微生物 免疫とは、アレルギー、自己免疫疾患、移植の分類、拒絶反応、GVHD 再生医療 渡邊成

	4 時限	腫瘍 上皮性組織 非上皮性組織 良性腫瘍 悪性腫瘍 脳腫瘍 血液がん	がん、癌、肉腫、転移、再発、腫瘍マーカー がん遺伝子、がん抑制遺伝子 癌の予防、緩和医療、集学的治療、がん検診、ターミナルケア、グリーフケア	渡邊成
	5 時限	心の病 成長と発達に関連した疾患 薬剤の副作用を含む医原病	統合失調症、うつ病、神経症、ADHD、PTSD、アスペルガー、自閉症スペクトラム 医原病、医療安全、院内感染、薬剤の副作用、	渡邊成
	6 時限	公害病 環境ホルモン 性・妊娠分娩に関連した疾患	公害とは、4大公害病、内分泌かく乱物質、ダイオキシン 性の分化、不妊、体外受精、多胎、周産期医療、LGBTQ、STD、流早産	渡邊成
	7 時限	大規模災害に伴って起こる病気 臓器の機能的疾患	災害とは、肺血栓塞栓症、震災関連死、クラッシュ症候群 機能的胃腸症、過敏性腸症候群、自律神経失調症	渡邊成
	8 時限	就労に伴って起こる疾患 栄養失調	メンタルヘルス、過労死、塵肺、労災、産業医 肥満と痩せ、サプリメント、排泄、シンバイオティックス、グレリン、レプチン、	渡邊成
授業評価アンケートに基づく改善点	昨年度の受講生からの評価で、最終レポートの評価基準が不明であるというご意見をいただきました。そこで今回は、客観的な回答が得られるような設問に対して、短いレポートを記載していただくことで改善を図ります。次年度は受講生の皆さんのご意見をもとに、授業内容を改善していく予定です。皆さんのご意見が、より良い授業を作っています。本年度の授業評価アンケートへのご協力をお願いします。			
方略	インターネット授業：基本的にビデオ鑑賞及び自学 新聞記事などマスコミで取り上げられる疾患、健康に関する情報に目を向けておく。 紹介したウェブサイトを視聴する。			
連絡事項	臨床医学的な知識が必要となりますので、ある程度基礎的な医学に関する知識を持たれてから受講されることをお勧めしま			

科目名	内臓の調整のしくみ（T）／内臓の調整のしくみ（N）			
サブタイトル				
対象学科	人間科学部 心身健康科学科			
担当教員	鍵谷方子（科目責任者）・鈴木はる江			
担当教員の 実務経験				
オフィスアワー	鍵谷方子：金曜日13時～17時 鈴木はる江：水曜日13時～15時 本館2Fコミュニケーションラウンジまたはオンライン（ZOOM）、2週間前までにUHAS@MyCampusの質問箱で 予約ください。			
配当年次	1-4	選択	単位数	テキスト履修：2単位 / インターネット 授業履修：1単位
授業形態	講義			
アクティブラーニング				
授業方法	メディア授業 印刷授業			
資格等 関連科目	【B219T】養護教諭養成コース,認定心理士【B220N】養護教諭養成コース,認定心理士,心身健康アドバイザー			
科目コード	B219T / B220N			
科目区分	いのちと健康のしくみ			
テキストの変更 ・改訂	2021年度からの変更・改訂： なし			
使用教材	教科書	鈴木はる江編著『自律神経生理学』（本学オリジナルテキスト）		
	参考書等	久住眞理／佐藤昭夫監修『人体の構造と働き』（本学オリジナルテキスト）		
授業概要 (目的・ねらい)	生体が生きていくために最も基本的な循環、消化、排泄などの機能に関わる内臓の働きは、無意識のうちに常時調節されている。本科目では、内臓の働きの調整に関わる自律神経系の成り立ちと働き、自律神経系による生体の内部環境の恒常性維持の仕組みを学ぶ。自律神経による内臓の調整は感情やストレスの影響を受けて、ときには体調不良を招くこともある。内臓の機能を良好に維持して心身の健康を維持するために、日常生活でどのように注意すべきか、自ら考察できるようにする。			
キーワード	自律神経／交感神経系／ 副交感神経系／内部環境の恒常性／ホメオスタシス／心身相関			
テキストの内容 及びアドバイス	第1章 身体機能の恒常性維持に役立つ自律神経系：交感神経と副交感神経および内臓求心性神経よりなる自律神経系の構造と働きの特徴、自律神経による内臓の調節の仕組みについて学ぶ。こころの変化が自律神経を介して身体反応に表れる「心身相関」について理解する。 第2章 循環と自律神経：自律神経による心臓と血管の調整、運動時の循環調節の仕組みについて学ぶ。高血圧と低血圧についてもふれる。 第3章 食物の消化と自律神経：自律神経による唾液分泌調節、胃運動と胃液分泌の調節、腸の運動と排便の調整について学ぶ。ストレスによる胃潰瘍についてもふれる。 第4章 尿の排泄と自律神経：膀胱と尿道の働きの自律神経性調節と排尿調節について学ぶ。 第5章 体温の調節と自律神経：体熱の産生と放散の仕組み、皮膚血管と汗腺の自律神経性調節と厚さ寒さに対処する体温調節の仕組みを学ぶ。 第6章 ホルモン・生殖・免疫・呼吸・生体リズムと自律神経：自律神経系とは対比して考えられるホルモン系や免疫系、体性神経系によって調節される呼吸運動の調節にも自律神経が関わっていることを理解する。また種々の生理機能のリズムと自律神経の関係について学ぶ。 第7章 体性感覚刺激と自律神経機能：皮膚や筋への体性感覚刺激によって自律神経の機能が反射的に調節されることについて学ぶ。このような反射は、理学療法や手技療法の作用機序の1つと考えられている。 テキストに記載されている内容の中で、特に太字の項目を重要ポイントとして充分理解すると良い。			
一般目標 (GIO)	健康を維持するために、内臓機能を調節する自律神経の働きの特徴を理解して、その知識を生活の見直しに活用できる。			
行動目標 到達目標 (SBOs)	1. 交感神経の特徴と働きを説明できる。 2. 副交感神経系の特徴と働きを説明できる。 3. 脳幹と視床下部にある重要な自律機能中枢を列挙できる。 4. 心臓と血管の自律神経による調節を説明できる。 5. 血圧調節の仕組みを説明できる。 6. 唾液と胃液分泌の調節の仕組みを説明できる。			

	7. 排尿調節の仕組みを説明できる。 8. 体温調節の仕組みを説明できる。 9. 自律神経系の働きがストレスの影響を受けやすいことを理解している。	
卒業認定・学位授与の方針と本科目の関連	本科目により自律神経による内臓調整のしくみを理解して、現代社会に生きる人間が心身共に健康に暮らすことのできる方策を洞察できる力を養う。	
ディプロマポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学ぼうとする意欲、豊かな人間性 ■ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育 ■ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。
	学科	心身健康科学科に関連する項目 1. 人間と社会の諸側面について、「こころ」「からだ」「環境・社会」のそれぞれの領域に関する専門知識を持っていること
カリキュラムポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学科	心身健康科学科に関連する項目
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 【テキスト履修】 テキストの学習の確認として、テキスト課題を出題する。それに合格（60点以上）した者は、科目修了試験を受験できる。科目修了試験にて60点以上を合格とする。 【インターネット履修】 評価は「最終レポート」（100%）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。 ただし、各時限の「確認学修」を行い、全ての時限で合格（60点以上）した者が、「最終レポート」を受験できる。	

	最終レポート内の「記述問題」については、以下の項目に従って評価する。 ・ 指定文字数に従っているか。 ・ 誤字、脱字がないか。 ・ 出題内容の問いに答えているか。 ・ 文章が論理的か ・ 専門用語を適切、正確に使用しているか。 ・ 常体（『である』調）で記述されているか。 ・ 他人のレポートをコピー＆ペーストしていないか。 ※ ChatGPT等の生成AIの利活用は可ですが、利活用した際には、利活用した旨の記載や、利活用した生成AIの種類・箇所等を明記ください。（回答文字数には含まれません）			
課題に対する フィードバック の方法	テキスト履修：テキスト課題合格時に「解答・解説」を表示する。 インターネット履修：各时限の確認問題合格時に、解答・解説を提示する。			
スクーリング履修 における授業準備 （予習・復習）の 具体的な内容及び それに必要な時間	【予習】 テキスト第Ⅰ章で交感神経と副交感神経の違いについて、予習しておくとい。自律神経系は神経系の1つであるので、神経系の基本的構成要素のニューロン、シナプス、神経伝達物質について、参考書なども活用して理解しておく。(各时限ごとに2時間程度) 【復習】 講義内容の重要事項を、テキストで再度確認しておく。(各时限ごとに2時間程度)			
スクーリング履修 での講義内容	授業計画			
	自律神経系の構造と働きの基本ならびに、自律神経系の神経伝達物質、受容体の特徴について学ぶ。さらに脳幹・視床下部・大脳辺縁系による自律神経系の働きの調節と、脳による生体の内部環境の恒常性維持（ホメオスタシス）の仕組みについて、循環器系、消化器系、排泄系、体温調節系などの具体例を取り上げながら学ぶ。最後に自律神経系と内分泌系、免疫系とが相互に関連しつつ働いていること、皮膚や筋の刺激によって反射性に自律神経の機能が変化しうることについても学ぶ。自律神経の働きをバランスよく保って健康を維持する方策について考える。			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員
	1時限	神経系の基本と自律神経系の構造	神経系の分類と自律神経系の構造の特徴を学ぶ。 神経系の分類／交感神経系／副交感神経系／節前ニューロン／節後ニューロン／自律神経節	担当教員
	2時限	自律神経系の働き(1)働きの特徴と神経伝達物質	自律神経系の働きの特徴と神経伝達物質を学ぶ。 二重支配／拮抗支配／トーヌス／ノルアドレナリン／アセチルコリン	担当教員
	3時限	自律神経系の働き(2)受容体と内臓求心性神経 脳と脊髄による自律神経機能の統合	自律神経系の受容体の特徴と内臓求心性神経の働きを学ぶ。脊髄・脳幹による自律機能調節を学ぶ。 受容体／内臓求心性神経／脊髄／脳幹／循環中枢／呼吸中枢／排尿中枢	担当教員
	4時限	視床下部の働きとホメオスタシス 大脳辺縁系と情動	視床下部によるホメオスタシスの仕組みと大脳辺縁系の働きの特徴を学ぶ。 視床下部／ホメオスタシス／体温調節中枢／摂食中枢／満腹中枢／大脳辺縁系／情動	担当教員
	5-6時限	循環機能調節の仕組み	自律神経による循環機能の調節を学ぶ。 心臓／刺激伝導系／血管／血圧／圧受容器反射／高血圧／低血圧	担当教員
	7時限	消化機能調節の仕組み	自律神経による消化機能の調節を学ぶ。ストレスの胃の機能への影響を学ぶ。 壁内神経叢／消化管ホルモン／唾液分泌／胃液分泌／ストレス	担当教員
	8時限	自律神経による内分泌と免疫機能の調節 体性感覚刺激による自律機能調節	自律神経による内分泌と免疫機能の調節と、体性－自律神経反射について学ぶ。 副腎髄質／ランゲルハンス島／松果体／免疫系／白血球／体性－自律神経反射	担当教員
授業評価アンケートに基づく改善点	マイキャンパスの「質問箱」へ寄せられた質問へ、担当教員が1週間以内に返答するようにします。			

方略	重要専門用語をメモして覚える。生活の場面を思い出しながら、自律神経の働きを関連づける。
連絡事項	

科目名	運動のしくみ(T)／運動のしくみ(N)			
サブタイトル				
対象学科	人間科学部 心身健康科学科			
担当教員	鈴木はる江			
担当教員の 実務経験				
オフィスアワー	水曜日13時～15時、オンライン（ZOOM）で実施。2週間前までにUHAS@MyCampusの質問箱で予約ください。			
配当年次	1-4	選択	単位数	テキスト履修：2単位 / インターネット 授業履修：1単位
授業形態	講義			
アクティブラーニング				
授業方法	メディア授業 印刷授業			
資格等 関連科目	【B221T】 養護教諭養成コース,認定心理士【B222N】 養護教諭養成コース,認定心理士			
科目コード	B221T / B222N			
科目区分	いのちと健康のしくみ			
テキストの変更 ・改訂	2022年度からの変更・改訂： あり			
使用教材	教科書	鈴木はる江・佐藤昭夫著『運動生理学』第4版、2025年9月（本学オリジナルテキスト）		
	参考書等	テキストの末尾に参考図書を列挙してある。		
授業概要 (目的・ねらい)	我々は身体の種々の部位を動かして日常生活を営んでいる。本科目では、身体運動に関わる身体の構造と働きを理解することを目標とする。すなわち、骨格と骨格筋、骨格筋を調節する神経系、運動を支える呼吸器系や循環器系の働きについて、その基本構造と生理作用を学ぶ。その上で健康的な身体機能の維持に運動が重要な役割を果たしていること、さらに身体の健康ばかりでなく、心の健康、社会的な健康にも運動が役立っていることについても学ぶ。但し運動は、不足しても度をすぎても身体に害を及ぼす。運動生理学の理解を通じて、心身共に健康で充実した生活を送る上で必要な運動とは何かを考察する。			
キーワード	骨と骨代謝／骨格筋／運動神経系／呼吸器系／循環器系／運動の効用			
テキストの内容 及びアドバイス	第1章 運動と骨格－体を支える骨の構造と働き：運動をする際に体を支える骨の構造と働きについて学ぶ。骨を丈夫に保つために運動が重要であることも学ぶ。 第2章 運動と筋肉－運動の基となる筋収縮の仕組み：収縮することにより様々な運動を起こす筋肉の働きについて学ぶ。筋収縮に必要なエネルギー供給の仕組みと運動の種類との関係を学び、健康維持にはどのような運動が有効なのかも理解する。 第3章 運動と神経－神経系による運動調節の仕組み：全身の筋肉を調節して適切な運動を可能にする神経系の働きを学ぶ。適切な運動を行うためには感覚系も働いている。運動時にはこのように運動神経系、感覚神経系が作動し、脳の広範な領域が活発に働くことについて理解する。 第4章 運動を支える身体機能：呼吸器系、循環器系などの身体機能が運動時にどのように変化して運動を支えているのかを理解する。健康のために運動中に留意すべきことについても学ぶ。 第5章 運動の身体的・精神的・社会的効用：運動が種々の身体機能を改善する効果を持つこと、さらには精神的・社会的にも健康維持に役立つことを学ぶ。 第6章 運動機能の発達と加齢変化：運動機能が生まれてから成人期まで発達していき、やがて老化に伴い機能が低下していく過程について学ぶ。 テキストに記載されている内容の中で、特に太字のキーワードを重要ポイントとして充分理解すると良い。			
一般目標 (GIO)	心身の健康を維持するために、運動が重要な役割を持つことを理解し、自身の生活に活用する。			
行動目標 到達目標 (SBOs)	1. 骨の代謝に関わるホルモンの名称とその働きについて説明できる。 2. 骨格筋の構造と収縮の仕組みについて説明できる。 3. 中枢神経系による運動調節の仕組みについて説明できる。 4. 運動時に呼吸器系はどのように調節されるか説明できる。 5. 運動時に循環器系はどのように調節されるか説明できる。 6. 運動の身体的効用について、例を挙げることができる。 7. 運動の精神的効用について、例を挙げることができる。 8. 運動機能の加齢変化を説明できる。 9. 心と身体の健康維持にどのような運動が適しているか、自分の意見を述べることができる。			

卒業認定・学位授与の方針と本科目の関連	本科目で健康維持における運動の重要性を理解して、現代社会に生きる人間が心身共に健康に暮らすための方策を洞察する力を養う。	
ディプロマポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学ぼうとする意欲、豊かな人間性 ■ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育 ■ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。
	学科	心身健康科学科に関連する項目 1. 人間と社会の諸側面について、「こころ」「からだ」「環境・社会」のそれぞれの領域に関する専門知識を持っていること
カリキュラムポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学科	心身健康科学科に関連する項目
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 【テキスト履修】 テキストの学習の確認として、テキスト課題を出題する。それに合格（60点以上）した者は、科目修了試験を受験できる。科目修了試験にて60点以上を合格とする。 【インターネット履修】 評価は「最終レポート」（100%）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。 ただし、各時限の「確認学修」を行い、全ての時限で合格（60点以上）した者が、「最終レポート」を受験できる。 最終レポート内の「記述問題」については、以下の項目に従って評価する。	

	・ 指定文字数に従っているか。 ・ 誤字、脱字がないか。 ・ 出題内容の問いに答えているか。 ・ 文章が論理的か ・ 専門用語を適切、正確に使用しているか。 ・ 常体（『である』調）で記述されているか。 ・ 他人のレポートをコピー＆ペーストしていないか。			
課題に対する フィードバック の方法	テキスト履修：テキスト課題合格時に「解答・解説」を表示する。 インターネット履修：各時限の確認問題合格時に、解答・解説を提示する。			
スクーリング履修 における授業準備 （予習・復習）の 具体的な内容及び それに必要な時間	【予習】 特にテキスト「第Ⅱ章 運動と筋肉」の骨格筋の特徴を予習したり、「第Ⅲ章 運動と神経」の神経系の成り立ちで神経系の基本や、「第Ⅳ章 運動を支える身体機能」の呼吸器系と循環器系の成り立ちで呼吸器と循環器の基本について、テキストの当該箇所を理解しておくとい。（各時限ごとに2時間程度） 【復習】 講義内容の重要事項を、テキストで再度確認しておく。（各時限ごとに2時間程度）			
スクーリング履修 での講義内容	授業計画			
	体を支える骨格の構造と働き、骨格筋の構造と筋収縮の仕組み、運動調節に関わる神経系の構造と働き、呼吸器系と循環器系の構造と働きと運動時での調節、エネルギー代謝と体温調節について学ぶ。最終的に、運動が心身の健康維持に重要な役割をはたしていることを学び、日常生活に適度な運動が欠かせないことを理解する。			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員
	1時限	運動と骨格	体を支える骨の構造と働き、骨の代謝と運動の骨に及ぼす影響を学ぶ。 緻密骨／海綿骨／骨芽細胞／破骨細胞／パラソルモン／カルシトニン／エストロゲン／活性型ビタミンD	鈴木はる江
	2－3 時限	運動と筋肉	身体各部の運動、骨格筋の構造、筋収縮の仕組みとエネルギー供給を学ぶ。 横紋筋／屈曲と伸展／筋線維／筋原線維／単収縮／強縮／無酸素系／有酸素系／赤筋線維／白筋線維	鈴木はる江
	4－5 時限	運動と神経	神経系の構造、脊髄・脳幹・大脳・小脳による運動調節の仕組みを学ぶ。 ニューロンとシナプス／運動単位／伸張反射／屈曲反射／嚥下反射／姿勢反射／運動野／錐体路と錐体外路／随意運動のプログラム調節	鈴木はる江
	6時限	運動を支える身体機能（前半）	運動を支える呼吸器系、循環器系の構造と働きを学ぶ。 呼吸器系／換気／酸素摂取量／運動時の呼吸調節／循環器系／血圧／心拍出量／心拍数／運動時の循環調節	鈴木はる江
	7時限	運動を支える身体機能（後半） 運動の身体的効用	運動時のエネルギー代謝と体温調節を学ぶ。運動の身体的効用とその仕組みを学ぶ。 エネルギー代謝／体温調節の仕組み／骨格筋の発達／肥満・高脂血症の改善／高血圧改善／糖尿病改善／骨の維持	鈴木はる江
	8時限	運動の精神的効用 運動機能の加齢変化 まとめ	運動の精神的効用とその仕組みを学ぶ。運動機能の加齢変化と運動の効果を学ぶ。1－8限目の学修のまとめ 気分改善／認知機能維持／加齢変化／運動の注意点／生活の質の維持	鈴木はる江
授業評価アンケートに基づく改善点	マイキャンパスの「質問箱」へ寄せられた質問へ、1週間以内に返答するようにします。			
方略	テキストの重要ポイントを理解し、自分自身の生活改善にどのように応用できるか考察する。			
連絡事項				

科目名	栄養と心身の健康(T)／栄養と心身の健康(N)			
サブタイトル				
対象学科	人間科学部 心身健康科学科			
担当教員	矢島孔明			
担当教員の 実務経験				
オフィスアワー	担当教員のオフィスアワーは以下に従います。 矢島孔明：火曜日 16:30-17:30、木曜日 12:00-13:00 オンラインあるいは本館2階コミュニケーションラウンジ UHAS@Myキャンパスより随時、質問や面接日時の予約申し込み・調整ができます。			
配当年次	1-4	選択	単位数	テキスト履修：2単位 / インターネット 授業履修：1単位
授業形態	講義			
アクティブラーニング				
授業方法	メディア授業 印刷授業			
資格等 関連科目	【B229T】養護教諭養成コース【B230N】養護教諭養成コース			
科目コード	B229T / B230N			
科目区分	いのちと健康のしくみ			
テキストの変更 ・改訂	2023年度からの変更・改訂： なし			
使用教材	教科書	『食卓の生化学 第2版』、橋本洋子・小野直美・三浦義彰／著、「医歯薬出版」、2017年、改訂第2版		
	参考書等	『食事のせいで、死なないために [食材別編]』、マイケル・クレガー、ジーン・ストーン／著、「NHK出版」、2017年、初版		
授業概要 (目的・ねらい)	「栄養と心身の健康」では、日常的に摂取を行う食品や食生活を含めた栄養という生命活動と、心身の健康のつながりを学修していきます。現在明らかにされている栄養の仕組みが、どのように健康状態を左右しているのだろうか？栄養素がもたらす心身の関係性や問題点は、どのようなものがあるのだろうか？身近なテーマとして捉えながら、健康状態を引き上げるための視点について広い視野と正確な知恵を科学的な知見から持てるようになることを本科目の目的とする。			
キーワード	健康増進 / 欠乏症 / メタボリックシンドローム / 生活習慣病			
テキストの内容 及びアドバイス	本科目が行うテキストは、身近にある食べ物に焦点を当てて、科学論文に基づく知見を示しながら栄養と健康をかわわりを著している。何気ない食の偏りがもたらす影響が健康に大きな影響を与えていることを科学研究による所見として示している。栄養は食べ過ぎても、不足していても、心身に影響を及ぼし健康状態を失ってしまう。 このような状態を予め防ぐために、日常の生活がもたらす栄養素がヒトの健康状態にどのように影響しているのかということを、科学的データや現在確かとされる科学原理をあてはめながら、背景や仕組みを学修していく。その中で、栄養から健康を捉える際にどのような問題が存在しているのかを読み取っていくことが大切である。 テキストを読みながら、あるいはスクーリングを受けながら、内容についてメモして行きましょう。特にキーワードや化合物名など多く出てくると思いますので、書きながら整理しましょう。知らない用語やわからない内容はまずご自身で調べ、UHASを利用して積極的に質問を行い、理解を深めて下さい。			
一般目標 (GIO)	栄養による健康を科学的に捉え、具体的な事例を見ていきながら、どのようにすることが心身の健康へとつながるのか、心身の健康状態を変化させる栄養的な要因を学ぶ。			

行動目標 到達目標 (SBOs)	1. 糖質である砂糖がもたらす体内での働きを説明できる。 2. 食物繊維がもたらす体内での働きについて説明できる。 3. 脂質の中でもn-3不飽和脂肪酸がもたらす人体への役割を説明できる。 4. 抗酸化ビタミンの人体への作用について説明できる。 5. 高尿酸血症と食生活の関わりを説明できる。 6. 鉄欠乏性貧血と食生活の関わりを説明できる。 7. 高血圧症と食生活の関わりを説明できる。 8. 骨粗鬆症と食生活の関わりを説明できる。 9. 肥満とレブチンの働きについて説明できる。 10. 筋肉をつくる食事、理想的なライフステージ・日本人の食事について説明できる。 11. 健康状態を引き上げるための、栄養がもたらす心身の関係性について考察できる。	
卒業認定・学位授与 の方針と本科目の 関連	本学科のディプロマポリシーの中でも特に、「現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、創造力・洞察力を持って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築という現代の科学的・社会的要請に対して応えようとする意欲と能力を身に付ける」ことについて、本科目の学修を通じて「こころ」「からだ」「文化」の側面から人間を総合的に理解し、教育理念である“自立と共生”や“創造力と人間性”を育みます。	
ディプロマポリシー との関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学ぼうとする意欲、豊かな人間性 ■ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育 ■ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。
	学科	心身健康科学学科に関連する項目 1. 人間と社会の諸側面について、「こころ」「からだ」「環境・社会」のそれぞれの領域に関する専門知識を持っていること
カリキュラムポリシー との関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る

	学科	心身健康科学科に関連する項目		
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 【テキスト履修】 評価は「科目修了試験」（100％）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。ただし、「テキスト課題」に合格（60点以上）した者が、「科目修了試験」を受験できる。 【インターネット履修】 評価は「最終レポート」（100％）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。 ただし、各時限の「確認学修」を行い、全ての時限で合格（60点以上）した者が、「最終レポート」を受験できる。 最終レポート内の「記述問題」については、以下の項目に従って評価する。 ・ 指定文字数に従っているか。過不足がないか。 ・ 誤字、脱字がないか。 ・ 出題内容の問い、趣旨に答えているか。 ・ 文章が論理的か ・ 専門用語を適切、正確に使用しているか。 ・ 常体（『である』調）で記述されているか。 ・ 他人のレポートをコピー＆ペーストしていないか。 ・ ChatGPT等の生成AIの利活用は可ですが、利活用した際には、利活用した旨の記載や、利活用した生成AIの種類・箇所等を明記ください。（回答文字数には含まれません）			
課題に対する フィードバック の方法	テキスト課題合格時に「解答・解説」を表示			
スクーリング履修 における授業準備 （予習・復習）の 具体的な内容及び それに必要な時間	【予習】 教科書の該当する章を読み通しておくことで、内容の理解が大きく高まります。そのため、受講の際には必ず教科書を読みましょう。また、不明な点はノートに何がわからないのかをメモしておくことも大切です。（1コマにつき2時間程度） 【復習】 復習については、講義スライドを参照しながら、教科書をもう一度読みなおすことで、さらに理解が深まります。スクーリング履修を行ったらすぐに、教科書の講義内容の章を読み直してください。予習でわからなかった点が解決出来るたか、確認をしましょう。不明な点など、知らない用語やわからない内容はまずご自身で調べ、UHASを利用して積極的に質問を行ってください。理解を深めていきましょう。（1コマにつき2時間程度）			
スクーリング履修 での講義内容	授業計画			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員
	1	イントロダクション、砂糖と健康 （テキスト第1章、以下テキストの章を示す）	健康と半健康・半病気の意味を捉え、予防栄養学を学ぶ目的を考える。また、砂糖が健康に与える影響について学ぶ。 2型糖尿病／フルクトース／異性化糖／人工甘味料	矢島
	2	食物繊維と健康、不飽和脂肪酸と健康 （第2章、第3章）	食品中の食物繊維の栄養素としての役割と、必須脂肪酸、特にn-3脂肪酸の栄養学的意義について学ぶ。 腸内細菌／プレバイオティクス／n-3不飽和脂肪酸／酸化LDL	矢島
	3	抗酸化ビタミンと健康 （第4章）	抗酸化ビタミンとは何か、過酸化脂質や活性酸素がどのようなものか、体内での抗酸化ビタミンの働きについて学ぶ。 活性酸素／抗酸化作用／ビタミンC,E	矢島
	4	プリン化合物と健康、鉄と健康 （第5章、第6章）	食品中の尿酸と鉄は生体にどのように作用するのか、高尿酸血症および貧血の予防と食生活について学ぶ。 痛風／プリン体／血中尿酸値／貯蔵鉄／フィチン酸／貧血	矢島

	5	食塩、カルシウムと健康 (第7章、第8章)	高血圧症について適切な食塩の摂取と血圧の関わりと、カルシウムの摂取と骨粗鬆症の関わりについて学ぶ。 高血圧／加工食品／ナトリウム・カリウムイオン／骨粗鬆症／骨リモデリング	矢島
	6	肥満と健康 (第9章)	なぜ肥満がいけないのか考える。肥満の原因として肥満発生の5つのパターンを学ぶ。 メタボリックシンドローム／レプチン／インスリン抵抗性／発熱機構	矢島
	7	タンパク質と健康 (第10章)	良質のタンパク質とはどのようなものか、また筋肉として蓄えるにはどのようなことを留意するか、摂取する食品のタンパク質について学ぶ。 窒素平衡／サルコペニア／分枝鎖アミノ酸／グリコーゲン・ローディング	矢島
	8	食生活と健康 (第11章、第12章、第13章)	日本人にとってどのような食生活が良いのか、がん予防、高齢者、現代人をキーワードに模索する。 EBM／発がん性物質／生活習慣／フレイル／動脈硬化症／外食／和食／食育	矢島
授業評価アンケートに基づく改善点	科目の充実をさらに進めるために、今後インターネット授業のアップデートを予定しています。			
方略	テキスト履修、スクーリング履修ともにテキストをベースに行います。ポイントや用語をテキストを読み進めながら把握していきましょう。不明点はまず一度調べてみながら、教員に質問をして理解を進めてください。			
連絡事項	食品中の栄養素がもたらすヒトとしてのいのちの作用については、「栄養といのちの営み」で行います。本科目である「栄養と心身の健康」では、もう少し広い視野で日常生活を含めた生活習慣病などに関わる栄養の視点から、社会的・医学的な現象を追及します。「栄養といのちの営み」を履修することも、よりこの科目も理解しやすくします。			

科目名	栄養と心身の健康(T)／栄養と心身の健康(N)			
サブタイトル				
対象学科	人間科学部 心身健康科学科			
担当教員	矢島孔明			
担当教員の 実務経験				
オフィスアワー	担当教員のオフィスアワーは以下に従います。 矢島孔明：火曜日 16:30-17:30、木曜日 12:00-13:00 オンラインあるいは本館2階コミュニケーションラウンジ UHAS@Myキャンパスより随時、質問や面接日時の予約申し込み・調整ができます。			
配当年次	1-4	選択	単位数	テキスト履修：2単位 / インターネット 授業履修：1単位
授業形態	講義			
アクティブラーニング				
授業方法	メディア授業 印刷授業			
資格等 関連科目	【B229T】養護教諭養成コース【B230N】養護教諭養成コース			
科目コード	B229T / B230N			
科目区分	いのちと健康のしくみ			
テキストの変更 ・改訂	2023年度からの変更・改訂： なし			
使用教材	教科書	『食卓の生化学 第2版』、橋本洋子・小野直美・三浦義彰／著、「医歯薬出版」、2017年、改訂第2版		
	参考書等	『食事のせいで、死なないために [食材別編]』、マイケル・クレガー、ジーン・ストーン／著、「NHK出版」、2017年、初版		
授業概要 (目的・ねらい)	「栄養と心身の健康」では、日常的に摂取を行う食品や食生活を含めた栄養という生命活動と、心身の健康のつながりを学修していきます。現在明らかにされている栄養の仕組みが、どのように健康状態を左右しているのだろうか？栄養素がもたらす心身の関係性や問題点は、どのようなものがあるのだろうか？身近なテーマとして捉えながら、健康状態を引き上げるための視点について広い視野と正確な知恵を科学的な知見から持てるようになることを本科目の目的とする。			
キーワード	健康増進 / 欠乏症 / メタボリックシンドローム / 生活習慣病			
テキストの内容 及びアドバイス	本科目が行うテキストは、身近にある食べ物に焦点を当てて、科学論文に基づく知見を示しながら栄養と健康をかわりを著している。何気ない食の偏りがもたらす影響が健康に大きな影響を与えていることを科学研究による所見として示している。栄養は食べ過ぎても、不足していても、心身に影響を及ぼし健康状態を失ってしまう。 このような状態を予め防ぐために、日常の生活がもたらす栄養素がヒトの健康状態にどのように影響しているのかということを、科学的データや現在確かとされる科学原理をあてはめながら、背景や仕組みを学修していく。その中で、栄養から健康を捉える際にどのような問題が存在しているのかを読み取っていくことが大切である。 テキストを読みながら、あるいはスクーリングを受けながら、内容についてメモして行きましょう。特にキーワードや化合物名など多く出てくると思いますので、書きながら整理しましょう。知らない用語やわからない内容はまずご自身で調べ、UHASを利用して積極的に質問を行い、理解を深めて下さい。			
一般目標 (GIO)	栄養による健康を科学的に捉え、具体的な事例を見ていきながら、どのようにすることが心身の健康へとつながるのか、心身の健康状態を変化させる栄養的な要因を学ぶ。			

行動目標 到達目標 (SBOs)	1. 糖質である砂糖がもたらす体内での働きを説明できる。 2. 食物繊維がもたらす体内での働きについて説明できる。 3. 脂質の中でもn-3不飽和脂肪酸がもたらす人体への役割を説明できる。 4. 抗酸化ビタミンの人体への作用について説明できる。 5. 高尿酸血症と食生活の関わりを説明できる。 6. 鉄欠乏性貧血と食生活の関わりを説明できる。 7. 高血圧症と食生活の関わりを説明できる。 8. 骨粗鬆症と食生活の関わりを説明できる。 9. 肥満とレブチンの働きについて説明できる。 10. 筋肉をつくる食事、理想的なライフステージ・日本人の食事について説明できる。 11. 健康状態を引き上げるための、栄養がもたらす心身の関係性について考察できる。	
卒業認定・学位授与 の方針と本科目の 関連	本学科のディプロマポリシーの中でも特に、「現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、創造力・洞察力を持って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築という現代の科学的・社会的要請に対して応えようとする意欲と能力を身に付ける」ことについて、本科目の学修を通じて「こころ」「からだ」「文化」の側面から人間を総合的に理解し、教育理念である“自立と共生”や“創造力と人間性”を育みます。	
ディプロマポリシー との関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学ぼうとする意欲、豊かな人間性 ■ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育 ■ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。
	学科	心身健康科学学科に関連する項目 1. 人間と社会の諸側面について、「こころ」「からだ」「環境・社会」のそれぞれの領域に関する専門知識を持っていること
カリキュラムポリシー との関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る

	学科	心身健康科学科に関連する項目		
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 【テキスト履修】 評価は「科目修了試験」（100％）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。ただし、「テキスト課題」に合格（60点以上）した者が、「科目修了試験」を受験できる。 【インターネット履修】 評価は「最終レポート」（100％）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。 ただし、各時限の「確認学修」を行い、全ての時限で合格（60点以上）した者が、「最終レポート」を受験できる。 最終レポート内の「記述問題」については、以下の項目に従って評価する。 ・ 指定文字数に従っているか。過不足がないか。 ・ 誤字、脱字がないか。 ・ 出題内容の問い、趣旨に答えているか。 ・ 文章が論理的か ・ 専門用語を適切、正確に使用しているか。 ・ 常体（『である』調）で記述されているか。 ・ 他人のレポートをコピー＆ペーストしていないか。 ・ ChatGPT等の生成AIの利活用は可ですが、利活用した際には、利活用した旨の記載や、利活用した生成AIの種類・箇所等を明記ください。（回答文字数には含まれません）			
課題に対する フィードバック の方法	テキスト課題合格時に「解答・解説」を表示			
スクーリング履修 における授業準備 （予習・復習）の 具体的な内容及び それに必要な時間	【予習】 教科書の該当する章を読み通しておくことで、内容の理解が大きく高まります。そのため、受講の際には必ず教科書を読みましょう。また、不明な点はノートに何がわからないのかをメモしておくことも大切です。（1コマにつき2時間程度） 【復習】 復習については、講義スライドを参照しながら、教科書をもう一度読みなおすことで、さらに理解が深まります。スクーリング履修を行ったらすぐに、教科書の講義内容の章を読み直してください。予習でわからなかった点が解決出来るたか、確認をしましょう。不明な点など、知らない用語やわからない内容はまずご自身で調べ、UHASを利用して積極的に質問を行ってください。理解を深めていきましょう。（1コマにつき2時間程度）			
スクーリング履修 での講義内容	授業計画			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員
	1	イントロダクション、砂糖と健康 （テキスト第1章、以下テキストの章を示す）	健康と半健康・半病気の意味を捉え、予防栄養学を学ぶ目的を考える。また、砂糖が健康に与える影響について学ぶ。 2型糖尿病／フルクトース／異性化糖／人工甘味料	矢島
	2	食物繊維と健康、不飽和脂肪酸と健康 （第2章、第3章）	食品中の食物繊維の栄養素としての役割と、必須脂肪酸、特にn-3脂肪酸の栄養学的意義について学ぶ。 腸内細菌／プレバイオティクス／n-3不飽和脂肪酸／酸化LDL	矢島
	3	抗酸化ビタミンと健康 （第4章）	抗酸化ビタミンとは何か、過酸化脂質や活性酸素がどのようなものか、体内での抗酸化ビタミンの働きについて学ぶ。 活性酸素／抗酸化作用／ビタミンC,E	矢島
	4	プリン化合物と健康、鉄と健康 （第5章、第6章）	食品中の尿酸と鉄は生体にどのように作用するのか、高尿酸血症および貧血の予防と食生活について学ぶ。 痛風／プリン体／血中尿酸値／貯蔵鉄／フィチン酸／貧血	矢島

	5	食塩、カルシウムと健康 (第7章、第8章)	高血圧症について適切な食塩の摂取と血圧の関わりと、カルシウムの摂取と骨粗鬆症の関わりについて学ぶ。 高血圧／加工食品／ナトリウム・カリウムイオン／骨粗鬆症／骨リモデリング	矢島
	6	肥満と健康 (第9章)	なぜ肥満がいけないのかを考える。肥満の原因として肥満発生の5つのパターンを学ぶ。 メタボリックシンドローム／レプチン／インスリン抵抗性／発熱機構	矢島
	7	タンパク質と健康 (第10章)	良質のタンパク質とはどのようなものか、また筋肉として蓄えるにはどのようなことを留意するか、摂取する食品のタンパク質について学ぶ。 窒素平衡／サルコペニア／分枝鎖アミノ酸／グリコーゲン・ローディング	矢島
	8	食生活と健康 (第11章、第12章、第13章)	日本人にとってどのような食生活が良いのか、がん予防、高齢者、現代人をキーワードに模索する。 EBM／発がん性物質／生活習慣／フレイル／動脈硬化症／外食／和食／食育	矢島
授業評価アンケートに基づく改善点		科目の充実をさらに進めるために、今後インターネット授業のアップデートを予定しています。		
方略		テキスト履修、スクーリング履修ともにテキストをベースに行います。ポイントや用語をテキストを読み進めながら把握していきましょう。不明点はまず一度調べてみながら、教員に質問をして理解を進めてください。		
連絡事項		食品中の栄養素がもたらすヒトとしてのいのちの作用については、「栄養といのちの営み」で行います。本科目である「栄養と心身の健康」では、もう少し広い視野で日常生活を含めた生活習慣病などに関わる栄養の視点から、社会的・医学的な現象を追及します。「栄養といのちの営み」を履修することも、よりこの科目も理解しやすくします。		

科目名	教育と神経生理学（S）				B
	サブタイトル	教育ための基礎的医学知識とは			
実務経験のある教員による授業科目					
対象学科	人間科学部 心身健康科学科				
担当教員	西郷建彦				
担当教員の 実務経験	特別支援学校において、自立活動教諭や担任などの活動実績がある。また、地域の学習会や教員向けのセミナーなどで、講義や実技指導を行っている。これらに関する特別支援学校教諭及び養護・訓練の教員免許を有している。				
オフィスアワー	非常勤講師のため、UHAS@Myキャンパスでの質問箱で随時配布資料や課題についての質問を受け付けます。				
配当年次	1-4	選択	単位数	インターネット履修：1単位	
授業形態	演習				
アクティブラーニング	有				
授業方法	オンライン授業				
資格等 関連科目	自立活動教諭				
科目コード	B256S				
科目区分	いのちと健康のしくみ				
使用教材	教科書	各自が持っている乳児の反射・反応に関する教科書及び配布する資料。			
	参考書等	・発達からみた脳性運動障害の治療』、中島雅之輔（著）、「新興出版社」、1996年 ・『カンデル神経科学』 宮下保司（日本語版監修）、Eric R. Kandel・John D. Koester・Sarah H. Mack・Steven A. Siegelbaum 他、「メディカル・サイエンス・インターナショナル」、2022年、第2版			
授業概要 (目的・ねらい)	このクラスでは、神経科学的な見方から、中枢神経系障害について考え、障害児の理解を図る。ここでは、神経科学の基礎としての姿勢反射・反応について学び、障害がどのように生まれるかを考えてみたい。さらに、それらの知識をもとに、成長・発達につながる臨床に応用できることを検討する。 本科目では、神経発達の意義を理解し、各段階の特徴をつかむ。原始反射としての1）静的姿勢反射・反応である伸張反射、局在性静的反応（陽性支持反など）、体節性静的反応（交叉性静的反応など）、汎在性静的反応（緊張性頸反射、緊張性迷路反射）、高次の反応としての2）立ち直り反応（頭部に作用する迷路性立ち直り反応など）、3）平衡運動反射・反応（パラシュート反応など）を学び、臨床上で障害児で起きている緊張（tonus）について理解する。それらの異常緊張による関節拘縮や変形などについても触れる。さらに反射・反応の制御や統合中枢の問題から中枢神経系障害についての理解を深める。また、これらの知識が臨床上でどのように活かせるかの参考例を提示し、検討を試みる。さらに、神経科学的な基盤を共通としながらも教育と医療のアプローチについての違いを明確にしていく。				
キーワード	反射・反応／痙性／神経発達／神経科学的アプローチ／教育における神経科学				
テキストの内容 及びアドバイス	配布資料は、神経生理学の基礎として、反射・反応の発達（統合過程）について、運動発達と関連しながらまとめたものである。子どもの障害の状態を神経生理学的に説明することを試み、運動発達課題も見出すことによって、より理解を深められるはずである。				
一般目標 (GIO)	神経生理学の基礎的な知見を踏まえて、現象としての障害の状態を理解し、心身相関の立場から臨床的に応用できるようにする。				
行動目標 到達目標 (SBOs)	①主な反射・反応と起因となる刺激ついて類別できる。 ②主な反射・反応を神経発達の順序で列挙できる。 ③中枢性疾患の障害の状態を神経科学の立場から説明できる。 ④中枢性疾患の障害に対して、神経科学的な知識を臨床指導に応用できる。 ⑤中枢性疾患の障害に対して、神経科学的な知識を指導上の配慮事項として活用できる。 ⑥神経発達の立場から、運動発達を概説できる。 ⑦神経発達の立場から、運動発達課題を見つけることができる。 ⑧教育と医療のアプローチの違いを対比できる。				
卒業認定・学位授与 の方針と本科目の 関連					

ディプロマポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学ぼうとする意欲、豊かな人間性 ■ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育 ■ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。
	学科	心身健康科学科に関連する項目 2. 専門的知識を自身や社会・職業上の問題関心と有機的に関連付けて問題を解決する能力を身につけていること 4. 現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に寄与できる能力を身につけていること
カリキュラムポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学科	心身健康科学科に関連する項目
評価方法・基準		評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 ディスカッションにおける発言（20%）と講義中の実技等や実施するレポート(80%)の総合評価とする。総合評価で60点以上を合格とする。 生成AIの利活用可。
課題に対するフィードバックの方法		講義に対する質問や実技の際に、教員が受講者の課題に対する理解度を確認しコメントを伝える。
スクーリング履修における授業準備（予習・復習）の		【予習】 反射・反応に関する教科書及び配布資料を必ず読み、反射・反応と起因となる刺激を整理する。不明な専門用語を医学辞典等を利用して調べる。（1コマにつき2時間程度） 【復習】

具体的な内容及びそれに必要な時間	子どもの障害の状態を、反射・反応から説明することを試みる。また、自分の身体を使って反射・反応による姿勢・運動を表現してみる。（1コマにつき2時間程度）			
スクーリング履修での講義内容	授業計画			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員
	1時限	緊張とは？	伸張反射、相反神経支配について学ぶ。 また、痙性と何かにふれ、それぞれの反射・反応を体験する。 伸張反射／痙性／相反性神経支配／陽性支持反応／交叉性伸展反射	西郷建彦
	2時限	陽（陰）性支持、交叉性伸展反射	陽性（陰性）支持反応、交叉性伸展反射について学ぶ。関節拘縮などにもふれ、それぞれの反射・反応を体験する。 陽性支持反射／陰性支持反射／交叉性伸展反射／関節拘縮	西郷建彦
	3時限	緊張性（頸・迷路）反射	緊張性頸反射、緊張性迷路反射について学ぶ。また、それらの反射を体験する。 対称性緊張性頸反射／非対称性緊張性頸反射性迷路反射／耳石器官／半規管	西郷建彦
	4時限	立ち直り反応	視覚性、迷路性、頸性立ち直り反応について学ぶ。またそれぞれの反応を体験する。 視覚性立ち直り反応／迷路性立ち直り反応／頸性立ち直り反応	西郷建彦
	5時限	立ち直りの連鎖反応	頸性、迷路性の立ち直りに連鎖する反応を学ぶ。また、それぞれの反応を体験する。 頸性立ち直り反応に続く連鎖反応／迷路性立ち直り反応に続く連鎖反応／立ち直り反応の統合中枢	西郷建彦
	6時限	角加速度に対する平衡反射・反応	角加速度に対する半規管反射について学ぶ。また、それぞれの反射を体験する。 半規管／眼球振盪／頸部振盪／モロー反応	西郷建彦
	7時限	直線加速度に対する平衡反射昇降反応／パラシュート反応／立位反応／跳び直り反応	直線加速度に対する半規管反射・反応について学ぶ。また、それぞれの反応を体験する。 昇降反応／パラシュート反応／立位反応／跳び直り反応	西郷建彦
	8時限	神経生理学的知識は教育や介護に必要か。	心身相関の観点からの教育アプローチとして「新しいうんどう」を紹介し、神経科学的な観点からの配慮などの実際について学ぶ。 教育的アプローチ／神経科学的な見方の必要性からの配慮	西郷建彦
授業評価アンケートに基づく改善点	より詳しい内容の資料も検討したいと思います。また今後とも、受講生の皆様のご要望、ご意見等を踏まえて改善してまいります。授業評価アンケートについてのご協力、何卒宜しくお願い致します。			
方略	テキストの中で重要となる概念や知識を学び、自分の身体を使った体験を通して理解する。臨床現場での子どもたちの障害の状態を反射・反応から説明する試みを行うことによって、より理解を深めるようにする。理解しにくい箇所については、質疑応答を丁寧に行い、ディスカッションを交えて解決していくようにする。			
連絡事項	神経生理学の基礎を学ぶと同時に、臨床上の子どもたちへの理解につなげ、安全で無理のない教育としてのアプローチができるようになることを期待したい。その他、自分の体で、積極的に反射・反応の体験をしていただきたい。			

科目名	文明の成り立ち(T)／文明の成り立ち(N)			
サブタイトル				
対象学科	人間科学部 心身健康科学科			
担当教員	中山和久（科目責任者）・吉田浩子			
担当教員の 実務経験				
オフィスアワー	中山和久：水・金・土曜日 10:30～16:30 蓮田キャンパス 予約はUHAS@Myキャンパスより申し込みください。 吉田浩子：火曜日 9時～16時 オンライン、電話、対面のいずれかの方法でお受けします。事前予約が必要。予約は先着順です。UHASの「質問する」からご連絡ください。			
配当年次	1-4	選択	単位数	テキスト履修：2単位 / インターネット 授業履修：2単位
授業形態	講義			
アクティブラーニング				
授業方法	メディア授業 印刷授業			
資格等 関連科目				
科目コード	B301T / B302N			
科目区分	環境・社会と人間			
テキストの変更 ・改訂	2022年度からの変更・改訂： なし			
使用教材	教科書	『文明科学概論』、青木清、菊地京子、ひろさちや、大東俊一、加藤尚武、人間総合科学大学オリジナル		
授業概要 (目的・ねらい)	本学では、人間の理解を、「こころ」「からだ」「文化」の領域から学際的、総合的に追求していくことを目標にしているが、その「文化」の領域の核をなすのがこの「文明科学概論」である。 21世紀に入って、時代は急激な変化を見せ、科学・社会・人間すべてに質的な転換が求められている。そのため、人間とは何かを問う時に、身体面、精神面とともに文化面からの追求が欠かせない。特に、現代を生きる人間の「いのち」や「存在」を考える時、私たち人間のたどった文化・文明に焦点を当てることが重要であろう。そこで「文明科学概論」では、人間がこれまでに形作ってきた古代から現代までの文化・文明を見渡すとともに、ヒトが人間へと進化してきた過程や人間の心と文化の形成に欠かせない宗教について解説しながら、真の意味で人間とは何かという問いを広く考えていく。			
キーワード	比較文明 / 比較宗教 / 人間の特異性 / 現代日本 / 環境適応 / 環境との共生 / 異文化理解			
テキストの内容 及びアドバイス	第1章 文明誕生への序章ーヒトの脳と行動の進化（青木清） 20世紀の後半に発展した生命科学は、人間とは何かという問いに対して様々な材料を与えてくれた。そのひとつに、植物であっても動物であっても、生命現象は分子や細胞のレベルでみると共通の仕組みを持っていることがある。一方、人類と他の生物との共通性が理解できたとしても、総体としての人間の他の生物との違いー人間の特殊性ーは何か、という課題に対する答えはまだ出ていない。第1章では、この人間の特殊性とは何かという課題に関して、生命科学や自然人類学、行動生物学などからわかってきた人間の自然科学的理解と文化形成の生物学的基盤について考える。 1. 人間の自然科学的理解 / 2. ヒトの脳と行動の変化 / 3. 脳の容量の変化 / 4. 石器の種類 / 5. チンパンジーの道具使用 / 6. 生物進化 / 7. 人間の環境と進化 / 8. ヒトと生物との共生 / 9. ヒトの進化 / 10. ヒトの環境適応としての文化 / 11. 動物のサブ・カルチャー（ヒトの文化に似た特徴） / 12. ヒトの音声言語と他の霊長類の音声伝達の差 / 13. トリの歌と人間の言語習得 / 14. 人間と動物とのちがいが / 15. 人間と動物の感覚受容期間 / 16. 人間と動物との連続性と不連続性 第2章 文化の理解（菊地京子） 地球上に人類が誕生して今日に至るまでの歴史のなかで、異文化に属する人間同士の、あるいは社会集団間の緊張・敵対関係の大半は、相互に異なる文化への尊重が欠如していたことに起因する場合が少なくなかった。第2章では、グローバル化の進展とともに異文化間の遭遇の機会が増大する国際社会のなかで異文化をもつ者同士の共存共栄を達成するための条件として欠かすことのできない「文化の理解」について、文化人類学の観点から考察する。 1.文化とは何か／2.異文化の認識と異文化理解への対応／3.世界観の諸相／4.人間とは何か／5.現代文明社会における人間 第3章 宗教と人間ー人間に宗教は必要か（ひろさちや） 宗教を「人間らしい生き方を教えるもの」と定義し、それに基づいて、世界3 大宗教および主要な民族宗教につ			

	いて考察し、それぞれの宗教の特徴を理解する。そして、宗教と道徳・倫理という似て非なるものについて、それぞれのあり方と違いを学ぶとともに、宗教と科学の対立について、両者の成立の歴史を通して、その理由を考える。 最後に、病気になったときにどう生きるべきかという問いについて、それぞれの宗教ではどう教えるかを考察しながら、宗教という生き方の指針をもたない現代日本の社会のあり方に警鐘を鳴らす。 1. 宗教とは何か？／ 2. 宗教と道徳・倫理／ 3. 宗教と科学・医学／ 4. 現代日本人と宗教／参考：世界宗教の基礎知識（キリスト教、イスラム教、仏教、ヒンドゥー教、儒教、神道） 第4章 現代文明の諸問題—技術文明の高度化（加藤尚武） 20世紀の後半には世界の文化史のなかでも最大といえるような変化が起こった。第1に遺伝子への操作が可能になり、人工の生物も作られるようになった。第2に、自然全体が歴史性という特徴をもち、自然は同一の構造の永遠の反復であるという見方ができなくなった。第3に、原子力の開発、地球の温暖化、臓器移植、遺伝子操作など自然の根底にある同一性を破壊する人工的な営為が始まっている。第4に、個人が大量の情報を操作できるようになったが、情報の質を高める自動的な調整装置は存在しないので、大量の粗悪情報が氾濫している。この時代をどのように生きたらいいのかを考える。 1. 20～21世紀の技術文明／ 2. 原子力エネルギーの開発／ 3. 情報工学の展開／ 4. 生命を操作する技術／ 5. 地球の温暖化／6. 資源の大量消費 （アドバイス）ヒトの進化から始まり、現代文明に至るまでの人間の文化の発展という視点を持ちながら、各章の内容を理解していったほしい。	
一般目標 (GIO)	人間を文化・社会の側面から理解するために、人間の特殊性、世界各地の文明や宗教、現代文明の特性等を学ぶ。	
行動目標 到達目標 (SBOs)	1. 世界には、多様な文化、文明のあることを歴史的、実証的に説明できる。 2. 時代による文化や生活の変化について、具体的な説明ができる。 3. 時代とともに変化する社会や文化に対して、変わらない価値や考え、存在のあることについて説明できる。 4. ヒトと他の生物との共通性と、人間の特殊性について説明できる。 5. 人間に特有な文化の形成と、ヒトの進化との関連について説明できる。 6. 世界の宗教とその特徴について説明できる。 7. 自然と倫理学や科学技術との関連性について説明できる。	
卒業認定・学位授与の方針と本科目の関連	人間を文化・文明の側面から理解する能力を育成する。 人間の文化・文明・社会・環境に関する知識を向上させ、多様な問題に対して分析・解決できる能力を育成する。 人類の健康と幸福のために知識を役立てることで、他者と「共生」する能力を育成する。	
ディプロマポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学習意欲、豊かな人間性 ■ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育 ■ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。
	学科	心身健康科学学科に関連する項目 1. 人間と社会の諸側面について、「こころ」「からだ」「環境・社会」のそれぞれの領域に関する専門知識を持っていること
カリキュラムポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う

		5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る		
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る		
	学科	心身健康科学科に関連する項目		
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 【テキスト履修】 評価は「科目修了試験」（100%）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。ただし、「テキスト課題」に合格（60点以上）した者が、「科目修了試験」を受験できる。 【インターネット履修】 評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 評価は「最終レポート」（100%）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。 ただし、各時限の「確認学修」を行い、全ての時限で合格（60点以上）した者が、「最終レポート」を受験できる。 最終レポート内の「記述問題」については、以下の項目に従って評価する。 ・ 指定文字数に従っているか。過不足がないか。 ・ 誤字、脱字がないか。 ・ 出題内容の問い、趣旨に答えているか。 ・ 文章が論理的か ・ 専門用語を適切、正確に使用しているか。 ・ 常体（『である』調）で記述されているか。 ・ 他人のレポートをコピー＆ペーストしていないか。 なお、生成AIの利用は自由であるが、教科書に沿っていない内容は評価の対象とはならないので注意すること。			
課題に対する フィードバック の方法	テキスト課題合格時に「解答・解説」を表示			
スクーリング履修 における授業準備 （予習・復習）の 具体的な内容及び それに必要な時間	【予習】 シラバスとテキストの該当箇所を読み、概要を把握し、キーワードの意味を理解しておくこと。 理解が難しい語句については辞書や事典で調べ、授業時に確認できるよう、意味内容をノートに記載しておくこと。 1コマにつき2時間程度。 この文明科学概論は、テキストの目次をみるとわかるように、非常に幅広い視点から多岐にわたる要素によって構成されている。予習においては、まずは興味ある文言を含む節や章を読むことをお勧めしたい。 【復習】 授業内容を思い出しながら授業中に取ったノートを加筆修正し、テキストの要約などを追記すること。 理解が難しいところは辞書や事典で調べ、必要であれば担当教員に質問すること。 1コマにつき2時間程度。 「文化」の領域の学修は復習にこそあると言っても過言ではない。受講して興味関心を覚えた事項については事典や辞典の類で自ら調べ直していただくことをお勧めしたい。また参考文献についても、すべてを読むことは必要ないが、興味に従って文献を選び目を通すことは、現代社会に生きる人間の理解に役立つはずである。			
スクーリング履修 での講義内容	授業計画			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員
	【N】 1-4時限	人間の進化と文化について神経行動学や自然人類学、行動生態学の面から考えていく。 人間の社会の最小単位は家族であり、その	・ 人間の自然科学的理解 ・ 脳の進化 ・ ヒトの進化 ・ 道具の使用	青木清

		家族が生息地の環境にあった社会を作り、そこに文化が形成される。このような視点に立ち、人間の進化と文化の形成について見ていきたい。まず「生命の進化からみたヒト」とは何かということを考える。人間は生物の進化として一番新しく出現した動物の一種である。さらに地球上に生存するあらゆる生物のヒトの生命の連続性とヒトの生物学的な身体と脳の特徴を理解する。次に「ヒトの身体的特徴と脳の発達」という点から、ヒトの脳の問題を中心に考えていく。特に大脳の発達は創造・意欲・知識だけでなく複雑な言語を話すようになり、個体間のコミュニケーションが充実するところとなり、知能を増すとともに文化を持つようになった点を解説する。そこで「ヒトの文化」について言及する。ヒトの身体と脳の機能の発達からもたらされたヒト特有の文化とは何かについて考える。そしてヒトの理解にとって重要な「人間の自然科学的な理解」ということを考えたい。 科学は、20世紀に大きく飛躍して物質から生命そして精神へと発展している。最後に、人間の特徴である精神について理解するために脳科学、行動生物学、社会科学、文化人類学などの面から得られた知識の統合が重要となることについて触れる。	・生物進化 ・環境と進化 ・生物との共生 ・動物のサブ・カルチャー ・音声言語と音声伝達 ・人間の言語習得 ・人間の特異性 ・感覚受容期間 ・動物との連続性と不連続性	
	【N】 5-7時限	第Ⅱ章 文化の理解 まず、文化とは何かについて考える。文化についての定義と文化の類型を学ぶ。さらに文化と文明、文明科学についての関係も明らかにしよう。 次に異文化の認識と異文化への対応について考える。文化は生産様式別に分類されるが、それぞれの特徴を押さえる。そして文化の違いによって偏見や差別が生み出された経緯を歴史的に解明し、それらを解消するための方法や考え方を探る。そのために自民族中心主義と文化相対主義という2つの文化の見方を押さえる。そして異文化への対応には、それぞれの文化の違いを楽しむ、歩み寄りが必要であることを学ぶ。 また、異文化理解のカギを握る世界観には言語の研究が欠かせない。さらに世界観を体現した儀礼についても触れたい。次に人間とは何かを考えると、個人としての人間、家族・親族のなかの人間という観点から解明する。 最後に現代文明社会における人間を考察し、異文化間の相互理解と異文化の共存共栄の重要性を確認する。	・技術の文化、社会の文化、価値の文化 ・文化、文明、文明科学 ・採集狩猟文化、遊牧文化、農耕文化、産業の文化 ・自民族中心主義、文化相対主義 ・構造主義 ・言語学 ・儀式、儀礼 ・ジェンダー ・定位家族、生殖家族 ・核家族、直系家族、合同家族、複婚家族 ・単系親族組織、非単系親族組織 ・グローバリゼーション ・パワーポリティックス	中山和久
	【N】 8-11時限	第Ⅲ章 宗教と人間	宗教、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、仏教、神道	中山和久
	【N】 12-14時限	第Ⅳ章 現代文明の諸問題	技術文明、原子力エネルギー、情報社会、生命操作、地球温暖化、持続可能性	中山和久
	【N】 15時限	まとめ	文明科学概論、人間らしさ、文化、社会、宗教、メディアリテラシー	中山和久
授業評価アンケートに基づく改善点	インターネットスクーリングの音声について聞き取りにくいとの声がありましたので、順次撮り直しを進める予定です。			
方略	インターネット授業履修と並行してテキスト履修を進めると学修を進めやすい。			
連絡事項				

科目名	異文化の理解(T)／異文化の理解(N)			
サブタイトル				
対象学科	人間科学部 心身健康科学科			
担当教員	中山和久			
担当教員の 実務経験				
オフィスアワー	科目責任教員、担当教員のオフィスアワーに従います(U-HAS@Myキャンパスに提示されています)。 中山和久：水・金・土曜日 10:30～16:30 蓮田キャンパス 予約はUHAS@Myキャンパスより申し込みください。			
配当年次	1-4	選択	単位数	テキスト履修：2単位 / インターネット 授業履修：2単位
授業形態	講義			
アクティブラーニング				
授業方法	メディア授業 印刷授業			
資格等 関連科目	【B303T】 【B304N】 心身健康アドバイザー 【B303T】 本学入学資格取得科目（大学入学資格を持たない方）			
科目コード	B303T / B304N			
科目区分	環境・社会と人間			
テキストの変更 ・改訂	2021年度からの変更・改訂： なし			
使用教材	教科書	『比較でとらえる世界の諸相』、山田孝子・小西賢吾編、英明企画編集		
授業概要 (目的・ねらい)	文化を比較することは、自らの文化をよりよく理解するきっかけとなる。本講では、比較文化に関する理論的側面や実際の場面を考察することから始めて、西欧文化とはかなり異質な側面を持つ日本文化に関する理解を深めることが目標である。			
キーワード	異文化理解 / 比較文化学 / グローバル時代 / 文化人類学 / フィールドワーク			
テキストの内容 及びアドバイス	テキスト（教科書）は大きく以下の3つの部分から成っています。 ①比較文化学の魅力と可能性について考える 比較文化学とは何か——その学問的性格と魅力、豊かな可能性 人類学調査の遍歴から考える比較文化学の可能性 「道しるべ」としての比較文化学——複数の文化を生きつづけるために ②グローバル時代における比較文化学の方法論について考える グローバル時代における比較文化学の方法論——飛び込む、考える、問い直す 文化人類学的手法を用いた比較文化学——他文化に学び自文化を見つめ直す営み 匂いの比較文化学的アプローチ 日英語の比較入門——認知の違いはどこからくるか ③21世紀に地方から世界を問うあるいは世界から地方を問うまなざしを体得する意義について考える 21世紀に金沢で比較文化学を学ぶ意味と意義——地方から世界を、世界から地方を問う姿勢を体得する 京・江戸・金沢——比較文化史の視点で解き明かす「加賀百万石」 ①では、比較文化の基礎を学修します。 ②では、国境を越えた交流が一般的となった時代にふさわしい、新しい比較文化の方法を学修します。 ③では、地球規模の（Global）視野で考え、地域の（Local）視点で行動する（Think globally, act locally）という、グローカル（Glocal）な人材には何が必要なのかを学修します。 興味のあるところから読むのでも構わないのですが、ページの順に読む方が理解は深まります。そのため、テキスト課題もテキストの順で作成しています。 大学での学修ですので、テキストに出てくる用語や主張を暗記することにはほとんど意味がありません。教科書の内容をふまえた上で、自分はどのように考えるのか、どのように行動すべきなのかなどについて思考することで、自分や他人の生活を豊かにすることに意味があります。より良く生きるための知恵を獲得するのが大学生としての学修です（高校生までの勉強は「学習」です）。 スクーリングはテキストの内容を補足する形で講義を進めます。ひとりで学修するだけだと、どうしてもテキ			

	ストの理解の幅が狭くなってしまいます。三人寄れば文殊の智慧と言われるように、できれば会場スクーリングなどで3人以上で学修するのが望ましいのですが、せめてインターネットスクーリングで教員と一緒にテキストを学修することで理解の幅を広げてください。 以上のような構成ですので、まずは自分ひとりでテキストを読んではテキスト課題に解答し、それを終えてからインターネットスクーリングを受講するのが最も効果的な学修方法となります。	
一般目標 (GIO)	1. 文化を比較する目的・意義・可能性を説明できる。 2. 文化を比較する方法を説明できる。 3. 文化と文明を共存させる方策を説明できる。	
行動目標 到達目標 (SBOs)	1. 文化を比較する目的について説明できる。 2. それぞれの文化を成立させている要素について説明できる。 3. 比較文化学の方法について説明できる。 4. 異文化を学ぶ意義を説明できる。 5. 異文化を学問的に比較する方法を説明できる。 6. 言葉を比較対照する意義を説明できる。 7. 文化と文明の共存について説明できる。 8. 多様な文化を知るメリットを説明できる。 9. 文化の歴史的背景を分析する方法を説明できる。 10. 地域文化の見方について説明できる。	
卒業認定・学位授与 の方針と本科目の 関連	文化の側面から幅広く人間を理解する能力を育成する。 自ら学びを深める自己教育力を育成する。 心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に資する知識と洞察力を獲得する。	
ディプロマポリシー との関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学ぼうとする意欲、豊かな人間性 ■ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育 ■ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。
	学科	心身健康科学科に関連する項目 4. 現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に寄与できる能力を身につけていること
カリキュラムポリシー との関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る

		2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る		
	学科	心身健康科学科に関連する項目		
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 【テキスト履修】 評価は「科目修了試験」（100％）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。ただし、「テキスト課題」に合格（60点以上）した者が、「科目修了試験」を受験できる。 【インターネット履修】 評価は「最終レポート」（100％）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。 ただし、各時限の「確認学修」を行い、全ての時限で合格（60点以上）した者が、「最終レポート」を受験できる。 【記述の評価基準】 ①出題とは直接関係の無い文章が全体の4割未満か。 ②日本語が正確に書かれているか。誤字脱字が無いか。 ③客観的な事実の記載が含まれているか。 ④自身の考察が含まれているか。 ⑤他人が作成した文言が全体の6割未満で、出典が明記されているか。 なお、生成AIの利用は自由であるが、教科書に沿っていない内容は評価の対象とはならないので注意すること。			
課題に対する フィードバック の方法	T：テキスト課題合格時に「解答・解説」を表示 N：提出された課題について、必要時、個別にフィードバックを行う			
スクーリング履修 における授業準備 （予習・復習）の 具体的な内容及び それに必要な時間	【予習】 事前にテキストを通読するとともに、興味関心を抱いた文言については、事典や辞典の類で自分なりに調べておくこと。（1コマにつき2時間程度） 【復習】 スクーリング受講後はノートを清書し、テキストや参考文献の必要箇所を再読し、理解を確認しておくことよい。（1コマにつき2時間程度）			
スクーリング履修 での講義内容	授業計画			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員
	1時限	比較文化論への案内	文化、比較、異文化理解、他者、共生、共存	中山和久 （以下、同じ）
	2時限	比較文化学とは何か：その学問的性格と魅力、豊かな可能性（前半）	比較文化学、文明、文化人類学、言語、ピジン	
	3時限	比較文化学とは何か：その学問的性格と魅力、豊かな可能性（後半）	相互理解、文化復興運動、民族、多様性、画一化	
	4時限	人類学調査の遍歴から考える比較文化学の可能性（前半）	自然環境、社会環境、アニミズム、エスノ・サイエンス	
	5時限	人類学調査の遍歴から考える比較文化学の可能性（後半）	食料、言語、世界観、認識、アイヌ、人間	
	6時限	『道しるべ』としての比較文化学：複数の文化を生きつづけるために	カルチャー・ショック、抵抗感、価値判断、文化の三角測量	
	7時限	グローバル時代における比較文化学の方法論：飛び込む、考える、問い直す（上）	比較文化学の方法、モノ、宝贝、KJ法	
	8時限	グローバル時代における比較文化学の方法論：飛び込む、考える、問い直す（中）	国家、グローバル企業、対話、他者への想像力	
	9時限	グローバル時代における比較文化学の方法論：飛び込む、考える、問い直す（下）	権力、リスク、適応力、具体的・多角的な視点	
	10時限	文化人類学的手法を用いた比較文化学：他文化に学び自文化を見つめ直す営み	アルミニウム、他者理解、問題解決	
	11時限	匂いの比較文化学的アプローチ	インド、ギー、コース、植物、記憶	

	12時限	日英語の比較入門：認知の違いはどこからくるか	動詞中止構文、名詞中心構文、言葉の比較対照	
	13時限	21世紀に金沢で比較文化学を学ぶ意味と意義：地方から世界を、世界から地方を問う姿勢を体得する（前半）	渋沢敬三、中庸、自己批判、自己肯定感	
	14時限	21世紀に金沢で比較文化学を学ぶ意味と意義：地方から世界を、世界から地方を問う姿勢を体得する（後半）	福井県、幸福度、ストーリー効果、リスク適応力	
	15時限	京・江戸・金沢：比較文化史の視点で解き明かす『加賀百万石』	客観的事実、言説、小京都、小江戸、金沢城	
授業評価アンケートに基づく改善点	シラバスによる理解が今一つだったとの声がありましたので、シラバスの文言をわかりやすい表現に変更しました。			
方略	教科書の中で重要となる概念や知識をテキスト課題の学修やVOD視聴を通して理解する。理解しにくい箇所やわからない箇所については担当教員に質問をして解消する			
連絡事項				

科目名	日本仏教(T)／日本仏教(N)			
サブタイトル				
対象学科	人間科学部 心身健康科学科			
担当教員	中山和久			
担当教員の 実務経験				
オフィスアワー	科目責任教員、担当教員のオフィスアワーに従います(U-HAS@Myキャンパスに提示されています)。 中山和久：水・金・土曜日 10:30～16:30 蓮田キャンパス 予約はUHAS@Myキャンパスより申し込みください。			
配当年次	1-4	選択	単位数	テキスト履修：2単位 / インターネット 授業履修：1単位
授業形態	講義			
アクティブラーニング				
授業方法	メディア授業 印刷授業			
資格等 関連科目	【B306T】本学入学資格取得科目（大学入学資格を持たない方）			
科目コード	B306T / B307N			
科目区分	環境・社会と人間			
テキストの変更 ・改訂	2021年度からの変更・改訂： なし			
使用教材	教科書	『日本の仏教』、渡辺照宏、「岩波書店（岩波新書）」1958		
授業概要 (目的・ねらい)	日本人の文化と社会を大きく規定してきた仏教について、日本への伝来から現代に至るまでの様々な展開について学ぶことで、今後わたしたち日本人は仏教をどのように活用したらよいのかを、各々の現場で具体的に考えられるようにする。			
キーワード	戒律 / 日本仏教史 / 形式主義 / 宗派 / 民衆仏教			
テキストの内容 及びアドバイス	I 日本の仏教を築いた人々 仏教は外来思想 仏教の受けいれ方 真実を求めて 無我の極致 慈悲と寛容 民衆とともに 四つの類型 II 日本仏教の実態 スクーリング履修（インターネット授業） 仏教と国家思想 呪術祈祷 死者儀礼 対立と妥協 形式主義 テキストの「Ⅲ さまざまな流れ」の内容に沿って、日本仏教の六大潮流のそれぞれについて形成から説き起こし、それらの特質を検討していきます。「無宗教」を唱える現代人でも、日常生活のいたるところで仏教の影響を受けていることは少なくありません。日本仏教の各宗派の様々な動向を見ることで、その背後にある大枠としての日本人の仏教観を理解します。 日本人にとって仏教はどのようなものであったのかを理解することで、これから私たちはどのように仏教を活用していったらよいのかを考えます。			
一般目標 (GIO)	日本人の宗教観を理解するために、日本人に広く受け入れられている宗教である日本仏教について学び、自己省察と他者対応について改善をはかる。			
行動目標 到達目標 (SBOs)	【テキスト履修】 1. 仏教が外来の宗教であることを説明できる。 2. 真実の仏教（無我・慈悲など）について説明できる。 3. 民衆仏教の具体相を例示して説明できる。 4. 檀家制度と仏教の関係について説明できる。 【スクーリング履修】 1. 「宗派」について説明できる。 2. 律宗・禅宗・密教の異同について説明できる。 3. 法華信仰と阿弥陀信仰の異同について説明できる。			
卒業認定・学位授与 の方針と本科目の 関連	自ら学びを深める自己教育力を育成する。 心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に資する知識と洞察力を獲得する。 文化の側面から幅広く人間を理解する能力を育成する。			

ディプロマポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学ぼうとする意欲、豊かな人間性 ■ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育 ■ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。
	学科	心身健康科学科に関連する項目 1. 人間と社会の諸側面について、「こころ」「からだ」「環境・社会」のそれぞれの領域に関する専門知識を持っていること
カリキュラムポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学科	心身健康科学科に関連する項目
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 【テキスト履修】テキストの学習の確認として、テキスト課題を出題する。それに合格（60点以上）した者は、科目修了試験を受験できる。科目修了試験にて60点以上を合格とする。 【インターネット履修】各時限の確認テストと科目修了試験の総合評価で、60点以上を合格とする。 【記述の評価基準】 ①出題とは直接関係の無い文章が全体の4割未満か。 ②日本語が正確に書かれているか。誤字脱字が無い。 ③客観的な事実の記載が含まれているか。 ④自身の考察が含まれているか。 ⑤他人が作成した文言が全体の6割未満で、出典が明記されているか。 なお、生成AIの利用は自由であるが、教科書に沿っていない内容は評価の対象とはならないので注意すること。	
課題に対するフィードバックの方法	テキスト課題合格時に「解答・解説」を表示	

スクーリング履修における授業準備（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間	【予習】 シラバスとテキストの該当箇所を読み、概要を把握し、キーワードの意味を理解しておくこと。 理解が難しい語句については辞書や事典で調べ、授業時に確認できるよう、意味内容をノートに記載しておくこと。 1コマにつき2時間程度。 【復習】 授業内容を思い出しながら授業中に取ったノートを加筆修正し、テキストの要約などを追記すること。 理解が難しいところは辞書や事典で調べ、必要であれば担当教員に質問すること。 1コマにつき2時間程度。			
スクーリング履修での講義内容	授業計画			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員
	1時限	仏教の系譜	仏道、仏法、仏陀、釈尊、四諦、八正道	
	2時限	宗派の成立	小乗仏教、大乘仏教、天台宗、真言宗、僧兵、一向一揆、宗派組織	
	3時限	律の系譜	戒律、鑑真、戒壇院、諸悪莫作・衆善奉行	
	4時限	禅の系譜	ヨーガ（ヨガ）、禅定、三昧、ダルマ（達磨・達摩）、栄西、道元、隠元、白隠	
	5時限	密教の系譜	マンダラ、真言（マントラ）、ヴェーダ、ホーマ（護摩）、空海、最澄、円仁、円珍	
	6時限	華厳思想	善財童子、文殊菩薩、普賢菩薩、東大寺、東大寺大仏	
	7時限	法華信仰	法華経（妙法蓮華経）、日蓮、霊友会、立正佼成会、創価学会、日本山妙法寺	
	8時限	アミダ信仰	浄土教、極楽、阿弥陀如来、源信、法然、親鸞、一遍	
授業評価アンケートに基づく改善点	テキスト課題の内容について適切さを3とした人がいましたので、改善する予定です。			
方略	教科書の中で重要となる概念や知識をテキスト課題の学修やVOD視聴を通して理解する。理解しにくい箇所やわからない箇所については担当教員に質問をして解消する。			
連絡事項				

科目名	チームワーク論（T）／チームワーク論（N）				B
サブタイトル					
対象学科	人間科学部 心身健康科学科				
担当教員	山口裕幸・矢澤順根				
担当教員の 実務経験					
オフィスアワー					
配当年次	1-4	選択	単位数	テキスト履修：2単位／スクーリング履修：2単位	
授業形態	講義				
アクティブラーニング					
授業方法	メディア授業 印刷授業				
資格等 関連科目	認定心理士【B336T】 【B337N】				
科目コード	B336T/B337N				
科目区分	環境・社会と人間				
使用教材	教科書	山口裕幸監修『そうだったんだ!!心理的安全性』、永岡出版、2023年、980円+税 メディア授業では、授業レジメ（PDF)を基に講義する。UHAS@Myキャンパスに授業レジメ（PDF）を掲示しているので、各自ダウンロードして活用すること。			
	参考書等	山岸俊男監修『徹底図解 社会心理学』、新星出版社、2011年、1600円+税			
授業概要 (目的・ねらい)	心理的安全性を軸に、効果的なチームワークのあり方について学習する。人間関係が円満で活気あふれるチームづくりを実践する力の養成を目指す。				
キーワード	チームワーク／心理的安全性／リーダーシップ／コミュニケーション／組織開発				
テキストの内容 及びアドバイス	第1章 そもそも心理的安全性とは何か？ 心理的安全性とは、単に「遠慮や恐れがない状態で言い合える組織」をつくることではなく、その先の「学習する組織」をつくることにある点を押さえること。 第2章 心理的安全性が高いチームとリーダーシップ 心理的安全性を築く上で必要なリーダーの態度・行動を理解すること。 第3章 あなたの職場の心理的安全性を高める方法 どのような対話の形が心理的安全性を高めるか、受講生自身の経験と照らし合わせながら読み進めること。 第4章 心理的安全性を高めるリーダーの行動&声かけ リーダーのどのような「声かけ」が心理的安全性を高めるのか、具体例を通して要点を押さえること。				
一般目標 (GIO)	集団という社会の中に適応してより良く生きるために、心理的安全性を基盤としたチームワークのあり方を学ぶ。				
行動目標 到達目標 (SBOs)	(N科目) 1. なぜチームの心理的安全性を高める必要があるか説明できる。 2. 集団意思決定の利点・欠点を概説できる。 3. 対話に必要な自己覚知、傾聴、アサーションを示すことができる。 4. チームワークを促進する技法の活用方法を説明できる。 5. 自身の経験と照らし合わせながら、望ましいチームワークについて自分の考えをまとめられる。				
	(T科目) 1. なぜチームの心理的安全性を高める必要があるか説明できる。 2. リーダーシップとマネジメントの違いを類別できる。 3. 組織開発の氷山モデルを概説できる。 4. 安心して話せる「対話の場」の条件を説明できる。 5. 心理的安全性の高いチームをつくるために、リーダーに求められる行動を列挙できる。				
卒業認定・学位授与 の方針と本科目の 関連	[]				
ディプロマポリシー との関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。			

		1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ▪ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学ぼうとする意欲、豊かな人間性 ▪ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育 ▪ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ▪ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。
	学科	心身健康科学科に関連する項目 1. 人間と社会の諸側面について、「こころ」「からだ」「環境・社会」のそれぞれの領域に関する専門知識を持っていること 4. 現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に寄与できる能力を身につけていること
カリキュラムポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学科	心身健康科学科に関連する項目
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 【テキスト履修】 テキストの学習の確認として、テキスト課題を出題する。それに合格（60点以上）した者は、科目修了試験を受験できる。科目修了試験にて60点以上を合格とする。 【インターネット履修】 評価は「最終レポート」（100%）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。 ただし、各時限の「確認学修」を行い、全ての時限で合格（60点以上）した者が、「最終レポート」を受験できる。 最終レポート内の「記述問題」については、以下の項目に従って評価する。 ・指定文字数に従っているか ・誤字、脱字がないか ・出題内容の問いに答えているか ・文章が論理的か ・専門用語を適切、正確に使用しているか ・常体（『である』調）で記述されているか	

	・他人のレポートをコピー＆ペーストしていないか レポート作成に際して、ChatGPT等の生成AIを利活用しても良い。その際、利活用した生成AIの種類・箇所等を明記すること。			
課題に対するフィードバックの方法	各授業直後に実施する確認問題の正答率が各授業の理解度を反映している。確認問題は、授業内で扱ったテーマから出題されるので、全て正解となるようにしっかりと授業を聴講すること。			
スクーリング履修における授業準備（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間	【予習】 教科書およびUHAS@Myキャンパスに授業レジメ（PDF）を読んでから視聴すると理解が深まる（1コマにつき2時間）。 参考書は、チームワークについてより詳細に解説している。学習内容を深め、関連するテーマを理解する上で有用である（購入は任意）。 スクーリングにおいては、教科書の内容をより発展させて、チームワークの基礎理論の理解と実生活でどう活かすかという点に主眼を置いている。E-learningの時間内に全てを網羅することは難しいので、積極的に予習に取り組むことが望ましい。 【復習】 教科書と授業レジメを用いて、学んだことを再確認する（1コマにつき2時間）。			
スクーリング履修での講義内容	授業計画			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員
	1	チームワークと心理的安全性	チームワーク、心理的安全性、学習する組織	
	2	チームワーク研究の歴史	集団心理学、科学的管理法、人間関係論	
	3	集団の中の個人	社会的促進、社会的手抜き、傍観者効果、社会的アイデンティティ、内集団びいき	
	4	集団意思決定	集団意思決定、集団極化、集団思考、悪魔の擁護者	
	5	対人認知と行動	対人認知、社会的比較理論、ステレオタイプ、偏見、差別	
	6	関わりの中での自分への気づき	自己覚知、セルフコントロール、リフレクション、リフレーミング、ストレングス	
	7	他者と向き合うための姿勢	受容、傾聴、共感、バイスティックの7原則、SOLAR	
	8	お互いについて伝え合う技法	コミュニケーション、自己開示、自己呈示、アクティブ・リスニング、アサーション	
	9	リーダーシップとコーチング	リーダーシップ、PM理論、条件即応モデル、コーチング、メンタリング	
	10	対話ができる場の作り方	対話、コンテンツ、プロセス、対話、ワークショップデザイン、PDCA	
	11	対話を促すファシリテーション	ファシリテーション、見える化、グラフィック・レコーディング、ビジュアルシンキング	
	12	葛藤・対立場面でのコミュニケーション	交渉、説得的コミュニケーション、合意形成、メディエーション、修復的対話	
	13	多職種連携とチームワーク	多職種連携、多職種連携コンピテンシー、専門職種連携教育	
	14	組織開発とチームワーク	組織開発、共有メンタルモデル、トランザクティブメモリー、組織コミットメント、自立管理型チーム	
	15	望ましいチームワーク	チームデザイン、チームビルディング、チームマネジメント、リーダーに求められる10の行動	
授業評価アンケートに基づく改善点	チームワーク論（N）について、レジメがわかりやすいという評価を頂きました。スライドの情報量が多いですが、授業動画内で「要点」を説明していますので、その部分を中心に学習を進められるとよいでしょう。			

方略	シラバスをもとに指定教科書をよく読んでから講義に臨むことで、より学習が理解できる。加えて、講義で提示された課題やキーワードを中心に、授業レジメ、参考書および関連文献・サイトを講読することで、学習をさらに深められる。
連絡事項	

科目名	障がいの実例に応じた授業プラン－肢体不自由・重度重複編（S）				B
	サブタイトル	自立活動の方程式とは			
実務経験のある教員による授業科目					
対象学科	人間科学部 心身健康科学科				
担当教員	西郷建彦				
担当教員の 実務経験	特別支援学校において、自立活動教諭や担任などの活動実績がある。また、地域の学習会や教員向けのセミナーなどで、講義や実技指導を行っている。これらに関する特別支援学校教諭及び養護・訓練の教員免許を有している。				
オフィスアワー	非常勤講師のため、UHAS@Myキャンパスでの質問箱で随時配布資料や課題についての質問を受け付けます。				
配当年次	1-4	選択	単位数	スクーリング履修：1単位	
授業形態	演習				
アクティブラーニング	有				
授業方法	オンライン授業				
資格等 関連科目					
科目コード	B338S				
科目区分	環境・社会と人間				
使用教材	教科書	・テキストは資料として準備する。			
	参考書等	・各自が持っている自立活動に関する教科書			
授業概要 (目的・ねらい)	本科目は、障害のある子どもたちの指導プログラムの作成の仕方を確認する。「基礎の指導プログラム」と3つの内容（「移動」・「操作」・「言語」）に関する「課題の指導プログラム」の作成の演習を行う。				
キーワード	「移動」／「操作」／「言語」／「基礎の指導プログラム」／「課題の指導プログラム」				
テキストの内容 及びアドバイス	テキストは、児童・生徒の参考事例が書かれている。「基礎の指導プログラム」と3つの内容（「移動」・「操作」・「言語」）から、「課題の指導プログラム」の作成できる内容となっている。 「新しいうんどう」の全体像を再度確認し、その中で、どの学習内容を選んだら良いかを意識して、それぞれの指導プログラムを作成してほしい。				
一般目標 (GIO)	自立活動の指導が自信をもって行えるために、子どもたちに応じた指導プログラムのあり方と作成の手順を学び、どんな障害のある子どもたちにも、自立活動における指導プログラムの作成ができるようにする。				
行動目標 到達目標 (SBOs)	①自立活動における「基礎の指導プログラム」の意義を説明できる。 ②自立活動における「課題の指導プログラム」の意義を説明できる。 ③自立活動における指導プログラムの作成の仕方を説明できる。 ④子どもの障害の状態にあった「移動」に関する指導プログラムを作成しようとする態度をもっている。 ⑤子どもの障害の状態にあった「操作」に関する指導プログラムを作成しようとする態度をもっている。 ⑥子どもの障害の状態にあった「言語」に関する指導プログラムを作成しようとする態度をもっている。 ⑦子どもの障害の状態にあった「移動」に関する指導プログラムを作成できる。 ⑧子どもの障害の状態にあった「操作」に関する指導プログラムを作成できる。 ⑨子どもの障害の状態にあった「言語」に関する指導プログラムを作成できる。 ⑩神経生理学的な配慮を、指導プログラムに加えることができる。				
卒業認定・学位授与 の方針と本科目の 関連					
ディプロマポリシー との関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ▪ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学習しようとする意欲、豊かな人間性 ▪ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育			

		■ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。
	学科	心身健康科学科に関連する項目 2. 専門的知識を自身や社会・職業上の問題関心と有機的に関連付けて問題を解決する能力を身につけていること 4. 現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に寄与できる能力を身につけていること
カリキュラムポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学科	心身健康科学科に関連する項目
評価方法・基準		評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 評価は「最終レポート」(100%)で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。 生成 AIの利活用は可とする。 最終レポート内の「記述問題」については、以下の項目に従って評価する。 ・ 指定文字数に従っているか。過不足がないか。 ・ 誤字、脱字がないか。 ・ 出題内容の問い、趣旨に答えているか。 ・ 文章が論理的か ・ 専門用語を適切、正確に使用しているか。 ・ 常体(『である』調)で記述されているか。 ・ 他人のレポートをコピー&ペーストしていないか。
課題に対するフィードバックの方法		講義に対する質問や「基礎・課題の個別指導プログラム」の作成及び発表の際のディスカッションにおいて、教員が受講者の課題に対する理解を確認しコメントを伝える。
スクーリング履修における授業準備（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間		【予習】 テキストを精読し、事例の児童・生徒の特徴を掴むようにする。また、不明な専門用語を医学辞典等を利用して調べる。（1コマにつき2時間程度） 【復習】 授業におけるディスカッションをもとに、再度指導プログラムを作成する。（1コマにつき2時間程度）

スクーリング履修 での講義内容	授業計画			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員
	1時限	I 指導プログラムの作成の手順	指導プログラムの作成の仕方を確認する。 新しいうんどうの全体像／「基礎の指導プログラム」／課題の指導プログラム	西郷建彦
	2時限	II 指導プログラムの参考例	指導プログラムの参考例から作成の仕方についてより理解を深める。 「基礎の指導プログラム」／「課題の指導プログラム」（「移動」・「操作」・「言語」）	西郷建彦
	3時限	III 指導プログラム作成の実際 [肢体不自由児]	参考事例（肢体不自由児）から「基礎・課題の指導プログラム」を作成する。 「基礎の指導プログラム」／「課題の指導プログラム」／「移動」／「操作」／「言語」	西郷建彦
	4時限	IV 指導プログラムの発表及び討議① [肢体不自由児]	作成した「基礎・課題の指導プログラム」の発表及び討議を行う。 「基礎の指導プログラム」／「課題の指導プログラム」／反射・反応／姿勢／環境／連携	西郷建彦
	5時限	IV 指導プログラムの発表及び討議② [肢体不自由児]	作成した「基礎・課題の指導プログラム」の発表及び討議を行う。 「基礎の指導プログラム」／「課題の指導プログラム」反射・反応／姿勢／環境／連携	西郷建彦
	6時限	V 指導プログラム作成の実際 [重度重複障害児]	参考事例（重度重複障害児）から「基礎・課題の指導プログラム」を作成する。 「基礎の指導プログラム」／「課題の指導プログラム」／「移動」／「操作」／「言語」	西郷建彦
	7時限	VI 指導プログラムの発表及び討議① [重度重複障害児]	作成した「基礎・課題の指導プログラム」の発表及び討議を行う。 「基礎の指導プログラム」／「課題の指導プログラム」／反射・反応／姿勢／環境／連携	西郷建彦
	8時限	VI 指導プログラムの発表及び討議② [重度重複障害児]	作成した「基礎・課題の指導プログラム」の発表及び討議を行う。 「基礎の指導プログラム」／「課題の指導プログラム」／反射・反応／姿勢／環境／連携	西郷建彦
授業評価アンケートに基づく改善点	プログラム作成のための演習の時間を多くとり、より実践的な力をつけていただけるようにしたいと思います。また今後とも、受講生の皆様のご要望、ご意見等を踏まえて改善してまいります。授業評価アンケートについてのご協力、何卒宜しくお願い致します。			
方略	重要となる学習項目や作成手順を理解し習得する。そのためには、実際に指導プログラムを作成し、受講生どうしのディスカッションやを通じて学ぶようにする。理解しにくい箇所については、質疑応答を丁寧に行い、解決していくようにする。			
連絡事項	選択する学習内容やそれらの組み合わせ・順番は、担当している教師の観察上の根拠によるもので良い。効果に疑問がある場合は、中間評価の時に、それぞれを検討してほしい。その中で、また観察する力も増すはずである。指導プログラムを繰り返し作成することで、教育的アプローチとは何かを問いかけるようにすること。 2025年前期より開講			

科目名	障がいの事例に応じた授業プラン－知的障がい編（S）				B	
	サブタイトル					
実務経験のある教員による授業科目						
対象学科	人間科学部 心身健康科学科					
担当教員	川端陽子					
担当教員の 実務経験	知的障害、肢体不自由特別支援学校に39年間の勤務経験あり。通学の学級・訪問教育の経験のほかに、専任の自立活動部の経験として、知的障害・肢体不自由併せて、10数年を有する。					
オフィスアワー	非常勤講師のため、UHAS@Myキャンパスでの質問箱で随時配布資料や課題についての質問を受け付けます。					
配当年次	1-4	選択	単位数	スクーリング履修：1単位		
授業形態	演習					
アクティブラーニング	有					
授業方法	面接授業					
資格等 関連科目						
科目コード	B339S					
科目区分	環境・社会と人間					
使用教材	教科書	授業中に資料を配布する。 配布する資料の中では、これまでの学修の中で紹介した教材・教具やさまざまな方向よりのアプローチを応用して、「どこを切り口にして個々の児童生徒に迫るか」を見極めることの大切さを伝える。				
	参考書等	・『特別支援教育の基礎・基本2020』、独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所著、「ジアース教育新社」、2020年、初版 ・『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』、文部科学省、平成30年3月				
授業概要 (目的・ねらい)	本科目は、知的障害の自立活動についての理解を深め、教育現場での実践能力をさらに高め、個々の児童生徒の実態に即した、個別の目標・内容について、指導者が自ら考え実践できることをねらいとする。その際に、心身健康科学の知識と連動した考えの基に、実践的な授業プランを展開できるようになる知識・技能を身に着けることを目的とする。					
キーワード	心身相関 / 知的障害の実態把握 / 自立活動の目標理解 / 困り感 / 個別の目標・内容					
一般目標 (GIO)	これまでの基礎編・応用編で学んだ自立活動の授業を行う上での知識・および、現在学修中の心身健康科学の知識・学びの視点を加えることで、様々な実態の児童・生徒のケースに対して、どのように授業を展開するかを考え、計画を立てる。 計画を立てるにあたり、多くの事例を知り、計画に反映させる。					
行動目標 到達目標 (SBOs)	1. 知的障害の児童・生徒の詳細な実態とその困り感の上に立って、どのような目標・内容で授業を展開しようとするか、重要とすべきポイントを、個々の事例に沿って、考え自ら応用し実行できるようにする。 2. 1の目的の為に、授業を組み立てるときに、各種教材・教具や手技を、幅広く、また臨機応変に使用法を変えて指導を行えるようになる。					
卒業認定・学位授与 の方針と本科目の 関連						
ディプロマポリシー との関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感性、創造力、表現力、自己教育力、生涯学習意欲、豊かな人間性 ■ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育				

		■ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力		
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。		
	学科	心身健康科学科に関連する項目 2. 専門的知識を自身や社会・職業上の問題関心と有機的に関連付けて問題を解決する能力を身につけていること 4. 現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に寄与できる能力を身につけていること		
カリキュラムポリシーとの関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る		
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る		
	学科	心身健康科学科に関連する項目		
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 ディスカッションにおける発言(20%)と講義中の実技等や実施する試験(80%)の総合評価とする。総合評価で60点以上を合格とする。			
課題に対するフィードバックの方法	講義に対する質問や実技の際に、教員が受講者の課題に対する理解度を確認しコメントを伝える。			
スクーリング履修での講義内容	授業計画			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員
	1時限	1.イントロダクション	1.前回の学修以後の、参加者それぞれの教育の場における、困難点、解決課題を出し合い、問題を明確にする。 本日は、参加者から出された事例を皆で検討することを、1つの目標とする。	
	2時限	認知を促す教材・教具の事例	実際の視知覚の教材・教具の操作の重要性について。 大小、長短など2つの比較から3つの比較への発達的重要性。	

	3時限	自立活動を日常生活で行うことの重要性、自立活動の「時間の指導」と、「関する指導」（その他の生活等）との関連について	自立活動の「時間の指導」と、「関する指導」（その他の生活等）との関連について着替えの指導、カバン等をフックにかけるなどの指導の工夫。（選択・選別、行動の順番、自己の意思の表出・表現等）	
	4-6時限	① 発語から、初めての一語文を発するようになった事例 (ルビンシュタイン症候群のKくん) ② 個別の自立活動の場面の事例 (中学で担任より体罰を受けてきた生徒の指導：不安な心の軽減を目標として、身体に触れる活動とストレッチポールを活用した事例) ③ 個別の自立活動の場面の事例 (衝動性の制御が目標となる発達障害の児童の事例：ストレッチポールの活用例) ④ 訪問教育 (学校経験が少ないために知的障害の状態にあるTさんの事例：心臓病の生徒のこと) ⑤ 個別の自立活動の場面の事例 (肢体不自由と知的障害を併せ持つ、重度障害の児童・生徒の指導：指示を聞けるようになるために) ⑥ 個別の自立活動の場面の事例 (自信の持てない生徒が元気になるために、肥満の軽減により、自分に自信がもてるようになった生徒の事例)	① 発語を促すために、重要なこと。(人間関係) ② 安心して1対1で関われる関係づくり(心理的な安定)ストレッチポールを活用することで、自ら自己をコントロールする手段を獲得する。(健康の保持、心理的な安定) ③ ストレッチポールを活用することで、自ら自己をコントロールする手段を獲得する。(健康の保持、心理的な安定) ④ 人とのかかわりを増やす取り組み(人間関係、コミュニケーション) ⑤ ブランコ、バランスポール、ストレッチポール、身体に触れる活動、認知的な教材学習をミックスしての取り組み(人間関係の形成、コミュニケーション) ⑥ ダイエットの取り組みをきっかけとして(健康の保持、心理的な安定)	
	7時限	1.イントロダクションで出された課題の検討 (グループワーク)	参加者から出された事例についての検討	
	8時限	1.イントロダクションで出された課題の検討 (グループワーク) スクーリング全体の感想発表	参加者から出された事例についての検討	
授業評価アンケートに基づく改善点	今期より新しく開講した科目となります。このため、評価アンケートデータはありませんが、受講生の皆様のご要望、ご意見等を踏まえて改善してまいりたいと思います。授業評価アンケートについてのご協力、何卒宜しくお願い致します。			
方略	心身相関の観点に立った児童・生徒の実態の捉え方について学修する。発達障害のほかにも知的障害の児童・生徒の有する様々な障がいの特性や、その配慮点について、個々にポイントを押さえ、現場で対応できるようにする。授業の展開の仕方としては、アクティビティを活用して、各学校の、「知的障害の自立活動」がどのように取り組まれているか、そこでの課題は何かを忌憚なく出し合い、現状の学校現場の課題を出し合い、何が課題なのかを明確にする。 障害そのものの捉え方、自立活動の目標の立て方がおのずと変わるような学修を行っていく。実技も交え、現場で使えるようにしたい。			
連絡事項	2025年度前期より開講			

科目名	いのちの倫理（T）／いのちの倫理（N）			
サブタイトル				
対象学科	人間科学部 心身健康科学科			
担当教員	吉田浩子			
担当教員の 実務経験				
オフィスアワー	原則として毎週火曜日9時-16時となります。まずはUHAS「質問」のタブから担当教員にメールでご連絡ください。オンライン、電話、対面でのやりとりには事前予約が必要で、予約は先着順となります。			
配当年次	1-4	選択	単位数	テキスト履修：2単位／インターネット授業履修：1単位
授業形態	講義			
アクティブラーニング				
授業方法	メディア授業 印刷授業			
資格等 関連科目				
科目コード	B401T/B402N			
科目区分	未来と人間			
テキストの変更 ・改訂	2023年度からの変更・改訂： なし			
使用教材	教科書	『生命倫理学』、青木清、人間総合科学大学オリジナルテキスト、（生命倫理学 別冊）		
	参考書等	「いのちをつくっていいですか」島園進 NHK出版 2016		
授業概要 (目的・ねらい)	現在、著しい生命科学の進歩に伴って開発された技術が医学薬学医療に応用される一方、それら科学技術と医療技術の進歩は私たち人間の生存に対してさまざまな問題を提起している。これらの問題に対して、生命倫理（バイオエシックス）の果たす役割は大きい。その根本にある、生命科学の時代の基本的な考え方は、人間の尊厳や生命の尊厳と、人間の生存を守ることにある。生命科学が21世紀に大きく発展して、健全な発展により人間の生存を守ることによって大きな力となるかどうかは、人々が生命倫理の知識を教養として持っているかどうかにかかっているだろう。本講義は、生命科学技術の発展に伴う様々な生命倫理上の問題を理解し、説明できるようになることを目的とする。さらに、動画視聴時に様々な作業を手元で実施することで、倫理上の問題を自ら発見し、考えを整理する手順を獲得することもねらいとする。			
キーワード	生命倫理/生命科学/いのちの価値/環境倫理			
テキストの内容 及びアドバイス	1. 人間の生存とバイオエシックス 2. 生命倫理に関する諸問題 3. ヒト・ゲノム研究 4. 脳死と臓器移植 5. 医療における倫理―患者の自己決定権とは― 6. 出生に関する倫理 7. 遺伝子治療 8. 安楽死と尊厳死 9. 人間の生存を考える 10. 環境倫理 テキストは、知識の整理と生命倫理の基本的な考え方を習得するために使用します。 動画で参照するテキストの章を提示していますが、テキストをそのまま読み進める講義ではなく、テキストに記述されていない最先端の内容も多く扱いますので、生命倫理の基礎のみを主として習得されたい方は、テキスト科目を履修することをお勧めします。			
一般目標 (GIO)	「いのちの倫理」/生命倫理の基礎知識を習得するのみならず、倫理的問題の所在を自ら発見し、内容を整理、その時々最善を考察するための手法を獲得する。			

行動目標 到達目標 (SBOs)	1. 「いのち」の倫理が求められている理由を説明できる 2. 生命科学と生命倫理の関連を説明できる 3. 個々のケースにおける生命倫理上の問題点を指摘できる 4. 生命倫理上の問題を整理し、解決の糸口を発見することができる 5. 様々な「生き方」あることを理解し、互いの尊厳を守るために必要なことを説明できる 6. 人間の生存基盤を説明できる 7. 提示された命題の論考に必要な情報を自分で探し獲得することができる 8. 科学技術の発展と人類の未来に関する自分の考えを説明できる	
卒業認定・学位授与 の方針と本科目の 関連	生命倫理は現代社会をより良く生きるための基礎教養のひとつであり、ディプロマポリシーにある「人間と社会の諸側面について学際的・総合的で幅広い知識」「現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、創造力・洞察力を持って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築という現代の科学的・社会的要請に対して応えようとする意欲と能力」の構築に寄与するものである。	
ディプロマポリシー との関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学習意欲、豊かな人間性 ■ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育 ■ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。
	学科	心身健康科学科に関連する項目 4. 現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に寄与できる能力を身につけていること
カリキュラムポリシー との関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る

		心身健康科学科に関連する項目		
	学科	2. 総合的、学際的に人間を理解するために「分野別科目」として、「こころとからだの関係」「いのちと健康のしくみ」「環境・社会と人間」「未来と人間」の4分野を設ける		
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 【テキスト履修】 評価は「科目修了試験」（100％）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。ただし、「テキスト課題」に合格（60点以上）した者が、「科目修了試験」を受験できる。 【インターネット履修】 評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 評価は「最終レポート」（100％）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。 ただし、各時限の「確認学修」を行い、全ての時限で合格（60点以上）した者が、「最終レポート」を受験できる。 最終レポート内の「記述問題」については、以下の項目に従って評価する。 ・ 指定文字数に従っているか。過不足がないか。 ・ 誤字、脱字がないか。 ・ 出題内容の問い、趣旨に答えているか。 ・ 文章が論理的か ・ 専門用語を適切、正確に使用しているか。 ・ 常体（『である』調）で記述されているか。 ・ 他人のレポートをコピー＆ペーストしていないか。			
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題について、必要時、個別にフィードバックを行う			
スクーリング履修における授業準備（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間	【予習】 テキストの資料編付録1 と用語編付録2 を概観しておくこと。生命倫理は人間の生存と弱者を守るという思想に基づいていることを理解すること。（1コマにつき2時間程度） 【復習】 生命科学の発展は急速で、最新の事象は常に変化しています。「参考書」だけでなく、興味のある事象についてインターネットで調べてみましょう。（1コマにつき2時間程度）			
スクーリング履修での講義内容	授業計画			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員
	1	生命倫理とは (テキスト I章 II章 III 章 VI章)	生命倫理とは何か、この分野の基礎的事項について、様々な「いのち」のあり方を考えながら学習する。 生命倫理の4原則／生命倫理の歴史／医療倫理	
	2	患者の権利 (テキスト V章 VII章)	患者の権利の背景となる基本的人権と、患者の権利を守るための基礎事項について学ぶ。 世界人権宣言／患者の権利／インフォームド・コンセント	
	3	いのちの始まり (テキスト VIII章)	いのちの始まりについて考えることを通して、人のいのちを考えることの難しさを学ぶ。 受精卵／胎児／母体保護法／優生学/臨床倫理の4象限	
	4	生きる (テキスト IV章 VI章)	人には様々な「生き方」があるが、どのような「生き方」が最善か、誰が決めることができるのか。自己決定のあり方について考える。 自律／自己決定権／4原則の対立/臨床倫理の4象限	
	5	いのちの終わり (テキスト IX章)	いのちの終わりについて考えることを通して、医療職者に必要な生命倫理の基本を学ぶ。 安楽死と尊厳死／死の受容過程	
	6	資源の分配 (テキスト IV,X章)	医療資源の分配について考えることを通して、その時々での最善の回答を見出すため	

			の問題の様々な整理方法を知る。 公平と平等／功利主義／徳倫理／正義論	
	7	環境倫理 (テキスト VI章)	私たちの生存の基盤は地球環境にある。生命倫理の一端である環境倫理の基礎を学ぶ。 地球環境問題／世代間倫理	
	8	健康を超えて (テキスト X章)	これまでの講義で学んだことを総合的に用いて、エンハンスメントを題材に未来に向けての「最善」を考える。 エンハンスメント/人間強化/人体強化/人間拡張	
授業評価アンケートに基づく改善点	アンケートへのご回答よろしくお願いします。なお、アンケートに「質問」を記載されると次年度の講義展開の参考にはなりますが、質問者に直接お返事することができません。質問があれば、「質問箱」から随時メールでご連絡ください。すみやかにお返事します。			
方略	テキストとメディアを用いて学習を進める			
連絡事項	○動画視聴時に手元で作業をする必要がある回があります。視聴時には必ず講義ノートと筆記用具をご用意ください。 ○ケース例はUHAS上で配布しています ○テキストには、生命倫理学を学習するにあたっての基礎となる資料として「ヒポクラテスの誓い」「ニュールンベルク綱領」「ヘルシンキ宣言－患者の権利章典－」「ジュネーブ宣言」「リスボン宣言」「国際看護師倫理綱領」が付されています。別冊を含め活用してください。ヘルシンキ宣言は2024年に改訂されましたので、ご興味があればその経緯を含めご自身で確認されることをお勧めします。 ○テキストの執筆者である故青木清は我が国における「生命倫理」「生命科学」と呼ばれる学問分野の創設者のひとりで、テキストはこの学問領域の基盤となる考え方を振り返るために最善です。ただし、最先端の事項は変化が急速でテキスト等で扱うことが常に困難です。すでに遺伝子組み換えにより作出された豚の心臓がヒトに移植される時代です。最先端の事象に興味のある方はご自身で調べ、質問等があれば直接吉田までメールでお問い合わせください。個人的あるいは特定のケースのご相談に応じることはできないので、あらかじめご了承ください。			

科目名	共生と環境(T)／共生と環境(N)			
サブタイトル				
対象学科	人間科学部 心身健康科学科			
担当教員	鍵谷方子			
担当教員の 実務経験				
オフィスアワー	金曜日13時～17時 場所：オンラインまたは蓮田キャンパス本館2階コミュニケーションラウンジ等、予約：UHAS@My キャンパスよりお申込みください。			
配当年次	1-4	選択	単位数	テキスト履修：2単位 / インターネット 授業履修：2単位
授業形態	講義 演習			
アクティブラーニング				
授業方法	メディア授業 印刷授業			
資格等 関連科目				
科目コード	B403T / B404N			
科目区分	未来と人間			
テキストの変更 ・改訂	2022年度からの変更・改訂： なし			
使用教材	教科書	『人間科学論―人間と環境―』、佐藤優子編著（人間総合科学大学オリジナルテキスト）		
	参考書等	『生理学』、内田さえ他、「医歯薬出版社」		
授業概要 (目的・ねらい)	高度に発達した文明社会に生まれ育つ現代の人間は豊かな文明を享受できる一方で、急速に変化する自然や社会環境に適応することを迫られている。人間科学論では人間が長い歴史の中で自然環境や社会環境にどのように働きかけ、どのように適応してきたかについて学ぶ。さらに科学や産業が発達し、人間が活動を広げる中で、地球が大規模に破壊されつつあり、人間がそれに新たに対応している様子を学ぶ。次世代が心身ともに充実して自然と共に生を楽しむ地球環境を作るために私達は何ができるかを考える。			
キーワード	地球環境と人間 / 心身の発達と環境 / 内部環境と身体の健康 / 社会環境と適応 / 持続可能な開発			
テキストの内容 及びアドバイス	【テキスト履修】 第1章 現在人間が住んでいる地球環境は人間のみに与えられたものではなく、他の生物と共有するものである。人間と自然との関わりについて学び、人間が作った文化と適応する人間について考える。⇒目標1 第2章 他の生物に比べて成長の遅い人間の心身の発達に家庭や学校環境が与える影響が大きい事を学ぶ。そうした環境との関わりの中で人間らしさが生涯にわたって発達することを学ぶ。⇒目標2 第3章 人間は環境の変化に適応して身体の恒常性を保つ仕組みを備えている。人間の身体が備えている環境への適応力について学ぶ。ただし、その仕組み限られていることを学ぶ。⇒目標3 第4章 生活環境が急速に変化する今日において、日常の生活習慣や人間による環境汚染がもたらす疾患やその予防について学び考察する。⇒目標4 第5章 近年問題となっている主な環境問題について学ぶ。地球環境を破壊することなく、文化の発展を持続するための社会システム作りについて考える。⇒目標5 【インターネット履修】 テキストに沿って、理解を助け深めるための補足的事項・資料を加えながら講義を進めていく。人間と環境との関わりについて、大きく進化の観点から人間と自然環境との関わりを、人間一人一人の観点から人間らしさの生涯発達と社会環境との関わり、人間の身体の仕組みの観点から環境適応のメカニズムについて学ぶ。さらに、近年急速に変化する生活環境の中で人々の健康に及ぼす環境の影響について学ぶ。最後に、人間が自然環境に積極的に働きかけ快適な環境を作って適応してきた過程で、その弊害として地球環境が急速に破壊されつつある諸問題について学ぶとともに、人間は学修や洞察による優れた社会的環境適応能力を発揮し、新たな社会システムを作るべく力をあわせ始めていることを学ぶ。			
一般目標 (GIO)	人間と環境との関わりについて、進化の観点から自然環境との関わり、ライフサイクルの観点から生涯発達と社会環境との関わりなど、様々な環境と人間との関わりを学修し、人間についての統合的理解を深める。			

行動目標 到達目標 (SBOs)	1. 地球環境の変化と生物の進化の相互作用について説明できる。 2. 環境の変化と人類の歴史との関連について議論できる。 3. 内部環境維持機構の限界について説明できる。 4. 社会環境変化と健康について議論できる。 5. 持続可能な発展の考え方について説明できる。	
卒業認定・学位授与 の方針と本科目の 関連	本科目により、人間と人間をとりまく環境について、学際的・総合的な知識を身につける。学修を通して自立と共生の心を培い、心身ともに健康で豊かに暮らすことのできる社会構築の支援に向けた洞察力を養う。	
ディプロマポリシー との関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学習意欲とする意欲、豊かな人間性 ■ 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 2. 専攻する学部・学科の専門科目を通した医療・健康・食・栄養の専門職教育 ■ 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 ■ 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力
	学部	人間科学部 人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。
	学科	心身健康科学科に関連する項目 2. 専門的知識を自身や社会・職業上の問題関心と有機的に関連付けて問題を解決する能力を身につけていること 3. 「こころ」「からだ」「環境・社会」の統合的・学際的な知識を持っていること 4. 現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に寄与できる能力を身につけていること
カリキュラムポリシー との関連	大学	人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学部	人間科学部 人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。 1. 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 2. 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 3. 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 4. 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 5. 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る
	学科	心身健康科学科に関連する項目
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 【テキスト履修】	

	評価は「科目修了試験」（100％）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。ただし、「テキスト課題」に合格（60点以上）した者が、「科目修了試験」を受験できる。 【インターネット履修】 評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 評価は「最終レポート」（100％）で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。 ただし、各時限の「確認学修」を行い、全ての時限で合格（60点以上）した者が、「最終レポート」を受験できる。 最終レポート内の「記述問題」については、以下の項目に従って評価する。 ・指定文字数に従っているか。過不足がないか。 ・誤字、脱字がないか。 ・出題内容の問い、趣旨に答えているか。 ・文章が論理的か ・専門用語を適切、正確に使用しているか。 ・常体（『である』調）で記述されているか。 ・他人のレポートをコピー＆ペーストしていないか。			
課題に対する フィードバック の方法	テキスト課題合格時に「解答・解説」を表示			
スクーリング履修 における授業準備 （予習・復習）の 具体的な内容及び それに必要な時間	【予習】 スクーリング前にテキストを読み、「人間と環境の関わり」について、理解を深めておく。（1コマにつき2時間程度） 【復習】 スクーリングでの学修をふまえ、テキストを再度読み理解を深める。（1コマにつき2時間程度）			
スクーリング履修 での講義内容	授業計画			
	時限	学習内容	キーワード（重要語句）	担当教員
	1時限	第Ⅰ章 人間と自然・文化的環境 太陽系で生物の住める唯一の天体である地球環境の生成と人間の地球環境への適応の過程を学ぶ。	地球環境、生命、酸素、水、二酸化炭素	鍵谷
	2時限	人間が自然環境に働きかけて住みやすい環境を作る過程で、人間自身が発達し、感性を磨き、文化を発達させてきたことを学ぶ。	生物圏、生態系、文明の発達	鍵谷
	3時限	火や電気の利用、農耕、産業革命による都市社会の形成や情報技術社会の到来で大きく変化した新しい生活環境に、人間が影響をうけ適応していく事実を学ぶ。	農耕、産業革命、都市社会	鍵谷
	4時限	第Ⅱ章 人間らしさの生涯発達に及ぼす環境の影響 人間らしさに反映される精神機能が、内的、外的環境の影響を受けて発達することを学ぶ	人間らしさ、生涯発達、前頭前野	鍵谷
	5時限	人間の心と身体が相互に関連し合いつつ、環境の影響のもとに発達する様子を学ぶ。	愛着、環境、心身の発達	鍵谷
	6時限	人間らしさの形成に重要な乳幼児期の保育と児童期の教育に焦点を置き、保育や教育の歴史から保育や教育が社会の影響で変わり、人間発達に影響することを学ぶ	保育、教育、学校制度	鍵谷
	7時限	第Ⅲ章 人間の環境適応のメカニズム 身体は周囲の環境変化に常に対応し、身体にとっての最適な条件を内部に作って対応している様子を学ぶ。	ホメオスタシス、内部環境、細胞、適応	鍵谷
	8時限	外部環境の影響で内部環境がずれたときに元に戻す仕組みや、影響が大きく元には戻せない場合の障害について学ぶ。	外部環境、体液のバランス、酸素	鍵谷
	9時限	地球の環境は昼と夜、季節などのリズムで変化する。環境リズムの変化に対する人間の適応の仕組みと、自然のリズムを人為的	体温、サーカディアンリズム、ウルトラディアンリズム	鍵谷

		に乱した時の身体の対応や障害について学ぶ。		
	10時限	第Ⅳ章 人間の健康と環境の影響 医療の発達や公衆衛生環境の改善は、身体的な健康の維持に大きく寄与した事実を学ぶ。	健康、健康寿命、社会環境	鍵谷
	11時限	糖尿病などの生活習慣病は増加しているが、望ましい生活習慣を楽しみながら実行することで予防できることを学ぶ。	生活習慣と健康、生活習慣病、糖尿病、骨粗鬆症	鍵谷
	12時限	増加するアレルギー性疾患、次世代にわたる健康障害が懸念される環境ホルモンなど、最近話題になっている新しい健康被害についても触れる。	アレルギー性疾患、環境ホルモン、有害物質	鍵谷
	13時限	第Ⅴ章 環境問題の出現と人間の対応 人間は自然環境に働きかけ快適な環境を作り適応してきた。その弊害として地球環境が急速に破壊されつつある現状を学ぶ。	地球環境問題、公害、循環型社会、持続可能な開発	鍵谷
	14時限	主要な地球環境問題の成り立ちや特徴、現状を学ぶ。	地球温暖化、オゾン層の破壊、森林破壊、海洋汚染など	鍵谷
	15時限	現在の世界中の市民・行政・企業が協力しあって、持続的に発展可能な循環型の社会を築こうとしている現状を学ぶ。	環境保全運動の歴史、市民・行政・企業の取り組み、エネルギーの変換	鍵谷
授業評価アンケートに基づく改善点	科目内容の理解を深めるうえで大切な「質問」に対し、引き続き継続的に適切に対応するよう努めてまいります。テキスト履修を進める中で抱かれた疑問や関心を担当教員に質問することは、科目内容の理解や深化に大きく役立つことと思います。積極的にマイキャンパスからの「質問」を活用いただければと思います。			
方略	インターネット授業の受講と並行してテキスト履修を進めると学修を進めやすい。			
連絡事項	2018年度～人間科学論より科目名変更			

科目コード	2026年度 スクーリング科目 後期	日程		会場等
B148S	自立活動の指導の実際 入門編（S）	10月3日(土)	10月4日(日)	東京サテライト
B151S	知的障がいと自立活動の基礎（S）	10月10日(土)	10月11日(日)	東京サテライト
B149S	自立活動の指導の実際 基礎編（S）	10月17日(土)	10月18日(日)	東京サテライト
B256S	教育と神経生理学（S）	10月31日(土)	11月1日(日)	オンライン授業※
B150S	自立活動の指導の実際 展開編（S）	11月7日(土)	11月8日(日)	東京サテライト
B152S	知的障がいと自立活動の応用（S）	11月28日(土)	11月29日(日)	東京サテライト
B153S	自立活動の指導の実際 生活編（S）	12月5日(土)	12月6日(日)	東京サテライト
B339S	障がいの事例に応じた授業プラン-知的障がい編（S）	12月19日(土)	12月20日(日)	東京サテライト
B338S	障がいの事例に応じた授業プラン-肢体不自由・重度重複編（S）	1月16日(土)	1月17日(日)	オンライン授業※

※ オンライン授業は、安定したインターネット環境や静かな受講場所、使用端末の準備などを整えた状態で受講してください。